

國家ハ統治權ノ主格ナリ

梅博士(民法原理總則編卷ノ一一七七頁)ノ說

國家ハ權利義務ノ主格ナリ

牧野博士(現代ノ文化ト法律九頁)ノ說

近世ノ法制ニ於テハ法律ハ主權者タル國家カラ官吏ト人民トノ上ニ平等ニ示サレタルモノデアアル

國家ト君主トハ同一體ナリ其故ニ君主國ニ於テハ國家即チ君主ハ統治權ノ主體ナリト論スル者アリ然レトモ此說ハ頗ル技巧ニ過キタル思考ナリ法學ノ力ハ未タ以テ君主ヲ國家ト爲シ國家ヲ君主ト爲スノ奇術ヲ有スルモノニ非ス

ホルンハツク(普國國法論第一卷六四頁六五頁)ノ說

國家ハ統治權ノ主體ナリ然レトモ君主國ニ於ケル統治權ノ主體ハ君主ナリ其故ニ國家ト君主トハ統治權ノ同一主體ナリ

穂積八束博士(憲法提要五二頁五五頁一九八頁二一三頁)ノ說

國家ハ統治權ノ本體ナリ國家ノ法律意思ハ主權ナリ國家ノ法律意思ハ自然意思ニ成ル國家ノ法律意思ヲ成ス自然意思ハ天皇ナリ其故ニ天皇ト國家ハ法理上同一體ヲ成シテ分離スヘカラス略言スレハ天皇即チ國家ナリ

寬博士(國家之研究一六頁)ノ說

天皇ハ其表現行爲ニ付テハ國家ナリ

仁保博士(京都法學會雜誌第一二卷第一號國體ヲ論ス)ノ說

天皇即チ國家ナリ

清水博士(第一〇版憲法篇二六四頁)ノ說

我國ニ於テハ統治權ハ國家ニ歸屬スルト同時ニ天皇ニ歸屬シ國家ト天皇トハ此點ニ於テ相同化シ一アリテ二ナキモノニシテ統治權ノ主體ハ國家即チ天皇ナリトス

上杉博士(法學協會雜誌第二九卷第一號國體及政體)ノ說

國家トハ法律上統治權ノ主體タル抽象的人格ナリ此抽象的人格ヲ組織スル實體ハ自然人ナリ之ヲ統治權ノ總攬者ト言フ君主國體トハ一人ヲ以テ國家タル法律上ノ人格ヲ構成スル統治權ノ總攬者ト爲スモノナリ

同博士(憲法述義一八九頁一九三頁)ノ說

我國ニ於テハ國家ハ天皇ナリ天皇ハ國家ナリト言フコトヲ得

同博士(法學協會雜誌第三五卷第一號大學ヲ讀ム)ノ說

天皇ハ國家ナリ

其說ク所ノ論理ノ組立ニ於テハ各異ナレトモ國家ヲ以テ統治權ノ主體ナリトスル說ハ現時甚有力ナリ統治權ノ主體タルヘキ實體カ君主貴族及國民タ

ルコトヲ得ルカ君主、貴族、國民及神タルモ妨ケナキカ君主及國民ニ限ルモノナルカ國民タラサルヘカラサルモノナルカ將又國家ノ外ニ在ラサルモノナルカハ其主體タルヘキ實體ノ性質上定マラサルヘカラサルモノニシテ流行説又ハ時代思想ニ依リテ定マルヘキモノニ非ス眞理ハ時代ニ依リテ變化スルモノニアラス大多數ノ流行説必スシモ眞理ニ適スルモノタルコトヲ保セス眞理ハ天地ト共ニ變更スルコトナシ爾カモ最初ノ發見者ハ常ニ一人タルヘシ

美濃部博士(日本國法學六三頁)ノ説

統治權ハ近世ノ國家ニ於テハ唯國家ニノミ專屬ス

同博士(國家學會雜誌第二六卷第一〇號國家及政體論)ノ説

國家カ統治權ノ主體タルコトハ西洋ニ於テモ我國ニ於テモ大多數學者ノ定説ナリ

同博士(太陽第一八卷第一〇號上杉博士ノ「國體ニ關スル異説」ヲ讀ム)ノ説

國家ヲ以テ一ノ團體ナリトシ法律上ノ人格ヲ有スルモノトシ此團體人格者タル國家カ最高統治權ヲ保有スルモノナリトスルハ余一家ノ私言ニ非ス大多數ノ國法學者ノ公論ナリ又近代ニ於ケル一般國家思想ノ存スル所ナリ

市村博士(國家及國民論五〇頁)ノ説

國家ヲ統治權ノ主體タル法人ト解スルモノハ近世ノ文明諸國ニ於ケル必要ニ基クモノニシテ時ノ古今洋ノ東西チ間ハス苟モ國家ナラハ皆斯ノ如ク解スヘキモノナリト主張スルモノニ非ス

法律學ハ法律ノ解釋ニ止マリ法律ハ必要ニ應シテ制定シタルモノナルカ故ニ時代ヲ追フテ其解説スル所ニ變化アルヘシト雖モ法學ハ眞理ヲ究索スルモノニシテ眞理ハ時代ニ依リ變化スルモノニ非サルカ故ニ統治權ノ主體カ眞理ニ因リテ存在スルモノナリヤ否ヤヲ究明シ眞理ニ因リテ存在スルモノナルコトヲ認識シタルトキハ眞理ニ因リテ國家ヲ論セサルヘカラス余ハ統治權ハ眞理ニ因リテ存在スルモノト信スルカ故ニ眞理ニ因リテ國家ヲ論究セントスル者ナリ

美濃部博士(法學協會雜誌第三三卷第八號再ヒ剩餘金支出問題ヲ論シテ清水市村佐々木博士ニ答フ)ノ説

法律學ハ實際生活ノ學問ニシテ人類ノ實際生活ノ必要ヲ充タスコトヲ以テ法律學ノ任務トス法律學ヲ以テ單ニ論理ノ學問トスルコトハ法律學ノ目的ヲ根本的ニ誤レルモノナリ

國家ハ眞理ニ因リテ存在スルモノナルカ故ニ何國ノ國家モ其性質ニ異同アルコトナシ即チ國家ナルモノハ普遍的性質ヲ有シテ世界中何レノ國家モ同質ノモノナラサルヘカラス馬ト牛ト異ナル如ク甲國ト乙國ト其性質ヲ異ニスルモノニ非ス故ニ日本モ英國モ米國モ皆同性質ノ國家タリ君主主體國ト非君主主體國ト其國家ノ性質ヲ異ニスヘキモノニ非ス

美濃部博士太陽第一九卷第六號近時ノ政界ニ於ケル憲法問題ノ説

國家ナルモノハ日本ニ限ラス世界普通ノ現象ナルヲ以テ日本ニノミ特有ナル定義ヲ下スヘキモノニ非ス總テノ國家ニ當テマルコトヲ得ル定義ヲ下ササルヘカラス

同博士國家學會雜誌第二六卷第八號國家及政體論ノ説

世界ニ國ヲ建ツルモノハ固ヨリ多シ其建國ノ體制國民ノ性情ハ各國皆異ナリト雖モ少クトモ其國家タル性質ヲ有スルコトニ於テ各國皆共通ナリトセハ國家ノ觀念及國家タルコトニ伴フ必然ノ性質ハ必ス又總テノ國家ニ共通ナルモノナラサルヘカラス

東洋ニ於テ古來國ト言ヘル語ハ領土ヲ指シ家ト言フ語ハ住居ヲ稱シ又系統家閥ヲ言ヒタルモノナリ昔時國家ナル語ヲ用ヒサルニ非サレトモ其國ト家トヲ連結シテ廣ク之ヲ國家ト言フハ寧ロ近時ノコトニシテ國ハ家ヲ擴大シ

シタルモノト同一觀念ノ下ニ置カントスル考ヨリ起リタルモノナリ然レトモ此觀念ハ同一國民族ヲ以テ組織シタル國家ニ就テ在リ得ルモノニ過キス現時用フル所ノ國家ナル語ハ Staat, State ノ意義ナリ Staat, State ハ其最初政治ノ意味ニ用ヒ後ニハ政治ノ區域又ハ權威ノ範圍ニ用ヒ又政治的集合體ニ用ヒタルモ現時ハ統治團體ノ意味ニ用フルナリ

ブルンチエリ(國家論第一卷第二節)ノ説

國家ハ統治ヲ行フ爲メ一定ノ領土ニ於テ組織シタル人民團體ナリ

オ、マイヤー(獨逸行政法論第一章緒論第一節)ノ説

國家トハ最高權力即チ國家ノ下ニ國民ヲ結合セル行爲能力ヲ有スル一團體ナリ

エリネツク(公權論總論第三節)ノ説

國家ハ一定ノ領土ニ定住シ統一ノ權力ニ依リ支配セララルル國民團體ナリ

グ、マイヤー(獨逸國法論緒論第二章第一節)ノ説

國家ハ一定ノ領土ヲ基礎トスル人ノ共同團體ナリ

ザイデル(巴國國法論第一卷一七〇頁)ノ説

國家ハ一定ノ土地ノ上ニ於ケル人類カ高キ意思即チ統治者ノ意思ノ下ニ團結シタルモノナリ

- 同氏(一般國家學講演五頁)ノ説  
國家ハ統治權ニ服従スル土地及人民ナリ  
加藤博士(國家ノ統治權一五頁—二〇頁二九頁三〇頁)ノ説  
國家ハ人類ノ共同團體ナリ  
穂積八束博士(憲法提要一頁)ノ説  
國家ハ一定ノ民族一定ノ領土ニ據リ獨立ノ主權ヲ以テ之ヲ統治スル團體ナリ  
美濃部博士(日本國法學四一頁)ノ説  
國家ハ一定地域ヲ基礎トスル法人ニシテ自己ニ固有ナル統治權ヲ有スルモノナリ  
同博士(帝大行政法講義)ノ説  
國家トハ其土地ヲ基礎トスル人類團體ニシテ最高獨立ノ意思力ヲ有スルモノナリ  
寛博士(國家之研究二二五頁)ノ説  
國家ハ自主團體ナリ  
上杉博士(帝國憲法綱領一頁)ノ説  
國家ハ一定ノ土地ニ據在シ一定ノ多數人カ一定ノ主權者ニ依リテ統治セラルル團體ナリ  
同博士(帝國憲法述義二二頁)ノ説  
國家トハ一定ノ土地ヲ限リ一定ノ主權ノ下ニ一定ノ多數人類カ形成スル所ノ團體ナリ

清水博士(憲法篇四五頁)ノ説

國家トハ一定ノ土地ノ上ニ統一的ニ組織セラレタル人民ノ團體ナリ

同博士(第一〇版憲法篇三頁)ノ説

國家トハ一定ノ土地ニ定着シ而カモ固有ノ統治權ニ依リ結合セラレタル人民ノ團體ヲ指稱ス

織田博士(法學通論一〇〇頁)ノ説

國家トハ一定ノ土地ニ於テ統治組織ヲ有スル人類ノ團體ナリ

同博士(改訂法學通論一〇四頁)ノ説

同論

千賀博士(國際公法要義七三頁)ノ説

國家トハ一定ノ土地ト人民トヲ基礎トシテ起リタル政治的社團法人ニシテ且ツ主權ノ全部若クハ一部ヲ有スルモノナリ

市村博士(憲法要論四頁)ノ説

國家ハ一定ノ領土ノ上ニ於テ人類ノ多數カ最高意思ヲ有スル統治者ニ服従スル狀態ナリ

同博士(國家及國民論五〇頁)ノ説

國家ハ人格ナリ從ヒテ法人ナリ即チ統治權ノ主體ナリ

同博士(帝國憲法論一二頁)ノ説

第三章 統治權ノ主體 第二節 主體ノ實體

同論

遠藤博士(國際公法要論五七頁)ノ説

國家トハ一定ノ領域ニ居住シ最高主權ノ下ニ統率セラレタル人類ノ政治的團體ニシテ  
永久的性質ヲ有スルモノナリ

同博士(明大講義平時國際法論三五頁—三七頁)ノ説

同論

井上博士(内外論叢第二卷第一號國家論)ノ説

國家トハ統治權ノ下ニ一定ノ土地及複數人類カ統合セルモノナリ

同博士(内外論叢第二卷附錄憲法講義要録)ノ説

末岡博士(比較國法学二八五頁)ノ説

國家トハ何ソヤ曰ク一定ノ土地ヲ有シ統治ノ組織ヲ定ムル固有ノ權ヲ有シ又ハ統治權  
ノ全部若クハ一部ヲ固有スル團體ヲ爲ス人民カ統治ノ組織ヲ爲スモノナリ

小野塚博士(政治學大綱上卷一〇一頁)ノ説

國家トハ一定ノ土地ニ於テ統治組織ヲ有スル繼續的人類社會ナリ

立博士(平時國際公法二四頁)ノ説

國家トハ一定ノ領土、人民ヲ有スル主權ノ主體ニシテ永久的性質ヲ備フルモノナリ

副島博士(日本帝國憲法論四頁)ノ説

團體

國家ハ人類ノ領地的團體ニシテ統治權ノ主格ナリ

國家ヲ論スル者ノ多クハ國家ヲ以テ團體 (Genossenschaft, Corporation) ナリトセ  
リ伊藤公爵(帝國憲法義解三八頁)モ國家ヲ共同生存ノ目的ノ爲ニ存スルモノ  
ナリト論スル趣意ナルヲ以テ團體説ヲ認ムルモノノ如シ余モ國家ヲ以テ團  
體ナリト認ムル者ナリ即チ國家ハ共同生存ノ團體ノ一ナリ然レトモ一般團  
體論者ノ如ク國家ヲ共同生存ノ目的ヲ以テ多數人類ノ結合シタル團體即チ  
其組成員カ生活ヲ共同ニ營ム目的ヲ以テ集合團結シタルモノナリト論スル  
者ニ非ス

論者ノ論スル如キ團體モアルヘシ然レトモ凡テノ團體ハ必シモ其組成員ノ  
共同意思即チ一致ノ意思ヲ以テ成立スルモノニ非ス一致ノ意思ヲ有セサル  
ノミナラス氷炭相容レサル所ノ者ヲ緊結シテ組成シタル團體モアルナリ其  
故ニ法學上團體ナルモノハ團體員ノ一致結合シタルモノト團體員ノ一致結  
合シタルモノニ非サルモ他力ヲ以テ緊結シタルモノトニアリト謂フヘシ

エリホツク(組織論二五六頁二五七頁)ノ説

第三章 統治權ノ主體 第二節 主體ノ實體

法人ノ共同意思カ其中心ヨリ發生スルモノナルトキハ社團ナリ

ローレン(團體法論四八頁)ノ説

社團ハ結合シタル多數ノ共同目的及共同意思カ單一ナル人格ノ目的及意思トシテ現ハルルモノナリ

穂積陳重博士(五人組制度第七章)ノ説

原人未開時代ニ在リテハ血族相結ヒ團體ヲ爲スニ止マルモ智識稍々發達スルニ從ヒテハ共同生活ノ利益ヲ自覺スルニ至リテ同地居住ノ關係ヲ以テ他族ノ者ト相依リテ地域團體ニ變移シ更ニ人智開發ノ程度ノ進歩スルトキハ人ノ相結ヒテ團結ヲ爲スモノ必スシモ血族ニ依ラス又必スシモ地域ニ基カス各其共同ノ目的ノ下ニ凝集團體ヲ成スモノナリ

穂積八東博士(憲法提要一頁)ノ説

團體ハ人ノ相依リテ合同ノ生存ヲ全クスルモノナリ合同生存ハ人ノ天性ナリ家ヲ成シ部落ヲ成シ國ヲ成シ以テ其合同ノ生存ヲ完フスルモノナリ

美濃部博士(日本國法學六頁)ノ説

多數人類カ集合シテ共同生活ヲ爲シ其全體ヲ以テ組織アル一體ヲ爲セルモノ即チ團體ナリ

同博士(憲法講話二頁)ノ説

團體トハ共同ノ目的ヲ以テスル多數人ノ結合ナリ多數人カ一致協力シテ其合同の力

ニ依リテ其目的ヲ達セントスル場合ニノミ之ヲ團體ト云フ

同博士(帝大行政法講義)ノ説

團體トハ共同ノ目的ヲ有スル多數人ノ繼續的結合體ナリ

同博士(國家學會雜誌第二六卷第八號國家及政體論)ノ説

共同目的ヲ有スル多數人ノ結合體ハ之ヲ團體ト謂フ共同ノ目的ハ全體ノ目的ナリ國家ヲ團體ナリト云フハ國家ヲ架空想像物即チ思想ノ產物ニ止マリ現實存在ヲ有セサル無形ノ空想ナリト爲スヘカラス多數人カ相共同シテ團體的生活ヲ爲セルコトハ現存ノ事實ナリ

同博士(太陽第一八卷第一〇號上杉博士ノ「團體ニ關スル異説」ヲ讀ム)ノ説

團體ハ目的ヲ同シクセル多數人ノ組織スル結合體ナリ

同博士(日本行政法五七一頁)ノ説

凡テノ法人ハ皆人類ノ團體ナリ凡テノ法人ノ中心點タルモノハ或一定ノ目的ニシテ此目的ノ爲ニ結合スル多數人類ノ集合カ即チ法人ナリ

清水博士第一〇版憲法篇三頁)ノ説

團體トハ目的ヲ同フスル多數人ノ結合ヲ云フ

市村博士(國家及國民論四八頁)ノ説

團體ト云フハ多數人類カ共同生活ノ目的ヲ以テ單位ニ結合シタルモノナリ

余ハ其一致結合シタル團體ヲ一致團體又ハ自成團體ト稱シ其他力ニ因リテ成ル所ノ團體ヲ強制團體又ハ他成團體ト稱ス其一致團體又ハ自成團體ト稱スルモノハ政黨、學會、會社、組合、其他團體員ノ一致團結即チ自意投合ニ因リテ成リタル所ノ團結體ノ全部ニシテ其強制團體又ハ他成團體ト稱スルモノハ國家、公共團體其他法令ニ依リテ成リタル團結體ノ全部及法令ニ依ラスシテ個人間ニ在リテモ強者ノ強制ニ因リテ成リタルモノノ全部ナリ一致團體ハ一致即チ團體員ノ意思ノ離散セサル限り存在シ強制團體ハ強制力即チ緊結スル所ノ力ノ存スル限り存在スルモノナリ其強制團體中ニハ偶然團體員ノ一致結合セルモノノ存在スルコトアルモ必スシモ常ニ團體員ノ一致結合セルモノニ非ス若シ國家ヲ以テ國民ノ一致結合シタル一致團體タラサルヘカラサルモノトセハ其國家中國民ノ一致結合ノ意思ヲ有セサル者及離脫背反ノ意思ヲ有スル者ハ團體員ニ非ス從ヒテ國民ニ非スト爲ササルヘカラサルニ至ルヘシ他國ヲ併合シ又ハ他國領土ノ分割ヲ得タル場合ニハ其地上ニ在ル前國家ノ國民タル人民ハ決シテ併合國又ハ獲得國ノ國民ト一致結合スル

意思ヲ有スルモノニ非ス却テ對敵恢復ノ謀意ヲ有スル者多シ此場合ニ在リテ國家ハ一致結合ヲ要ストセハ新領民ハ國民タルコトヲ得サルモノト謂ハサルヘカラサルニ至ルナリ又一國中或地域ニ在ル全國民カ分國又ハ謀反ノ意思ヲ生シタルトキハ當然國家ヲ分立シタルモノトセサルヘカラス其故ニ北米合衆國ハ英本國ニ對シ獨立戰ニ勝タストモ獨立ノ意思ヲ生シタルトキハ一致結合ヲ缺キタルモノナルヲ以テ其獨立ノ意思ヲ生シタルト同時ニ一國ヲ建設シタルモノト爲ササルヘカラサルニ至ルナリ是レ國家ヲ一致結合ノ團體ト爲スノ誤想ニ基因スル論結ナリ

穂積八束博士憲法提要五頁ノ說

團體ニ二アリ一ハ各人平等ノ權ヲ以テスル自意投合ニ成ルモノニシテ之ヲ平等團體ト  
言ヒ他ハ強大ノ權力ノ在ルアリ衆多ノ之ニ服從スルニ由リテ成ルモノニシテ之ヲ權力  
團體ト言フナリ

一致團體ト多數團體トハ同一ニ非ス一致團體ハ全體員ノ一致結合スルモノナルコトヲ要スルモ多數團體ハ團體員中ノ多數ノ者カ一致結合スレハ足レリ少數ノ者ハ一致結合ノ意思ヲ有セサルモ可ナリトスルモノナリ國家ヲ

以テ多數團體ナリト爲ス者アリ然レトモ一致結合ノ意思ナキ者ハ如何ニシテ國民タルコトヲ得タリヤ生レナカラニ國家ノ一員タル者ハ誰ニ依リテ國家ノ一員トセラレタルモノナリヤ領土併合又ハ領土割讓ノ場合ニ於ケル新領民ヲ國民ト爲スニ付テハ如何ニシテ其一致結合ヲ得タリト爲スヤ又其自由意思ニ因リテ團體員トナリ國民トナリタル者モ國民タルコトヲ忌ミ離脱背反ノ意思ヲ生シタルトキハ一致結合ヲ切斷スルモノナルヲ以テ國家ヨリ離去シタルモノトセサルヘカラスルモ其之ヲ猶國民トシテ存在セシムルハ誰ノ行爲ナリヤ斯ノ如ク國民中ニハ一致結合ノ意思ナク生レナカラニシテ國民タル者アリ新領民ノ國民ト爲リタル者アリ又離脱背反ノ意思ヲ有スル國民ノ存在スルコトアルヘシ其等ノ場合ニハ例外トシテ其一致結合ヲ要セスト爲スコトヲ得ルモノトセハ國家ヲ一致團體ナリト言フノ要ナク又國家ヲ一致團體ナリト言フヘキモノニ非ス殊ニ生レナカラニシテ國民タル者ハ國民中大多數ナルカ故ニ一致結合ノ意思ヲ以テ國民ト爲リタル者ハ眞ニ僅少ナリト言ハサルヘカラス從ヒテ國家ヲ多數團體ナリト言フモ非ナリ元來

多數團體ナルモノハ團體中多數ノ者カ一致結合ノ意思ヲ有スル場合ニハ少數ノ者カ一致結合ノ意思ヲ有セサルモ團體員ト看做スモノナルヲ以テ即チ強制團體タリ其故ニ多數團體ナルモノハ強制團體及ヒ一致團體ノ外ニ別在スルモノニ非ス強制團體ノ一種トシテ認ムヘキモノナリ領土ニ在ルノ故ヲ以テ國民ト爲スニ於テハ無國籍者タル在留人ハ凡テ國民ト爲ルニ至リテ國家ハ團體ナリト言フヨリハ在留者ノ全部ナリト言フノ至當ナルニ似タリ更ニ遡リテ建國ノ當初ヲ案スルニ其領有セントスル土地ノ上ニ居ル者ノ一致結合ヲ得サルヘカラストセハ一々其意思ヲ確メサルヘカラス然ルニ實際ニ建國シタル事情ヲ見ルニ單ニ強者カ其領土内ニ居ル人類ノ意思ノ如何ヲ問ハス統治抑制スルモノナルコト恰カモ臺灣及朝鮮ニ於ケルカ如シ其統治抑制ニ服從セサル者ハ彼ノ生蕃討伐暴徒討伐ノ如ク攻略シテ以テ國民ト爲スモノナリ其故ニ余ハ人類ヲ國民ト爲スハ建國前ニ在リテハ建國者ノ強力建國後ニ在リテハ統治權ノ行使ニ基クモノナリ其故ニ生レナカラ國民タルハ統治權ノ行使ニ基因シ歸化人及新領民ヲ國民ト爲スモ統治權ノ行使ニ成リ



難脱背反ノ意思ヲ有スル者ヲ猶國民トシテ存續シ國民ノ義務ヲ免カレ得サ  
ラシムルモ統治權ノ行使ニ因ルモノト爲シ統治者カ國民分限ヲ定ムルニハ  
決シテ其意思ヲ問フコトナク又問ハスシテ定メ得ルモノナルヲ以テ國家ハ  
國民ノ一致團體ナリト言フハ非ナリ論者ハ日本ノ如キ國民ノ忠君愛國ノ念  
ニ堅ク團結セル状態ヲ見テ凡テノ國家ハ國民ノ一致團體ナリト言フニ在ル  
トキハ誤ナリ一致結合ハ或國家ノ偶發状態ニ外ナラス凡テノ國家ハ一致團  
體ナラサルヘカラサルモノニ非ス國家ヲ以テ一致團體ナラサルヘカラサル  
モノトセハ世界中日本ヲ除キテハ殆ント國家トシテ存立シ得ルモノアラサ  
ルヘシ現時歐洲戰爭ノ状態ヲ見テ各國ハ何レモ一致團體ノ實相ヲ表明セリ  
ト爲スハ早計ナリ或國ハ偶然一致セルコトモアラン然レトモ其各國軍隊ノ  
結合動作ヲ爲スハ統治權ノ強大ニシテ能ク國民ヲ統合緊結セルニ基クモノ  
ナリ若シ統治權ノ劣弱ニシテ統合緊結スルコト能ハサルトキハ假令國民ノ  
一致結合アリトスルモ之ヲ保持スルコトヲ得サルニ至ルヘクシテ瓦解倒散  
ノ厄ヲ見ルヤ必セリ彼諸國ニ屢屢勃興シタル革命ニ懲スルニ其一致結合ハ

強キモノナレトモ多クハ之ヲ統合緊結スル所ノ强者ナキ爲メ離散霧消セル  
モノナリ國家亦然リ其軍隊ノ強勢ナルハ統治權ノ強大ニシテ國民ヲ統合緊  
結セルカ爲ナリ嘗ニ國民ノ一致團體タルノミニ因ルモノニ非ス

美濃部博士國家學雜誌第二六卷第八號國家及政體論ノ說

國家ヲ組織スル總テノ人カ共同ノ目的ヲ有スト云フハ必スシモ其總テノ人カ初ヨリ其  
目的ヲ意識シ之ニ同意シテ其自由意思ニ依リテ其組織ニ加ハルコトヲ意味スルニ非ス  
國家ヲ組織スル人々ハ或ハ自由意思ニ依リ外國ヨリ歸化セル者アリ或ハ領土併合若ク  
ハ割讓ニ伴ヒテ之ニ加ハル者アレトモ其最大部分ハ概ネ生レナカラニ國家ノ一員タル  
モノニシテ其國家ヲ組織スルノ一分子タルコトハ先天的ニ定マレルモノナリ

團體ハ其種類ノ如何ヲ問ハス團體ヲ作り又團體ヲ存續スルニハ必ス其必要  
即チ其目的ナカルヘカラサルハ論ナキコトナリ國家モ亦其建國及國家ノ存  
在ニ付キ其目的ノ存スルコトヲ要ス論者多ク國家ハ國民即チ團體員ノ共同  
生存ノ目的ヲ完成スル爲ニ存在スルモノナリト言ヘリ統治權ハ國家ヲ維持  
スル爲ニ發現シタルモノナルカ故ニ國家ハ國民即チ團體員ノ共同生存ヲ完  
成スル爲ニ組織シ存在スルモノナルコト明カナリ然レトモ國民即チ團體員

カ凡テ共同生存ノ目的ヲ有シ其目的ヲ完成スル爲ニ國家ノ存在スルモノナ  
 リト言フハ事實ニ反スルコトアリ民族ヲ異ニシ種族ヲ異ニシ前國家ヲ異ニ  
 シテ生存ヲ共同スルコトヲ好マサル者アルニ拘ハラズ國家ハ國民ノ共同生  
 存ノ目的ヲ達スル爲ノ團體ナリト稱スルハ甚誤レルモノナリ  
 人類ノ生存ノ目的ハ道理アル生活ヲ完成スルニ在ルナリ既ニ述ヘタル如ク  
 宇宙ニハ天則アリテ萬物ノ生死存亡盛衰興廢ハ一ニ其天則ニ依リテ定マル  
 モノナリ人類ノ存亡興廢モ亦天則ノ定ムル所ニシテ吾人人力ノ如何トモ左  
 右シ得サル所ナリ其故ニ吾人人類ハ天則ニ從ヒテ生活スヘキ本分ヲ有ス天  
 則ハ人類ノ智能ヲ開發シテ向上シ人類ノ生存ニ必要ナル總般ノ行爲ヲ爲シ  
 遂ケシムルニ在リ吾人カ天則ニ從フテ生存スルハ即チ道理ニ適合シタル生  
 存ナリ道理ニ適合シタル生存ヲ爲スハ即チ人類生存ノ目的ナリ人類カ相互  
 ニ生存ノ完成ヲ競争スルハ人智ヲ開發シテ向上スルモノナルヲ以テ天則ニ  
 從フモノナルカ故ニ道理ニ適合シタル生活手段ナリト言ハサルヘカラス然  
 レトモ人類ノ生存競争ハ劇烈ニ亘リテ遂ニハ暴虐亂酷天則ニ違反シ他ノ動

物ト撰フ所ナキニ至ルナリ人類生存ノ目的ヲ達スルニハ暴虐亂酷ヲ防キ天  
 則ヲ履行スルノ外アルコトナシ余ハ人類ノ遵奉セサルヘカラサル其天則ヲ  
 稱シテ之ヲ道德ト言ヒ道德ノ履行カ即チ人生ノ目的ヲ完成スルモノニシテ  
 國家ヲ要スル所以ナリト言フ

プラトーン(政治論第三三卷)ノ説

國家ハ至高最上ノ善ナリ其故ニ國家ハ正義道德ノ形體ナリト謂フヘシ

アリストテレス(政治論第三卷)ノ説

國家ハ道德ヲ完行スルコトヲ目的トシタル人類ノ結合體ナリ

チチエロー(アルンチエリ)國家論第一卷第一節)ノ説

國家ハ人間至高ノ德義ニ由リテ創作シタルモノナリ

上杉博士(帝國憲法綱領一頁三頁)ノ説

國家ハ最高ノ道德ナリ道德發展シテ國家ト爲リ國家アリテ道德完タシ

同博士(帝國憲法述義二二頁)ノ説

國家ハ最高ノ道德ニシテ人類ノ道德的性質カ發展シテ最高ノ段階ニ至リタルモノハ即

チ國家ナリ國家ニ依リテ一切ノ道德ハ完成スルモノナリ

市村博士(國家及國民論三頁四頁四頁)ノ説

第三章 統治權ノ主體 第二節 主體ノ實體

國家存在ノ理由ハ法律論ニテハ解ケサル問題ナリ法ハ國家ト共ニ存スルモ國家以前ニ無ケレハ國家ノ上ニモ存セス故ニ國家ヲ法律上ノ制度ナリト考フルハ誤ナリ國家存在ノ理由ハ倫理問題ナリ國家ハ人ヲシテ人タラシムル唯一ノ條件タルノミナラス又實ニ一國ノ國民ヲシテ公民タラシムル唯一ノ條件ナリ

既ニ一言シタル如ク人類ハ向上發展ノ自然性ヲ有スルカ故ニ道德ナル天則ニ從ヒテ生存ノ競争ヲ爲スハ生存ノ目的ヲ完成スル必要手段ナリ國家ハ最強者カ道德ヲ厲行スル爲ニ作リタル戰鬪團體ナルカ故ニ國民ハ其戰鬪團體員トシテ奮勵スルハ其生存ノ目的ヲ達スル必要ナル行爲タルノミナラス道德上ノ本分ニシテ統治上ノ義務ナリ

最強者カ道德ヲ厲行スル爲ニ國家ヲ作リタルモノナルカ故ニ其國家ヲ維持スル力ノ及フ範域ニ於テ其範域ニ在ル無國籍者ヲ自國民ト爲シ統治即チ道德ヲ厲行スルモノナリ斯様ニ國家ヲ論スルトキハ茲ニ始メテ産兒ハ勿論一致結合ノ意思ナキ者離脱背反ノ意思アル者乃至新領民ヲ國民ト爲ス所ノ理由ヲ明カニシ得ルナリ從ヒテ事實上全國民ノ一致結合セサルモノヲ一致團

體ナリト強辯スルノ要ナク又一一致團體ハ必スシモ全團體員ノ自意投合ヲ要セス大部分ノ一致結合スルヲ以テ足レリト言フカ如ク弱キコトヲ論スルニモ及ハサルナリ要スルニ産兒一致結合ノ意思ナキ者離脱背反ノ意思ヲ有スル者乃至新領民ヲ自國民ト爲スハ國家カ一致團體ニ非サルコトノ確證タルノミナラス團體力ノ行動ニモ非サルコトヲ證スルモノナリ其故ニ國民カ一國家ノ團體員トシテ統治權ノ下ニ在ルトキハ全國民カ共同生存ヲ爲スモノナルコトハ事實ナリ然レトモ全國民カ共同生存ノ目的ヲ有シテ國家ヲ組成シタリト言フハ事實ニ非ス全國民カ斯ル目的ヲ有スルコトヲ要セス又全國民ニ斯ル目的ヲ有スルコトヲ望ムハ不可能ナリ其故ニ國家ハ共同生存ノ團體ノ一ナレトモ全國民タル全團體員ニ共同生存ノ目的ヲ有スルコトヲ要スル團體ナリト言フヘカラス

國家ヲ以テ統治權ノ主體ナリト論スル爲ニハ國家ヲ以テ人格者ト爲ササルヘカラサルコトトナルナリ果シテ國家ニ人格アリヤ國家ノ人格ハ古代ヨリ之ヲ論シ中世伊太利ニ於ケル國家人格論カ漸次擴張シテ現時ノ國家人格論

## 國家ノ人格論

ヲ成スニ至リタリ

ホーゲン(ゲマイヤー)獨逸國法論緒論第二章第二節引用國家論ノ説

國家ハ獨立セル人格者ナリ

ホツプス(ゲマイヤー)獨逸國法論第三號引照國家論ノ説

國家ハ人格者ナリ

クロチユース(國際法論第一卷第三章第七節)ノ説

同論

アルブレヒト(ギョツチンゲン)大學一八三七年度學報一四九二頁以下マウレンブレツヘル

ノ國法學原則ニ對スル論評)ノ説

同論

ベルナチツク(公法冊誌第五卷一六九頁以下)ノ説

同論

エリネツク(法律命令論一九二頁以下)ノ説

同論

同氏(公權論總論第三節)ノ説

同論

同氏(一般國家學一三二頁)ノ説

同論

ゲルバー(國家人格論二二五頁以下)ノ説

同論

アレンチユリ(國家論第一卷第二節)ノ説

同論

プロイス(市町村國家及帝國一三七頁)ノ説

同論

テルンアルヒ(バンテクテン)第一卷一三六頁)ノ説

同論

ライバンド(國法學第一卷七八頁)ノ説

同論

ゲマイヤー(獨逸國法論緒論第二章第二節)ノ説

同論

穂積八束博士(憲法提要四二頁)ノ説

國家ハ法理上ノ觀念ニ於テ人格ヲ具有ス

一木博士(法令豫算論五五頁)ノ説

國家ハ無形人ナリ

美濃部博士(日本國法學四一頁)ノ説

國家ハ法人ナリ

第三章 統治權ノ主體 第二節 主體ノ實體

同博士(帝大行政法講義)ノ説

同論

同博士(國家學會雜誌第二六卷第九號頁國家及政體論)ノ説

同論

清水博士(第一〇版憲法篇二四頁)ノ説

國家ハ法理觀念ニ於テ人格ヲ有シ統治權ノ主體タルモノナリ

上杉博士(法學協會雜誌第二九卷第一號國體及政體)ノ説

國家ハ人格ナリ

千賀博士(國際公法要義七三頁)ノ説

同論

立博士(内外論叢第二卷第四號井上博士ノ國家論ヲ讀ム)ノ説

國家ハ恒久的ニ存在スル人格ナリ

市村博士(國家及國民論五〇頁五二頁)ノ説

國家ハ人格ナリ

同博士(帝國憲法論一二頁)ノ説

同論

國家ニ人格アリトセハ國家ハ其人格ヲ表現セサルヘカラス國家カ其人格ヲ

表現スルニハ國家ヲ成ス國民カ其表現タラサルヘカラス換言スレハ國民ハ  
國家ノ分子タルカ故ニ一舉一動一心一念國家タラサルヘカラス斯ノ如クニ  
シテ國民ヨリ成ル國家ニ人格アリト謂フヘキナリ

寛博士(國家之研究二五四頁)ノ説

各個人ハ普通我(國家)ノ表現我タル根據ノ上ニ存在ス表現我トシテハ即チ普通我ナリ

國家ハ人格ヲ有スルモ其之ヲ表現スルモノハ國民ニ非スシテ君主ナリト論  
スル者アリ此説ハ表現ニ非スシテ代表ナリ代表ノ何ナリヤハ後ニ説ク所ア  
ルヘシ君主カ代表者ナルトキハ此説可ナリ然レトモ余ハ君主ヲ以テ代表者  
ニ非スト爲ス者ナリ又君主ヲ以テ國家ナリト爲ス者アリ君主ヲ以テ國家ナ  
リトセハ國民ヲ以テ國家ノ組織要素ナリトスル説ヲ否定スルニ非サレハ矛  
盾ナクシテ相容ルルコトヲ得サルモノナリ彼ノルイ第十四世カ朕ハ國家ナ  
リト言ヒタルハ統治者ナリト言フ意味ニシテ國家代表者ノ意味ニ非スボル  
ンハツク(普國國法論第一卷六四頁六五頁)ノ君主ハ國家ナリト言ヒタルモ君  
主國ノ統治者ハ君主ナリト言フ意味ヲ表明シタルモノト解スルコトヲ得ル

理由アリ君主其人ヲ以テ國家ナリト言ヒタルニハ非サルヘシ若シ果シテ君主カ國家ナリトセハ君主ハ國家ヲ代表スルモノニ非スシテ自己ヲ表現スルモノナリ

穂積八束博士憲法提要一九八頁二一三頁ノ説

國家ノ意思ハ天皇ノ意思ナリ天皇ト國家ハ法理上合同一體ヲ成シテ分離スヘカラス天皇ハ即チ國家ナリ

寛博士(國家之研究一六頁)ノ説

天皇ハ其表現行爲ニ付テハ國家ナリ

上杉博士(帝國憲法述義一八九頁一九三頁ノ説)

我國ニ於テハ國家ハ天皇ナリ天皇ハ國家ナリト言フコトヲ得

同博士(法學協會雜誌第三五卷第一號大學ヲ讀ム)ノ説

天皇ハ國家ナリ

仁保博士(京都法學會雜誌第一二卷第一號國體ヲ論ス)ノ説

天皇即チ國家ナリ

清水博士第一〇版憲法篇二六四頁ノ説

國家即チ天皇ナリ

人格ノ何タルコトハ既ニ人格維持權ノ章下ニ於テ論シタル所ナリ國家ニ人格アリトセハ人格ノ本質ハ自然人ノ人格タルト法設人ノ人格タルト將タ國家ノ人格タルトヲ問ハス同一道理ノ支配ヲ受クルモノナラサルヘカラス即チ人格ハ統治關係ノ當事者タル資格ノコトニシテ統治者及被治者タル資格ヲ言フモノナリ國家人格ハ國家若シ統治者タルニ於テハ主體タル資格ヲ意味シ國家若シ被治者タルニ於テハ客體タル資格ヲ意味スルコトトナルナリ其何レニ在ルニセヨ其人格ハ如何ニシテ之ヲ有スルモノナルヤ國家人格ヲ認ムル論者ハ國家ヲ以テ法律上ノ人格者即チ法律ニ依リテ人格ヲ有スル法人(Juristische Person, Artificial or Legal Person)ナリトセリ

ホール(國際公法第一編第一章第一節)ノ説

國家ハ法律ニ依リテ人格ヲ有スルモノナリ

ブルンチエリ(國家論第一卷第二節)ノ説

國家ハ法律上ノ人格者ナリ

ホツプス(ゲマイヤ)獨逸國法論第三號引照國家論)ノ説

國家ハ法律上人格ヲ有スルモノナ

第三章 統治權ノ主體 第二節 主體ノ實體

統治權論

クロチエース(國際法第一卷第三章第七節)ノ説

同論

ベルナチツク(公法冊誌第五卷一六九頁以下)ノ説

同論

アルブレヒト(ギョツチンゲン大學一八三七年學報一四九二頁以下マウレンブレツヘルノ  
國法學原則ニ對スル論評)ノ説

同論

エリネツク(法律命令論一九二頁)ノ説

同論

同氏(公權論總論第三節)ノ説

同論

同氏(一般國家學一三二頁)ノ説

同論

ケルバー(國家人格論二二五頁以下)ノ説

同論

同氏(獨逸國法概論附錄二二五頁)ノ説

同論

アルンブルヒ(バンテクテン第一卷一三六頁)ノ説

統治權論

同論

プロイス(市町村國家及帝國論一三七頁)ノ説

同論

ライバンド(獨逸國法論第一卷七八頁)ノ説

同論

同氏(公法雜誌第一八卷七頁以下論文)ノ説

同論

ゲマイヤー(獨逸國法論第三號)ノ説

同論

ステーベル(公法雜誌第一卷第四冊)ノ説

國際法上權利義務ノ主體タル人格ヲ認メラレタルモノハ國家ナリ

穂積八束博士(憲法提要四二頁)ノ説

國家ハ法理上ノ觀念ニ於テ人格ヲ具有ス

一木博士(法令豫算論一一頁)ノ説

國家ハ一ノ法人ナリ

美濃部博士(日本國法學四一頁)ノ説

國家ハ一定ノ地域ヲ基礎トスル法人ナリ

同博士(帝大行政法講義)ノ説

第三章 權統治ノ主義 第二節 主體ノ實體

統治權論

國家ハ法人ナリ

同博士(憲法講話一六頁)ノ説

同論

同博士(國家學會雜誌第二六卷第九號國家及政體論)ノ説

同論

清水博士(第一〇版憲法篇三二頁)ノ説

國家ハ公法人ナリ

上杉博士(法學協會雜誌第二九卷第一號國體及政體)ノ説

國家トハ法律上統治權ノ主體タル抽象的人格ナリ

織田博士(法學通論一〇三頁一五五頁)ノ説

法學上國家ハ法人格ヲ有ス

同博士(改訂法學通論一〇七頁)ノ説

國家カ個人ノ團體タルコトハ論ヲ俟タサレトモ其團體タルヤ單純ノ集合ニ非スシテ獨立ノ存在ト永遠ノ生命トヲ保有スヘキ一箇ノ組織體ヲ成スモノナルヲ以テ學理上此事實ニ本ツキ抽象的見解ニ依リテ其法律上ノ人格ヲ認メ個人ト相對シテ法律關係ノ上ニ立ツモノトスルハ蓋シ最モ當テ得タリト謂フヘシ  
千賀博士(國際公法要義七三頁)ノ説  
國家ハ社團法人ナリ

市村博士(國家及國民論五〇頁)ノ説

國家ハ法人ナリ

同博士(帝國憲法論一二頁)ノ説

同論

梅博士(民法原理總則編卷ノ一、一七七頁)ノ説

國家ノ法人タルハ毫モ疑ナ容レスト信ス

國家ハ如何ニシテ法律上ノ人格ヲ有スルヤ國家ヲ法律上ノ人格者ナリト論スル者ノ數ハ眞ニ多クシテ算フルコトヲ得ス天產論アリ法產論アリ又法認論アリト雖モ未タ之ヲ正確ニ解答シタル者ノ在ルコトヲ聞カス

穂積八東博士(憲法提要四二頁四三頁三六二頁以下)ノ説

人格トハ法ノ認メテ保護スル自主ノ生存ノ主體タルナリ肉體個人ニ人格アルコトト國家ニ人格アルコトトハ其理毫モ異ナルコトナシ二者共ニ自主ノ生存アリ且ツ法上認知保護アレハナリ要スルニ人格ハ抽象的的法上ノ觀念ナリ  
美濃部博士(帝大行政法講義)ノ説

國家ハ法律上承認セラレテ法人トナルナリ一個人ハ法律上出生スルト共ニ當然其人格タルモ國家ハ當然ニ意思力ノ主體タリ目的ノ主體タルコトヲ認メラルルモノニ非ス  
第三章 統治權ノ主體 第二節 主體ノ實體



體中最モ強固ナルカ故ニ法律上特ニ承認セラレテ法律上ノ人格者トナルナリ  
同博士(國家學會雜誌第二六卷第九號國家及政體論)ノ說

法律上ニ於テ人ト言フハ利益ノ主體タリ意思ノ主體タルモノヲ言フ國家ハ一ノ團體トシテ自己ノ目的ヲ有シ自己ノ意思力ヲ有ス國家ヲ法人ナリト言フハ其實在現象カ法律上ニ認識セラレタルニ外ナラサルコトハ尙各個人カ法律上ニ利益ノ主體トシ意思ノ主體トシテ認識セラレタルト異ナルコトナシ

織田博士(改訂法學通論一五八頁)ノ說

法人ハ法ノ規定ニ依リテ始メテ發生スルモノニシテ若シ法カ或團體ノ人格ヲ認ムルコトナクンハ其團體ハ單純ナル人又ハ物ノ集合シタルニ過キス

算博士(國家之研究二一二頁二三五頁二三六頁二四八頁五九頁)ノ說

普通我(國家)ハ獨立シタル大我ナリ本來自然ノ人格者ナリ

市村博士(國家及國民論九五頁)ノ說

國家ヲ法人ト言フハ法律カ勝手ニ製造シタル人ト言フ意味ニ非ス國家ニ關スル現象ヨリ抽象シ國家カ國家トシテ權利ヲ有シ義務ヲ負フト言フ事實ヨリ抽象シテ之ヲ法律上ノ人格ト言フナリ

同博士(帝國憲法論二三頁以下)ノ說

人格ハ凡テ法ニ依リテ認メラルルニ至リテ初メテ存在スルモノナリ其故國家人格モ亦法ニ依リテ認メラルルニ至リテ存在スルモノナリ

同博士(行政法原理八頁九頁)ノ說

法人ハ法律ニ依ルニ非サレハ成立スルコトヲ得ス民法第三十三條ニ斯ク規定セリト論スル者アルモ之ヲ國家ニ適用スルハ不當ナリ現ニ憲法第六十二條同六十七條其他民法民事訴訟法等各種ノ法規ニ國ヲ法人ト看做セリ之レ國家ノ法人タルコトヲ證スル所以ナリ

國家ノ法人タル効果ハ法認ニ因リテ生シ法認ハ國家自認ナリトスル論者アリ併シナカラ其自認ヲ爲ス手段タル法ハ國家ノ制定シタルモノタラサルヘカラス從ヒテ國家自認ハ國家ノ先ツ存在スルコトヲ思考セサルヘカラス否ラサレハ自認スルコトヲ得サル道理ナリ然ラハ國家カ國家ヲ自認スル迄ノ國家ハ法人タル法律上ノ効果ヲ生セサルモノナリ加之法認ヲ以テ國家人格ノ法律上ノ効果ヲ生スルモノトセハ法認セサル國家ハ其人格ノ法果ヲ生スルモノニ非ス從ヒテ國家ニシテ自認セサルモノアルトキハ其人格ノ法果ヲ生セサル國家ノ存在スルコトヲ得ルモノト言ハサルヘカラス此論結ハ國家人格ノ法認論者ノミナラス法產論者ト雖モ同様ニ歸着スルモノナリ即チ國家ノ法人人格ハ法ニ依リテ附與セラレテ始メテ生スルモノトスルトキハ其

法ハ國家ノ制定シタルモノナルヲ以テ其法ニ依リテ人格ヲ附與スル迄ノ間ハ法人人格ヲ有セサル國家ノ存在シタルモノト言ハサルヘカラス從ヒテ古ク國家ノ存在スルモ未タ其法人人格ヲ附與セサルモノアルトキハ法人人格ヲ有セサル國家ノ現存スル道理ナリ又認知効ハ法學上人格者ノ行爲ニ因リテノミ生スルモノナリ未タ人格ヲ有セサル國家ノ認知行爲ハ法律行爲タラサルヲ以テ認知効ヲ生スルコトナシ

穂積八束博士(憲法提要四二頁)ノ說

國家ハ法ノ認知スル法人ナリ法ノ認知ハ國家自認ノ義ナリ

國家ハ國家前又ハ國家ト同時ニ生シタル法ニ依リテ人格ヲ有スト論スル者アリ所謂法ハ自然法ニシテ國家ハ自然法ニ依リテ人格ヲ享有スルコトナルナリ余ハ後章ニ於テ論スル如ク法ハ統治者ノ國家統治ノ手段ニ設ケタルモノトスル說ヲ有スルモノナルカ故ニ統治者ノ制定セサル法ナルモノヲ認メス統治者ハ國家ト同時ニ生スルモノナルカ故ニ國家前ニ統治者ノ無キヲ以テ法ヲ制定シ得サルハ勿論國家ト同時ニ生スル統治者カ自己ト同時ニ生

スル法ヲ自己ノ制定シ得サルハ當然ノ天理ナリ余ハ此天理ニ基キテ國家ハ國家ト同時ニ生スル法ニ依リテ法人人格ヲ具有スト言フ說ヲ否定ス

エリネツク(公權論總論第二節)ノ說

國家ハ凡テノ法規ノ創定者ナリ

美濃部博士(日本國法學三八頁)ノ說

國家ト法トノ關係ハ先ツ國家カ成立シテ然ル後ニ法アルモノニ非ス國家ト法トハ互ニ離ルヘカラサル關係ニ在ルモノニシテ苟モ國家ノ成立スルトキハ法モ亦同時ニ存在ス

國家ハ其法ニ依リテ法人タルナリ

清水博士(第一〇版憲法篇一〇〇頁)ノ說

法ハ國家在リテ初メテ存スルモノナリ

國家ハ個個ノ國民ヨリ成ルカ故ニ國民ノ全體ヲ以テ國家ト爲スヤ又ハ國家ハ個個ノ國民ヨリ成ルモ國家カ成立シタル後ハ個個ノ國民ヨリ離レテ全然別個ノ一體ヲ成スモノナリヤ是レ現時法學界ニ於ケル一大問題ナリ  
國家ヲ以テ多數人類ヨリ成立スト言ヒナカラ國家ハ其分子タル多數人類ヨリ離レテ獨立ナリ單一體トナリテ存在スト爲ス論者アリ國家ハ人類ヨリ成

立スルモノトセハ人類ヨリ離レテハ存在スルコトヲ得サル道理ナリ人類ハ多數ノ細胞ヨリ成立スルモノナルカ故ニ其細胞ノ全體カ人類ヲ組成スルモノナルヲ以テ人類ハ細胞ヲ離レテ存在スルコトヲ得ルモノニ非サルヤ眞ニ明カナルコトナリ國家モ之ト同理ニ於テ國家ヲ組成スル分子タル人類ノ全體カ國家ヲ組成スルモノナルカ故ニ其組成分子タル人類ヲ離レテ存在シ得サル譯ナリ然ルニ國家ハ國民ヨリ離在スル所ノ單一體ナリト論スルハ如何ナル理由ニ基クモノナリヤ國家ヲ單一體ナリト論スル根由ハ國家ハ國民ノ共同生存ノ目的ニ因リテ一致結合シタル團體ナリ團體ハ恰カモ一個人體ノ如ク一體ヲ成スモノナリト言フニ在リテ國家ハ團體ナルカ故ニ單一體ナリト言フニ歸ス國家ヲ單一體ナリトスルハ國家ヲ一致團體ナリトスルニ非サレハ生セサル論結ナリ國家ノ一致團體タラサルヘカラサルモノニ非サルコトハ既ニ述ヘタル所ナリ一致團體ト雖モ其組成分子タル團體員ヲ離レタル單一體ニ非サルナリ

エリネツク(公權論總論第三節)ノ說

國家ハ人類ノ單一體ナリ單一體トハ之ヲ客觀的ニ言ヘハ外界ニ於テハ空間ヲ占メテ分割スヘカラス内界ニ於テハ意思感覺カ意識上ノ唯一不可分ノ作用ヲ爲スモノナリ之ヲ主觀的ニ言ヘハ場所、時間及心理ニ於テ互ニ別在セル數個ノ物ヲ吾人ノ意識上ニ綜合シ一個體ナリトシテ思考スルモノナリ軍隊ハ隊員ノ交迭アルモ永遠ニ同軍隊ト思考シ都市ハ郡市ノ住民ノ常ニ生死交替スルモ永遠ニ同一都市ト思考シ河川ハ河水ノ一刻モ留マラスシテ流レ去ルモ猶同一河川ト思考スルナリ多數人類モ其個個ニハ交替アルモ目的ノ連結ニ依リテ一體トシテ思考シ國家モ國民ノ總ヘス交替スルニ拘ハラズ永久一體ヲ成セル國家ナリト思考スルナリ

加藤博士(國家之統治權一八頁)ノ說

國家ハ單細胞體ヨリ成リタル吾人ノ複細胞體ノ相集合團結シテ形成セル複細胞體ナリ之ハ實ニ自然物ニシテ吾人間ト同一ノ有機體ナリト認メサルヘカラス

美濃部博士(日本國法學六頁七頁)ノ說

國家ハ團體ナリ團體ハ單一體ナリ人ハ多數ノ細胞ヨリ成ルト雖モ細胞ノ集合カ即チ人ナルニ非ス其全體ヲ以テ獨立ノ單一體ヲ爲ス如ク國家モ其分子タル多數人類トハ離レテ獨立ナル單一體トシテ存在ヲ有ス

岡博士(國家學會雜誌第二六卷第八號國家及政體論)ノ說

國家ヲ組織スル多數ノ人間ハ其全體ヲ以テ單一體ヲ成スモノナリ

寛博士(國家之研究二〇七頁二〇八頁二一〇頁)ノ說

第三章 統治權ノ主體 第二節 主體ノ實體

國家ハ多數ノ人ト領土ヲ其組織要素トシ其要素ト離ルルモノニ非サレトモ之等ヲ統一シタル特殊ノ存在ヲ爲ス自主的普遍我ナリ普遍我トハ本來ノ一心同體ト言フコトナリ詳シク之ヲ言ヘハ時間的及空間的ニ存在スル上下多數ノ各個人ニ普ク存在スル唯一ノ大生命ナリ

立博士(内外論叢第二卷第四號井上博士ノ國家論ヲ讀ム)ノ說

土地人民ヲ有形ノ儘國家ノ組織要素ト爲スモノニ非スシテ國家ハ恒久的ニ存在スル人格ナリ

團體ノ單一體ナルコトハ感官ノ認識シ得ルモノニ非ス思想界ニ於テ獨リ心眼ノ觀テ以テ其存在ヲ知ルモノナリト言フ者アリ一致團體其モノカ其組成分子タル團體員全體ヲ以テ單一體ナリト觀念スルハ不可能ノ事ニ非ス然レトモ團體カ其組成分子タル團體員ヲ離レテ單一體ヲ成スト云フハ全ク空想ナリ是レ恰カモ靈魂カ吾人ノ肉體ヲ離レテ存在スト云フ說ト同一ニシテ唯物論者ハ勿論唯心論者ト雖モ信仰スル外觀念スルコトヲ得サルモノナリ心眼ヲ以テ觀ルコトヲ得ルニハ心證シ得ルモノナラサルヘカラス心證ハ自己經驗ノ概念ニ依ルニ非サレハ之ヲ得ルモノニ非ス如何ニ心眼ト雖モ心證シ

得サルモノハ之ヲ觀ルコトヲ得サルモノナリ心證ナクシテ觀念スルコトヲ得ト言フハ眞理ニ非ス法學ハ眞理ヲ究明スルノ學問ニシテ魔力ヲ有スルコトナシ團體ハ團體員ヲ以テ組織シ團體員ハ團體ヲ組織スル所ノ成體要素ナルヲ以テ團體ト其成體要素タル團體員トヲ取離シテ團體ヲ單一體ト爲シ得ルモノニ非ス雨水ハ點滴ナレトモ其集合スルトキハ大量トナリテ河海ヲ成ス其水力ハ偉大ナルモノナリ其河海ハ雨滴ト別在シテ單一體ヲ成スモノニ非ス同在スルカ故ニ大團結シテ河海ヲ成シタルモノナリ其偉大ナル水力ハ雨滴ノ水力ノ總和ナリ雨滴ノ水力ハ別ニ存スルモノニ非ス河海ハ雨滴ト別在シテ單一體ヲ成スモノトセハ雨滴ハ何處ニ別在スルヤ又河海ノ水力ハ雨滴ノ水力ト別存活動スルモノトセハ雨滴ノ水力ハ何處ニ存在スルモノト爲スカ此理ハ移シテ以テ人類ノ團體ヲ説明シ得ヘシ元來一致團體ハ所謂意識團體ニシテ心念ノ結合即チ意思ノ投合體ナルカ故ニ意思ト意思トノ連結體ナリ換言スレハ意思ト意思トノ連結ニ因リテ個個ノ人類カ團體ヲ組成スルモノナリ其故ニ團體員ハ個個ニ別在スル如キモ其意思ノ連結ニ因リテ同在

集結セルモノナリ論者多ク此道理ヲ辨セスシテ團體員ノ個在セルヲ以テ團體員ト別在セル單一體ナリト論スルハ迷想ナリ否ラサレハ法學ノ萬能力ヲ夢ミテ無ヲ有ト爲シ得ルモノト信スル者ノ思考スルコトナリ斯ノ如ク一致團體ハ團體員ノ一致結合即チ意思連結ニ因リ生シタル人類ノ團體ナルカ故ニ團體員全體カ團體ニシテ團體員全體ヲ離レテ單一體ナルモノノ別在シ得ルモノニ非ス若シ別在ストセハ其成體要素タル人類ハ團體員ニ非ス又團體員タル人類ハ成體要素タルモノニ非ストセサルヘカラス故ニ國家ハ假リニ一致團體ナリトスルモノ一致團體ハ團體ノ分子タル各員ヨリ離レタル單一體ニ非サルヲ以テ國家モ亦單一體トシテ國民ヲ離レテ別在スルモノニ非ス況ンヤ國家ハ一致團體ニ非スシテ強制團體ナルカ故ニ論者ノ論法ヲ以テスルトキハ團體員ノ共同目的ナルモノノ存セサルニ因リ單一體ヲ結成スルモノニ非ス從ヒテ團體員タル國民ヲ離レテ別在スルコトヲ夢想スルニ證ナシ國家ノ單一體說ハ國家ハ單一體ナルカ故ニ人格ヲ有スルカ故ニ統治權ノ主體タルコトヲ得又國家ハ其組成分子タル國民ヨリ離レテ單一體

タル人格者ナルカ故ニ國民ヲ統治スルコトヲ得ト言フニ在リ然レトモ國家ハ決シテ其組成分子タル國民ヨリ離レテ別在スルモノニ非ス假令國家カ其組成分子タル國民ヨリ離レテ別在シ單一體タルコトヲ得ルモノトスルモ單一體タルカ故ニ人格ヲ有スト言フ論據アルコトナシ

ローレン(國體法論四八頁)ノ說

團體ハ結合シタル多數ノ共同目的及共同意思カ單一ナル人格ノ目的及意思トシテ現ハルルモノナリ

エリネツク(組織論二五六頁二五七頁)ノ說

法人ノ共同意思カ法人ノ中心ヨリ發現スルモノナルトキハ其法人ハ團體ナリ

同氏(公權論總論第三節)ノ說

共同目的ヲ共同力ニ依リテ遂行スル多數ノ人類ヲ單一體ト思考スルト同一ノ思考ハ國家ノ單一體タルコトヲ認メサルヲ得サルヤ當然ノ結果ナリ

ギルケ(獨逸私法論第一卷四七〇頁四七一頁)ノ說

官能ニ依リテ認識シ得ルモノハ唯肉眼ニ映スル人類ナリ實力ニ依リテ來ルヘキ個人並ニ社會生活ノ中心ハ內的經驗ニ依リテ鍊磨シタル心眼ニ於テ始メテ達觀シ得ルナリ即チ官能ヲ超越シタル單一體ヲ並列配置シテ一面ニ孤立方法ニ依リ各人カ自己ノ存在ヲ

統治權論

根據トシテ立チタル單一體ヲ認メ他面ニハ集合方法ニ依リテ多數人類カ共同存在トシテ行動スル單一體ヲ識リ以テ本體ノ概念ニ到達シテ個人格及ヒ團體人格ノ法境ノ區別ヲ爲シ得ルモノナリ

美濃部博士太陽第一九卷第六號近時ノ政界ニ於ケル憲法問題ノ說

元來國家ハ目ニ見フル具體的實體ヲ有スルモノニ非ス

同博士(國家學會雜誌第二六卷第八號國家及政體論)ノ說

國家ノ單一體ナル所以ハ實ニ共同ノ目的ヲ有スルニ在リ

要スルニ國家ハ強者カ道德ヲ厲行スル爲ニ作リタル強者ノ強力ノ及フ範圍内ニ在ル國民團體ニシテ法ヨリ前ニ生シタルモノナルヲ以テ法ニ依リテ人格ヲ具有スルモノニ非ス又未タ人格者ニ非サル國家カ法律行爲ヲ爲シ得サルモノナルニ因リ法律行爲タル認知行爲ヲ爲スモ法果ヲ生セス又國家ハ單一體トナリテ國民ヨリ別在スルコトヲ得ルモノニ非サルヲ以テ國家ヲ單一體ト爲シ之ニ人格ヲ付與スルハ人格ノ架空ナルカ故ニ何レノ點ヨリ論スルモ國家ハ法人人格ヲ具有スルモノニ非サルナリ

ザイアール(一般國家論七頁四一頁)ノ說

國家ハ人格ヲ有セス故ニ法人ニ非ス

同氏(巴國國法論第一卷三五二頁以下)ノ說

同論

同氏(獨逸帝國年報一八七六年六四一頁)ノ說

同論

レーム(獨逸帝國年報一一八五年七八頁)ノ說

同論

エ、マイヤー(獨逸帝國年報一八八八年五五〇頁以下)ノ說

同論

余カ國家ヲ以テ人格者ニ非ス法人ニ非スト爲スハ統治權ノ主體タル人格者ニ非スト言フニ在リテ如何ナル場合ニ於テモ人格ヲ有セスト言フニハ非ス統治者カ國家統治ノ必要上各種ノ法人ヲ設ケテ行爲又ハ財產ノ主體タラシムルコトアルト同一理由ニ因リ國家ニ人格ヲ附與シテ行爲又ハ財產ノ主體タラシムルコトヲ得ルナリ其故ニ此意味ニ於ケル國家法人ハ公法及私法ノ當事者トナルモノニシテ法人格維持權ヲ有シ其公法ノ當事者トナル場合ニハ統治者ニ對シテ統治行爲ヲ要求シ又服從ノ義務ヲ負ヒ其私法ノ當事者ト

シテハ自然人又ハ他ノ法人ト相伍シテ私法行爲ヲ爲シ得ルモノナリ統治者ハ統治行爲ノ外爲スコトナキナリ統治者ハ公人ニシテ私人タルコトナシ統治行爲ハ公事ニシテ私事タルコトナシ統治者ハ統治行爲ヲ爲シテ私事ヲ爲スコトナシ國家法人ハ統治者ニ非サルカ故ニ私事ヲ爲スモ統治行爲ヲ爲スコトナシ其人格ハ自然人人格及他ノ法人人格ト同シク個人人格タリ各國ノ憲法ニ於テ統治權行使ノ豫算ヲ國家ノ豫算ト爲シ徵稅權ヲ國家ノ權利ト爲シ又其他ノ公法及私法ニ於テ國家ヲ公法行爲及私法行爲ノ當事者ト爲シ又國家ヲ財産權ノ主體ト爲シ又國家ヲ訴訟ノ當事者ト爲ス所ノ規定ヲ存シ恰カモ統治者トシテ斯ノ如キ規定ヲ設ケタル威ヲ起サシメ又立案者ハ其意ヲ以テ規定シタルモノモアルヘキヲ以テ然カ解釋スル者モアレトモ大ナル誤ナリ其規定中統治權ノ行使ニ關スルモノハ假令國家ナル文字ヲ存スルモ統治者ト約讀スヘク其被治者ニ關スルモノハ被治者タル國家法人ト約讀セサルヘカラス否ラサレハ不道理ヲ極メタル論結ヲ生スヘシ

國家ハ既ニ屢屢論シタル如ク強者カ人類生存ノ道德タル天則ヲ厲行スル爲

## 國家ノ組成要素

ニ其強力ノ及フ領域内ニ基在セル人類ヲ以テ統合シタル一體即チ強制團體ナリ其故ニ(一)國家ノ建設者ハ社會ノ強者タリ(二)國家ハ強者カ道德ノ厲行即チ統治ノ目的ヲ以テ建設シタルモノナリ(三)國家ハ強者ノ道德ノ厲行即チ統治スル所ノ目的タル人類ノ統合體ナリ(四)國家ハ強者カ統合即チ強力ヲ以テ緊結シタル統合體ナリ(五)國家ハ統治セララルル人類ノ全體ニシテ土地ハ國家ヲ成スモノニ非ス統治ノ本據タル場所ナリ其故ニ國家ノ組成要素ハ強者ノ統合シタル人類ノミナリ(六)國家ハ人類ノ團體ナリ君主主體國ニ於テハ臣民タルモノナリ法人ハ國家ヲ組成スル團體員ニ非サルヲ以テ國民格ヲ有セス從ヒテ臣民格ヲ有スルコトナシ

ホーダン(ゲマイヤー)獨逸國法論第一號引照國家論ノ說

最高權ハ國家ノ成立要素ナリ

ギルケー(國家學會雜誌三〇四頁)ノ說

主權ハ國家成立ノ要素ナリ

ザイデル(獨逸帝國憲法註釋二頁)ノ說

同論

第三章 統治權ノ主體 第二節 主體ノ實體

統治權論

グライツ(政治學原論四四頁)ノ説

同論

ブルンチユリ(國家論五六頁)ノ説

同論

ゲルバー(獨逸國法概論第八節)ノ説

同論

ツアハリエー(獨逸國法及聯邦法論第一卷第一二節)ノ説

同論

ツオレン(獨逸國法論第一卷六三頁)ノ説

同論

ホルンハツク(國家學九頁一〇頁)ノ説

同論

トライチケ(聯邦及帝國論五二六頁)ノ説

同論

ツエブル(國法學第一卷第八節)ノ説

同論

ヘーネル(獨逸國法論第一卷九六頁)ノ説

國家構成ノ要素ハ機關ト國民ナリ

憲法

土地ト人民トハ國ノ以テ成立スル所ノ元質ナリ

穂積八束博士(憲法提要一〇頁一一頁)ノ説

國家構成要素ハ一定ノ民族一定ノ領土及獨立ノ主權ノ三トス

美濃部博士(日本國法學一三頁)ノ説

國家ハ國民、領土及統治權ノ三要素ヨリ成立ス

箕博士(國家之研究三頁三〇頁以下二〇七頁二一〇頁二四三頁二五一頁二五二頁二六四頁)ノ説

國家ハ多數ノ人ト領土ヲ其組織要素トス

上杉博士(憲法述義五七頁二二二頁二三二頁)ノ説

主權、領土及臣民ハ國家存立ノ缺クヘカラサル要素ナリ

織田博士(法學通論一〇〇頁一〇一頁)ノ説

國家成立ノ要素ハ人類一定ノ土地及統治組織ノ三ナリ

小野塚博士(法學協會雜誌第二一卷第五號)ノ説

土地ト人類トハ國家形成ノ要素ナリ

立博士(平時國際公法二四頁)ノ説

國家タルニハ一定ノ領土一定ノ人民及主權ノ三要素ヲ有スルコトヲ要ス

市村博士(憲法要論一一七頁)ノ説

第三章 統治權ノ主體ノ第二節 主體ノ實體



我帝國ハ天皇ト臣民ト一定ノ領土トヨリ成ルモノナリ  
同博士(國家及國民論四八頁)ノ說

國家ノ要素ハ一定ノ領土、多數ノ人類及統治關係ノ三ナリ  
清水博士(憲法篇一一九頁)ノ說

國家ハ權力者、土地及人民ヨリ成立ス  
同博士第一〇(版憲法篇三〇頁)ノ說

國家ハ人民土地及統治權ノ三者カ不可分のニ結合シタル統一團體ナリ  
高橋博士(平時國際法論二六五頁)ノ說

國家成立要素ハ人民、版圖及主權ノ三ナリ  
遠藤博士(明大講義平時國際法論一二四頁)ノ說

國家ハ一定ノ領域ヲ其成立要素ト爲ス  
井上博士(内外論叢第二卷附錄憲法講義要録)ノ說

國家ノ要素ハ一定ノ土地、複數人類及統治權ナリ

國家ノ要素ヲ説ク者區區ニシテ一致セサルノミナラス要素ト爲スコトヲ得  
サルモノヲ以テ要素ト爲スモアリ又要素ト爲スニ足ラサルモノヲ以テ要素  
ト爲スモアリ凡ソ要素ニハ成立要素ト成體組成要素トノ二アリ魚ノ成立ニ  
ハ河海モ必要ナル原素ナレトモ河海ハ魚體ヲ組成スル要素即チ成體要素ニ

非ス人ノ成立ニハ土地ノ存在スルコトヲ要素トスレトモ土地ハ人體ヲ組成  
スル要素即チ成體要素ニ非ス斯ノ如ク成立ニ必要ナル原素ハ必スシモ成體  
要素タルモノニ非ス余カ茲ニ國家ノ要素ヲ論スルモノハ成立要素ニ非スシ  
テ成體要素ノコトナリ國家ノ要素ヲ論スル者兎角此區別ヲ爲ササルコトノ  
アルモ亦其誤ヲ招ク原因ノ一タルヘシ(一)多クノ學者ハ土地ヲ以テ國家ノ要  
素ト爲セトモ土地ハ國家ノ成立存在ニ必要ナルコト吾人人類ノ生存ニ土地  
ヲ必要トシ魚類ノ生存ニ河海ヲ必要トスルト同シキモノナレトモ土地ハ國  
家ヲ組成スルモノニ非ス前ニ一言シタル如ク土地ハ強者カ道德履行即チ統  
治ヲ爲ス本據タル場所ナリ昔時ハ土地ヲ以テ國ト稱シタルモノナレトモ法  
學ノ智識ハ發達ニ伴ヒテ其誤ナルコトヲ覺知シ土地ヲ以テ國家ノ成體要素  
ト爲スハ進歩シタル法學ノ認メサル所ナリ(二)一定ノ民族ヲ以テ國家ノ成體  
要素ト爲ス者少カラスト雖モ其ハ原始時代ニ於ケル國家狀態ノ觀察論ニシ  
テ現時ノ國家ニハ一定ノ民族ヲ以テ國家ヲ組成セルモノ殆ントアルコトナ  
シ日本ノ如キモ多少ノ歸化外國人アルノミナラス臺灣ヲ獲得シ朝鮮ヲ領有

シタル爲メ千數百萬人ノ他民族ヲ混容セリ  
是ニ於テ一定ノ民族ヲ以テ國家ノ要素ト爲ス論者ハ民族ヲ異ニスル國家若  
クハ國民ヲ併領スルコトヲ得サル論結ニ陷ルモノナルカ故ニ同化説ヲ唱ヘ  
テ其説ノ缺點ヲ補正セントスルモ同化説ヲ唱フルニ於テハ國家ノ要素ニ民  
族ヲ一定スルノ要ナキノミナラス却テ其甚不可ナルヲ覺フルナリ(三)機關ヲ  
以テ國家ノ要素ト爲ス者アレトモ機關ハ國家統治ニ必要ナルノミニシテ國  
家ノ成體要素タルモノニ非ス(四)統治者統治權領土又ハ國民等ヲ以テ國家ノ  
成體要素ト爲ス者アレトモ統治者統治權領土又ハ國民ハ國家ヲ組成スルモ  
ノニ非ス國家ヲ組成スルトキハ國家ト共ニ生スル所ノモノナリ即チ其統治  
者ト言フハ國家前ニ在リテハ強者ニシテ國家ノ成立ト共ニ統治者ト爲ルモ  
ノナリ統治權モ國家前ニ在リテハ強力ニシテ國家ノ成立ト共ニ統治權ト爲  
ルモノナリ領土及國民モ國家前ニ在リテハ土地及人類ニシテ國家ノ成立ト  
共ニ領土及國民ト爲ルモノナリ其故ニ統治者統治權領土又ハ國民ヲ以テ國  
家ノ成體要素ト爲スハ誤ナリ

寛博士(國家之研究二一三頁)ノ説

新附ノ士民ノ如キ者モ客觀論トシテ漸次ニ同化セラレツツアルモノニシテ健全ナル普  
遍我(國家)ノ當然ナル擴張ノ途行ニ外ナラス

凡ソ成體要素タルモノハ構成シテ一體ヲ成スモノナラサルヘカラス又其組  
織前ニ於テ現存スルモノナラサルヘカラス又成體シタルトキハ之ヲ分解シ  
テ歸元スルモノナラサルヘカラス例ヘハ水ハ酸素ト水素トノ化成分ナリ其  
化成前ニ於テハ酸素ト水素ナリ其化成後之ヲ分解スレハ酸素ト水素トニ歸  
元スルモノナリ國家ノ成體要素モ國家ノ組成前ニ現存シ分解シテ歸元スル  
モノナラサルヘカラス國家前ニ存在セス又分解シテ歸元セサル統治者統治  
權領土又ハ國民ハ國家ノ成體要素タルコトナシ既ニ屢屢論シタル如ク國家  
ハ人類ノ統合體即チ團體ナリ又殆ント何人モ國家ヲ團體ナリト言ハサル者  
ナキカ如シ國家ノ團體ナルコトヲ認ムル以上ハ團體ハ人類ノ家團ナルコト  
ヲ否定シ得サルヘシ團體ヲ以テ人類ノ成團ナルコトヲ否定シ得サル以上ハ  
國家ハ人類ノ團體ナルコトヲ認メサルヘカラス道理ナリ國家ヲ以テ人類

ノ團體ト爲ス以上ハ國家ハ人類ヨリ組成スルモノニシテ國家ノ成體要素ハ人類ナリ然カモ人類ハ唯一ノ成體要素ナリト言ハサルヘカラス然ルニ國家ヲ人類ノ團體ナリト論シナカラ他ノ異物ヲ以テ國家ヲ混成セントスルハ國家團體ヲ否認スルモノニシテ矛盾ノ極ナリ

エリネツク(公權論總論第三節)ノ説

國家ハ國家ト稱スル人類團體ノ形體ナリ即チ一定ノ領土ニ定住シ統一ノ權力ニヨリ支配セラルル國民ナリ

オマイヤー(獨逸行政法第一卷第一章)ノ説

國家ハ國權ノ下ニ國民ヲ結合セル團體ナリ

グマイヤー(獨逸國法論緒論第二章第一節)ノ説

國家ハ一定ノ領土ヲ基礎トスル人ノ共同團體ナリ

穂積八束博士(憲法提要三五頁五五頁五六頁)ノ説

自然個人ハ法ノ構成單位ナリ國家ハ團體ナリ法ノ單位ノ合衆シテ更ニ個人以上ニ複雑ナル組織體ヲ成スモノナリ

美濃部博士(日本國法學六頁)ノ説

國家ハ多數人類ノ集合ヨリ成ル一ノ團體ナリ

岡博士(帝大行政法講義)ノ説

國家トハ土地ヲ基礎トスル人類團體ナリ

岡博士(憲法講話二頁)ノ説

國家ハ團體ナリ團體トハ共同ノ目的ヲ以テスル多數人ノ結合ナリ

岡博士(國家學會雜誌第二六卷第八號國家及政體論)ノ説

國家ハ共同目的ヲ有スル多數人ノ結合體ナルカ故ニ一ノ團體ナリ

織田博士(法學通論一〇〇頁)ノ説

國家トハ一定ノ土地ニ於テ統治組織ヲ有スル人類ノ團體ナリ

岡博士(改訂法學通論一〇四頁)ノ説

同論

清水博士(憲法篇四五頁)ノ説

國家トハ一定ノ土地ノ上ニ統治的ニ組織セラレタル人民ノ團體ナリ

岡博士(第一〇版憲法篇三頁)ノ説

國家トハ一定ノ土地ニ定着シ而カモ固有ノ統治權ニ依リ結合セラレタル人民ノ團體ヲ

指稱ス

上杉博士(帝國憲法述義二二頁)ノ説

國家トハ一定ノ土地ヲ限リ一定ノ主權ノ下ニ一定ノ多數ノ人類カ形成スル所ノ團體ナリ

同博士我カ國第一六二號我カ立憲ノ精神ノ説

大日本帝國ハ天皇ノ主權ノ下ニ於ケル日本國民ノ團體ナリ

市村博士(國家及國民論四六頁四八頁二七五頁二八三頁)ノ説

國家ハ國民ヨリ成立シタル團體ナリ

同博士(帝國憲法論七頁)ノ説

國家ハ人類ノ團體ナリ

遠藤博士(國際公法要論五七頁)ノ説

國家トハ一定ノ領域ニ居住シ最高主權ノ下ニ統率セラレタル人類ノ政治的團體ナリ

同博士(明大講義平時國際法論三六頁)ノ説

同論

余カ人類ヲ以テ國家ノ成體要素ト爲スモ單ニ人類全體ヲ以テ國家ト爲スモ  
ノニ非ス強者ノ力ニ因リテ緊結シタル人類ノ統合體ヲ以テ國家ト爲スモ  
ナリ從ヒテ緊結セラレサル人類ハ假令其統治ノ領域ニ在リト雖モ其國家ノ  
成體要素即チ構成分子タルコトナシ其緊結セラレタル人類全體即チ統合體  
カ國家ナルヲ以テ其統合體タル國家ヲ成ス所ノ其分子ハ即チ國民ナリ換言  
スレハ國家ハ國民ノ總額タル一體ナルカ故ニ國家ト國民國民ト國家ハ緊結

一體ニシテ離在獨存スルコトヲ得ルモノニ非ス其統合體ヲ以テ國民ヨリ離  
在獨存スル單一體ナリトスル説ハ國家ハ人類ヲ以テ國家ノ分子即チ國家ノ  
成體要素ト爲ス説ヲ否定スルニ非サレハ矛盾ナク成立スルコトヲ得サルモ  
ノナリ何トナレハ一定ノ人類ヲ緊結シテ統合シタル一體即チ其緊結セラレ  
タル國民ノ全體ヲ以テ國家トスルトキハ人類ハ國家ノ成體要素タルモノナ  
レトモ國家ヲ以テ國民ト離在獨存セル單一體ナリト爲ストキハ人類ハ國家  
ニ何等因縁ナキヲ以テ國家ノ成體要素ナリト言フコトヲ得サレハナリ國家  
ハ人類ヨリ組成スルモ組成後ハ單一體ト爲リテ國民ト離在獨存スルモノナ  
リト言フハ恰カモ人類ヲ以テ家屋建築ニ於ケル足場材ノ如クニ思考シ家屋  
ノ落成シタルトキハ足場材ノ不用ニ歸スモノナル如ク人類ハ國家建立ノ足  
場材タルモノナレトモ國家建立後ハ不用ノ長物ナリトスルニ在リ抑モ法學  
ハ法學化シ得ル實在現象ニ就キ宇宙ニ天存スル真理ヲ究明スルニ在リ團體  
ハ一致團體ナルニ於テハ其團體員タル人類相互ノ意思ノ連結ニ因リテ關係  
セル全人類ヲ結合シテ團體ヲ成シ強制團體ナルニ於テハ強力ヲ以テ關係セ

ル全人類ヲ緊結シテ團體ト爲スモノナルカ故ニ團體ナルモノハ意思又ハ強力ニ因リテ結合シタル人類ノ全體ナルコト明カニシテ其結合セル關係人類ノ合體カ實在セル現象ナリ法學ハ此實在現象ニ就キ宇宙ニ存在スル天理ヲ論究スルモノナリ人類ヲ以テ國家ノ成體要素ナリト爲シナカラ其要素ニ因リテ成體シタル國家カ單一體トナリ其成體要素タル國民ト離レテ獨存シ宙ニ漂在スト言フカ如キハ架空ノ想作ニシテ實在セル現象ニ非サルヲ以テ法學化セサルモノナルカ故ニ法學ノ論題タルコトナシト謂フヘキモノナリ試ミニ例ヲ設ケテ論者ノ一考ヲ乞ハンニ巨巖ヲ運送スルノ目的ヲ以テ壯丁十人力ヲ合セテ其目的ヲ遂行スル者アリトセヨ其壯丁十人ハ共同目的ノ爲ニ結合シタル一致團體ナリ其巨巖ヲ運送シタル者ハ壯丁十人ノ全體ニ非スシテ其壯丁ト離在獨存セル無形ノ單一體ナリトセンカ法學ニテハ解ク能ハサル問題ナリスノ如ク國家ハ團體ニシテ團體員タルヘキ人類ヲ以テ組成シタルモノナルカ故ニ國家ハ其成體要素タル人類ト離レテ存在スルコトヲ得ルモノニ非ス其團體員タル國民ノ合同力カ國家力タルモノナリ然レトモ國家

力ハ統治權ニ非ス統治權ハ國家力ヲ養成シ之ヲ行用シテ内外統治ヲ爲スモノナリ國家ト國民トヲ離在獨存セシムルトキハ國家ノ利益ト國民ノ利益トハ之ヲ別個ニ算定スヘシ國家ト國民トヲ同在一體トセハ國家ノ利益ハ國民ノ利益ナリ國家ノ利益ト人民ノ利益トハ同一ニシテ二アルコトノナキハ國家存在ノ理由ノ當然ナル道理ナリ

一本博士法令豫算論二頁ノ説

國家ハ人民ニ賴テ生存シ人民ハ國家ニ賴テ生存ス國家ノ利益ト人民ノ利益トハ結局ニ於テ二アルコトナシ

國家ハ人類ヲ統合シタル團體ニシテ其團體員ハ凡テ之ヲ國民ト言フナリ換言スレハ國民ハ凡テ國家ナル團體ノ分子ナリ從ヒテ國民ニシテ國家團體員ニ非サル者ナシ從ヒテ國民ニ團體員ト非團體員トノ區別アルコトナシ

市村博士(國家及國民論二八三頁二八四頁)ノ説

國家ハ國民ヨリ成立シタル團體ナリ國民ニ團體員ト非團體員アリ參政權ヲ有スル者ハ團體員ニシテ參政權ヲ有セサル者ハ非團體員ナリ朝鮮臺灣ハ團體員ナキヲ以テ帝國ノ構成分子ニ非ス然ルニ我政府力之ヲ憲法ノ治下ニ在ルモノト解スルハ不明ナリ

第三章 統治權ノ主體 第二節 主體ノ實體

國家ノ定義

以上論シタル如ク國家ハ人類ヲ以テ組成シタル團體ナリ然レトモ一致團體ニ非スシテ強制團體ナリ其何レノ團體ナリトスルモ單一體トシテ團體ノ組成分子タル國民外ニ別在獨存スルモノニ非ス假リニ單一體トシテ別在スルトスルモ統治權ノ主體タル人格ヲ有スルモノニ非ス又國家ハ單一體ナルト否トヲ問ハス自認ニ因リテ人格ヲ得ルモノニ非サルハ勿論法ニ依リテモ人格ヲ生スルモノニ非ス然ラハ余ノ見ル所ノ國家ハ如何ナル意義ノモノナリヤト言フニ余ハ左ノ如ク定義スヘシ

國家トハ一定ノ土地ニ基在シ統治ノ目的タル人類ノ統合體ナリ

國家若シ統治權ヲ有スルモノトセハ如何ニシテ之ヲ有スルモノト爲スヤ國家成立後ニ他ヨリ附着シテ之ヲ有スルモノト爲スカ又ハ國家成立ト共ニ發生シテ之ヲ有スルモノト爲スカ其前者ニ在リトセハ統治權ノ附着前ニハ統治權ハ何處何者ニ存シタルモノナリヤ又其後者ニ在リトセハ統治權ハ如何ニシテ國家成立ト共ニ生シタルモノナリヤ是等幾多ノ問題ヲ決スルトキハ忽チ迷夢ノ覺醒スルニ至ルコトナリ何人モ統治權ノ他來權ナルコトヲ説ク

國家力ノ主體

者ナク孰モ固有權ナリト言フニ一致スルヲ以テ統治權ハ國家成立後ニ他ヨリ附着シタルモノニ非スシテ國家固有ノモノトスヘシ統治權ヲ以テ國家固有ノモノトセハ統治權ハ國家成立ト共ニ發生シテ之ヲ有スルモノトセサルヘカラス統治權ハ國家ヲ維持スル力ナルヲ以テ國內ニ於テハ支配權タリ國外ニ對シテハ對抗權タルモノナリ國民力統治權ニ依リテ支配セラルルモノナル以上ハ支配者ノ別存スルモノナルコトハ當然ノ道理ニシテ支配ハ對人行爲ナルコト明カナリ若シ強ヒテ國家ナル團體ヲ以テ統治權ノ主體ナリトセハ國家ハ人類ヨリ組成セルモノナルヲ以テ其主體モ亦人類ヨリ組成セルモノトナリ國家ノ分子タル國民ハ亦統治權ノ主體タル分子ナリト言ハサルヘカラサル結果ニ到着スヘシ想フニ國家主體論者ハ團體力即チ國家力ト統治權トヲ混同セルモノナルヘシ國家力ハ團體員即チ國民ノ生存力ノ總和タル合同力ナリ國家力ノ強大ナルコトハ對外競争行爲ニ必要ニシテ對內生存行爲ヲ完成スルモノナルカ故ニ國家存在ノ目的ヲ達成スルニ缺クヘカラサルモノナレトモ統治權ニ非ス統治權ハ國家力ヲ養成シ行用スル所ノ力ノ強

大ナルニ至ルハ統治權ノ行動ノ良キニ適スルカ爲ナリ斯ノ如ク國家力ト統治權トハ全然別物ナルニ拘ラス之ヲ混同シ國家力ヲ以テ統治權ト爲シ統治權ノ主體ヲ以テ國家ナリト爲セリ國家力ヲ以テ統治權ナリトセハ國家ヲ以テ統治權ノ主體ナリトスル說ハ其當ヲ得タルモノナレトモ統治權ハ國家力ニ非サルカ故ニ國家ヲ以テ統治權ノ主體ナリト爲スハ眞ニ甚シキ謬論ナリ以上ニ論シタル如ク國家ハ強者カ人類生存ノ天則タル道德ヲ厲行スル爲ニ作リタル人類ノ統合體ニシテ人格ノ實在スルモノニ非サルハ勿論自認又ハ法産シタルモノニモ非ス統治權ハ權利ナルカ故ニ人格ナキ國家カ其主體タルコトヲ得サルハ當然ノ事ナリ國家ヲ其組成分子タル國民ヨリ離在別存スル所ノ單一體トスルコトノ空想ナルハ勿論之ヲ單一體ナリトスルモ人格ヲ有セサルカ故ニ統治權ノ主體タルコトヲ得ス統治權ハ其之ヲ内生發有スル者ニ存スルモノニシテ國家ニ内生發有スルコトノナキモノナルカ故ニ國家ハ統治權ノ主體タルコトヲ得サルモノナリ國家ハ國民ノ團體ナルカ故ニ國民ノ生存力ヲ合同シタル團體力即チ國家力ヲ存スルモ國家力ハ統治權ニ依

國家主體  
說否定

リテ養成セラレ統治權ノ行用ノ目的タルモノニシテ統治權ニ非ス世ノ國家主體論ヲ爲ス者ハ國家力ト統治權トヲ混同シ國家ヲ以テ統治權ノ主體ナリト爲スニ在ルヘシト雖モ其誤ナルコトハ既ニ說論シタル所ニシテ何レノ點ヨリ觀ルモ國家ハ統治權ノ主體タルヘキ眞理ヲ存スルコトナシ

ザイアール(一般國家論七頁四一頁)ノ說

國家ハ人格ヲ有セサルカ故ニ統治權ノ主體タルコトヲ得ルモノニ非ス

同氏(巴國國法論三五二頁以下)ノ說

國家ハ人格者ニ非サルヲ以テ統治權ノ主體タルコトナシ

同氏(獨逸帝國一八七六年年報六四一頁)ノ說

同論

レーム(獨逸帝國一一八五年年報七八頁)ノ說

同論

ボレンハツク(普國國法論第一卷一二八頁)ノ說

國家ハ統治權ノ主體タルモノニ非ス

エ、マイヤー(一八八八年年報五五〇頁以下)ノ說

同論

第三章 統治權ノ主體 第二節 主體ノ實體

(四)君主主義  
君主ノ意

既ニ屢屢論シタル如ク統治權ハ强者カ人類生存ノ天則タル道德ヲ履行スル所ノ行爲力ニシテ國家ヲ維持スル強力ナリ其國家團體員タル國民ハ其統治權ニ依リテ道德遵守即チ統治行爲ニ依ル支配強行ヲ受クルモノナルカ故ニ支配強行即チ統治行爲ヲ爲ス强者ナカルヘカラス換言スレハ道德ヲ履行スル者即チ統治者ト道德ノ履行ヲ受クル者即チ被治者トノ對立スルモノナカルヘカス其統治者ト被治者トノ關係カ統治關係ナリ統治關係ハ對内關係ニ在リテハ支配ト服從トノ關係ナリ其支配ヲ爲スハ統治權ノ表現ニシテ強力ノ作用ナリ其強力ノ生シ其強力ノ存有スル所ノ本體カ統治者ニシテ即チ統治權ノ主體タリ余ハ前ニモ論シタル如ク宇宙諸多ノ力ニ本體アルト同理ニ因リテ統治權ナル力ニモ本體アルモノナリ其本體ハ統治權ノ發生シ現有シ且ツ表現スル所ノ實體ナラサルヘカラス爾カモ治者トナリテ統治スル所ノ人格者ナラサルヘカラス國家ハ統治權ヲ發生シ現有シ且ツ表現スルコトヲ得ル實體タルモノニ非ス又人格者ニ非サルヲ以テ統治權ノ主體タルコトヲ得ルモノニ非ス神モ亦人格者ニ非サルヲ以テ統治權ノ主體タルコトナシ國

民ハ被治者タルモノニシテ統治權ノ主體タルモノニ非ス其故ニ統治權ノ主體タルコトヲ得ル者ハ人類中ノ最强者ニシテ統治ノ實力カ内生現有スル所ノ人類タラサルヘカス即チ事實上眞ニ道德ヲ履行スル所ノ統治力ヲ有スル者ナラサルヘカラス其統治ノ實力ヲ有スル者ハ或ハ一人タルコトアリ或ハ數人タルコトアリ其一人ノ力ヲ以テ國家ヲ統治スルモノナルトキハ之ヲ君主主體 (Monarchy, Monarchie) ト稱シ其數人ノ力ヲ合セテ國家ヲ統治スルモノナルトキハ之ヲ貴族主體 (Aristocracy, Aristokratie) ト稱ス

統治權ハ統治者ノ繼承者ヲ選定シ得ル權利ヲ有スル者ニ屬スト論スル者アリ統治者ノ繼承者ヲ選定スル行爲ハ統治權ノ行使ナルヲ以テ統治者ニ非サレハ之ヲ爲シ得サルヤ明カナリ乍併主體ハ選定ニ因リテ生スルモノニ非ス

マリオット(英國憲法政治第一章)ノ說

主權ハ實際ニ於テ主體ノ繼承者ヲ選定シ得ル權利ヲ有スル者ニ屬ス

君主ハ統治ノ實力ヲ有スルモノナリ統治ノ實力ヲ有スルカ故ニ君主ト言フナリ君主ナル語ハ Monarch ト同様ナレトモ法學上ニ於テハ單ニ統治者(Herr-scher, Sovereign) ノ義ニ解スルヲ至明ナリトス余ハ茲ニ君主ヲ以テ統治權ノ



主體トスルハ君主カ統治權ヲ有スト爲スカ爲ナリ人類生存ノ天則タル道德ヲ履行スル力即チ國家ヲ維持スル所ノ力カ君主ニ生シ君主カ之ヲ有シ君主カ之ヲ行フモノナルコトヲ認ムルニ因リ君主ヲ以テ統治權ノ主體ト爲シタルナリ其故ニ假令君主ノ名稱ヲ有スルモ其實統治權ヲ有スルモノニ非サルトキハ君主主體ニ非ス之ニ反シテ君主ノ名稱ヲ有セサルモ其實統治權ヲ有スルモノナルトキハ君主主體タリ曩ノ支那ニ於ケル袁世凱ハ大總統ノ名稱ヲ有スルニ過キサレトモ其實ハ統治權ヲ有シタルノ状態ニ在リタルヲ以テ余ハ袁世凱ヲ以テ君主タリシ者ト爲シ當時ノ支那國體ヲ君主主體ト言ハントス各國ニ皇帝ト稱シ王ト稱シ又ハ侯ト稱スル者少カラスト雖モ其皇帝ト稱シ王ト稱シ又ハ侯ト稱スル者カ凡テ君主ナリト言フコトヲ得ス假令皇帝ト稱シ王ト稱シ又ハ侯ト稱スルモ統治權ヲ有セサルモノナルトキハ君主ニ非ス其故ニ各國ノ皇帝王又ハ侯ニ就キ統治權ヲ有スルヤ否ヤヲ審考シテ君主ナリヤ否ヤヲ知ルヘキナリ統治權ノ主體ハ法ヲ以テ定メ得ルモノニ非サルカ故ニ各國ノ憲法ニ就テ其國ノ統治權ノ主體ヲ知ラントスルハ迂ナリ例

ヘハ獨逸帝國ノ憲法ニ依レハ獨逸皇帝ハ統治權ノ主體ニ非サレトモ獨逸帝國ニ於ケル統治權ハ正ニ現代ウキルヘルム皇帝ニ生シウキルヘルム皇帝カ之ヲ有シ又之ヲ行ハルルノ状態ニ在ルヲ以テウキルヘルム皇帝ハ疑ヒモナク君主タリト謂フヘシ畏レナカラ日本ノ天皇ニ就テ拜考スルニ統治權ハ天皇ニ生シ天皇之ヲ有シ又天皇之ヲ行ハルルコト日月ノ如ク明カニシテ些ノ曇リナク一點ノ疑ヲ存スルコトナシ其故ニ天皇ハ正ニ君主ニシテ統治權ノ主體タルコト微塵異論ノ挿ムヘキ餘地ヲ存セサルナリ日本ノ文化隆盛一ニ天皇ノ統治權ニ淵源セサルモノナシ國司能ク其職ヲ行ヒ國民能ク勵精スト雖モ國司能ク其職ヲ行ヒ國民能ク勵精スルモノハ凡テ天皇ノ統治權ニ根由スルカ爲ナリ換言スレハ國家力ノ強大ナルハ天皇ノ統治權ニ依リテ養成セラレタルモノナリ虚心平氣ニ默考スルモ統治權カ天皇外ニ在ルコトヲ發見シ得サルナリ余ハ之ヲ以テ天皇ハ君主ニシテ統治權ノ主體タルコトヲ斷言スルモノナリ

國家又ハ國民ヲ以テ統治權ノ主體ト爲シ天皇ヲ以テ其機關ト爲ス説ハ機關

ニ人格ヲ存セサルモノナルヲ以テ天皇ノ人格ヲ否定スルモノナリ天皇ノ人格ヲ否定スル結果ハ忠君ヲ否定スルコトトナルナリ或ハ曰ハン忠君ハ道徳上ノ論題ニシテ法學上ノ問題タルモノニ非スト然レトモ是レ未タ統治及道徳ノ何タルヲ知ラサル者ノ言ナリ統治ハ道徳ノ權現ナリ統治ノ本義ト道徳トハ同一天則ノ兩面ヲ成スモノナリ殊ニ君主ハ國家前ニ存在セシテ國家ト同時ニ發生シタルモノナルカ故ニ道徳ニハ隱在スルニ止マリ統治ニ出現シタルモノナルヲ以テ道徳面ニ在ルモノニ非スシテ統治面ニ存在ス從ヒテ忠君ハ道徳面ニ在ルモノニ非スシテ統治面ニ在ルモノナリ然ラハ忠君ハ道徳ノ論題タルモノナレトモ主トシテ統治ノ學題タルモノナリ教育ハ統治行為ナリ明治大帝ノ教育勅語ニ云云我カ臣民克ク忠ニ云云ト在リ統治機關タル學校ニ依リテ大ニ忠君ノ教育ヲ施セリ臣民ハ教育勅語ヲ奉シテ忠君ヲ行フヘキ義務ヲ負フモノナリ此義務ハ後ニモ説述スル所アル如ク臣民ノ統治權ニ對スル義務ナリ天皇機關説ハ教育勅語ヲ誤ナリトシテ忠君ノ教育ヲ受クルコトヲ避ケシムル教唆ノ結果ヲ生シ日本帝國教育ノ根底ヲ顛覆シ國體

ヲ危殆ナラシムルモノナリ

ザイデル(一般國家論四頁七頁四一頁)ノ説

君主ハ統治權ノ主體ナリ

岡氏(巴國憲法論第一卷一七〇頁三五二頁以下)ノ説

同論

岡氏(一八七八年獨逸帝國年報六四一頁)ノ説

同論

リング(一般國家論實驗的研究一四頁)ノ説

同論

レーム(一八八五年獨逸帝國年報七八頁)ノ説

同論

エ、マイヤー(一八八八年年報五五〇頁以下)ノ説

同論

伊藤公爵(帝國憲法義解六頁)ノ説

天皇ハ統治權ノ主體ナリ

加藤博士(國家之統治權三四頁)ノ説

同論

穂積八東博士(憲法提要一八三頁二一六頁)ノ説

第三章 統治權ノ主體 第二節 主體ノ實體

統治權論

上杉博士(帝國憲法綱領四一頁四八頁五〇頁五一頁)ノ説

同論

同博士(帝國憲法述義一八六頁)ノ説

同論

清水博士(憲法篇四九頁)ノ説

同論

市村博士(憲法要論一七一頁)ノ説

同論

吉野博士(中央公論第三二九號)予ノ憲政論ノ批評ヲ讀ムノ説

我國ノ國法上天皇カ最高權力者ノ地位ニ在ラセラルルコトタケハ明カナリ

穂積入東博士(憲法提要二〇四頁二〇五頁)ノ説

抑モ天子ニ公私ノ別ナシ神聖不可侵ノ性格ハ絕對ニ其一身ニ存ス官吏ノ其公職ニ付特別ノ保證榮典ヲ享有スルカ如キニハ非サルナリ故ニ天皇ノ身位ニ關シ公私ノ別ヲ立テ憲法ノ保護ハ專ラ其公ノ資格ニ關シ私ノ資格ニ於テハ臣民ト同シク法律ニ服從スル者ナリト説クアルハ我國體ノ法理ニ合ハサルナリ

美濃部博士(憲法講話六六頁六七頁)ノ説

君主ヲ統治權ノ主體ナリトセハ統治權ハ君主ノ一身上ノ利益ノ爲ニ存スル權利ナリト

云フ意味ニ歸ス

同博士(國家學會雜誌第二六卷第一〇號)國家及政體論ノ説

天皇カ御一身上ノ權利トシテ統治權ヲ保存シ給フト爲スハ之レ統治權カ上御一人ノ爲ニノミ存スト爲シ又統治ノ凡テノ作用ヲ以テ天皇ノ御一身ノ意思行爲ナリト爲スモノニシテ其非理ナルコト明瞭ナリ

織田博士(改訂法學通論二〇九頁)ノ説

我國家ノ統治者タル至尊ヲ天皇トシ其萬世一系タルヘキコトハ建國以來既定ノ大法ニシテ憲法ハ唯之ヲ表彰シタルニ過キス而シテ其國家ノ元首トシテ統治權ヲ總攬スルハ即チ其國家ノ最高機關タル所以ナリ

清水博士(第一〇版憲法篇二八五頁)ノ説

國家ノ統治權ハ即チ天皇ノ統治權ナリ天皇ハ國家ノ首腦ニシテ統治權ノ主體トシテハ國家其モノナリ

上杉博士(帝國憲法綱領四九頁)ノ説

ルソ天皇一身ノ私事アルコトナシ天皇ノ事ハ皆公事ナリ

君主ト公人

君主ト言フハ統治者ト言フ義ニシテ統治者ト言フハ統治權ヲ有シ之ヲ行フ者ト言フ義ナリ統治ハ天下ノ公事ナルヲ以テ統治者タル君主ハ公人ナリ自然人ハ皆私人格ヲ有ス君主ヲ組成スル實體モ亦自然人ナリ自然人タル以上

ハ個人ナリ私人格ヲ有スルモノナリ其自然人カ君主ヲ成ストキハ自然人タル天質ヲ沒滅スルト言フ理アルコトナシ統治ハ公事ナレトモ君主タル人ノ行爲ハ統治行爲タルト否トヲ問ハス總テ公事ナリト言フ理アルコトナシ又君主タル人ノ行爲ハ何事ニテモ總テ統治行爲トナル理モアルコトナシ統治ハ人類生存ノ天則タル道德ヲ厲行スル行爲即チ國家ヲ維持スル行爲ナリ君主ノ此行爲以外ノ行爲ハ統治行爲タルコトナシ統治行爲ハ公事ナレトモ統治行爲ニ非サル行爲ハ公事ニ非ス君主ニ公私ノ別ナシト言フ論者アリ其ハ君主ノ萬能ヲ説カン爲ノ前提ナレトモ君主ノ萬能ハ君主タル行爲即チ統治ニ付テ之ヲ言フヘキモノナリ統治ハ其目的ノ範圍ニ在リテハ君主ハ萬能タリ統治以外ニ在リテハ君主ノ萬能ナルモノアルコトナシ君主タル人ト雖モ人間ナルカ故ニ統治行爲ノミヲ爲スモノニ非ス統治行爲ノ外人間ニ必要ナル生存行爲ヲ爲スモノナリ從ヒテ財産ヲ有シ財産ノ得喪行爲ヲ爲シ其他統治ニ關セサル諸般ノ行爲ヲ爲スモノナリ君主ハ公人ナルカ故ニ私事ナケレトモ君主ヲ組成スル實體タル人ハ私人ナルカ故ニ幾多ノ私事アルモノナリ

論者ハ又神聖不可侵ノ前提トシテ君主タル人ノ行爲ヲ舉ケテ統治行爲ナリ私事アルコトナシト言フモ大ナル誤ナリ後ニモ述フル如ク統治行爲ノ不可侵ナルコトハ統治權ノ本質上然ルヘキコトニシテ特ニ條規ヲ俟ツノ要ナシ憲法ニ特ニ不可侵ヲ規定シタル所以ハ君主即チ統治者ノ地位ヲ尊重スル爲ニ君主タル人ノ公私ノ行爲ヲ問ハス無責任ト爲シタルモノニシテ自ラ別問題ナリ斯ノ如ク君主ニハ私事ナケレトモ君主ヲ成ス實體タル人ニハ私事アルナリ君主ニ私事ナキヲ以テ君主カ統治權ヲ有スト言フモ君主カ統治權ヲ私有スト言フ結果ヲ生スルコトナシ君主カ宇宙ニ立チ其力ノ及フ域内ニ於テ多數ノ人類ヲ緊結シ人類生存ノ天則タル道德ノ厲行即チ國家ヲ統治スルコトハ其有スル力ノ發現ナルヲ以テ君主カ統治權ヲ有スト言フハ當然ノ理ナリ聊カ虛妄ノ言ニ非ス

統治權ノ行使ニ依リテ利益ヲ受クル者ハ眞ニ多シ人類ハ其國民タルト領土ニ在ル國民外ノ人類タルトヲ問ハス利益ヲ受クルモノナリ殊ニ君主ハ道德ノ厲行ヲ以テ君主生存ノ要素タリ又大ナル榮譽タルモノナルヲ以テ最大利

受益者ト  
統治權ノ  
主體

益ヲ有スルモノト言ハサルヘカラス權利ハ利益ノ主體ニ屬スト言フ説ヲ是認ストスルモ國家ハ如何ナル利益ノ主體タルカ故ニ統治權ハ國家ニ屬スト爲スカ國家カ國民ヨリ離在獨存スル單一體ナルカ故ニ其單一體タル國家ヲ以テ利益ノ主體トシテ統治權ヲ有スルモノトセハ何故ニ同一ノ論法ヲ以テ國民ヨリ離在獨存スル單一體タル君主ヲ利益ノ主體トシテ統治權ヲ有スルモノトセサルヤ君主タル人格ヲ統治權ノ主體トスルトキハ君主ハ統治權ヲ私有スルコトトナルヲ以テ不可ナリトセハ國家タル人格ヲ統治權ノ主體トスルトキモ亦國家ハ統治權ヲ私有スルコトトナルカ故ニ不可ナリトセサルヘカラス國家人格ハ公人格ナルカ故ニ統治權ヲ私有スルコトナシトセハ君主人格モ公人格ナルカ故ニ統治權ヲ私有スルコトナシトセサルヘカラス若シ夫レ國家ノ利益ハ國民ノ利益ナリ國民ノ利益ハ國家ノ利益ニシテ二アルコトナシト言フ論法ノ下ニ國家ヲ統治權ノ主體ナリトスルトキハ國家ハ國民ノ團體ニシテ國民ハ統治權ノ主體タル團體ヲ組織スル分子ナルカ故ニ結局國民ハ統治權ノ主體トナリテ自家ノ權利ノ支配ヲ受タルト言フ奇妙ナル

現象ヲ見ルコトトナルナリ

美濃部博士國家學會雜誌第二六卷第一〇號國家及政體論ノ說  
權利ハ法ノ保護スル利益ノ主體ニ屬スルモノナルカ故ニ統治權ハ國家ノ利益ノ爲ニ存ス

君主ノ目的  
臣民ノ目的

君主ト臣民トハ共ニ團體タル國家ノ組成員ナルトキハ目的ヲ共同スルモノナリ權利主體ト權利客體トハ目的ヲ共同スルモノニ非ス然レトモ臣民ハ國家ノ組成員ナレトモ君主ハ國家ノ組成員ニ非ス團體タル國家ハ強者カ緊結統合シテ成立シ存在スルモノナルカ故ニ強者タル君主ハ國家外ニ在ルモノナリ又君主ト臣民トハ目的ヲ共同スルモノニ非ス君主ハ人類生存ノ天則タル道德ノ履行即チ統治ヲ以テ目的ト爲スモ臣民ハ其統治ヲ受ケテ生存スルヲ以テ目的ト爲スモノナルカ故ニ權利主體ト權利客體トノ矛盾ヲ生スルコトナシ假リニ國家ヲ以テ統治權ノ主體ト爲サンカ國家ノ目的ト其客體タル國民ノ目的トハ同一ナルヲ以テ權利主體ト權利客體トノ矛盾ヲ免カレサルコトトナルナリ

美濃部博士(國家學會雜誌第二六卷第八號國家及政體論)ノ說

君主モ臣民モ國家團體ノ組織員ナルカ故ニ共同ノ目的ヲ有スルモノナリ其共同ノ目的  
ヲ有スル君主カ統治權ノ主體ニシテ臣民カ其客體ナリト言フハ非ナリ法律上ノ觀念ニ  
於テ權利主體ト權利客體トハ決シテ目的ヲ共同スルモノタルヲ得ス

統治者ト  
認知

統治者カ統治權ヲ有スルハ固有スルモノナルカ故ニ何人ヨリモ授權セラ  
ルモノニ非ス又認知セララルモノニモ非ス余ハ意思ノ働カ君主ニ屬スルカ  
故ニ君主ヲ以テ統治權ノ主體ナリト爲スモノニ非ス意思ノ有無ヲ問ハス統  
治權ナルカ君主ニ生シ君主カ之ヲ有スルモノナルカ故ニ君主ヲ以テ統治  
權ノ主體ト爲スナリ若シ認知ニ因リテ統治權ノ主體カ定マルモノトセハ其  
認知者ハ君主以上ノ強者ナリト爲ササルヘカラス然ルニ余ハ其強者ヲ發見  
スル能ハサルナリ國會裁判所及政府ハ意思ヲ有スルモノニ非ス國會ノ立法  
協賛豫算議定裁判所ノ判決及政府ノ行政ハ機關作用ニシテ意思ノ行動ニ非  
ス其故ニ意思主體ヲ以テ權利主體ト爲ス說ヲ是認スルモ國會裁判所及政府  
ハ意思主體ニ非サルカ故ニ權利主體タルコトナシ

美濃部博士(國家學會雜誌第二六卷第一〇號國家及政體論)ノ說

君主ヲ統治權ノ主體ナリト爲ス見解ハ其權利カ自己ノ爲ニ認メララルト否トサ問ハス  
苟モ意思ノ働ノ屬スル所カ即チ權利ノ主體ナリト爲スノ思想ニ唯一ノ根據ヲ有スルモ  
ノナリ斯ノ如キ思想ヲ前提トスルトキハ國會ハ立法協賛豫算議定權ノ主體ナリ裁判  
所ハ司法權ノ主體ナリ行政官廳ハ行政權ノ主體ナリト言フコトヲ認メサルヘカラサル  
ニ至ルナリ

(五) 貴族  
主體  
貴族ノ意  
義

貴族ノ意義ハ種種アリト雖モ統治權ノ主體ニ關スル貴族ノ意義ハ複數ノ強  
者タルコトナリ複數ノ強者ハ其力ヲ合同シテ國家ヲ統治スルモノナルトキ  
ハ其合同力ハ即チ統治權ナリ其統治權ハ各強者ノ生存力ノ總和ナルヲ以テ  
其主體ハ全強者ノ團體ナリ法學上其團體ヲ稱シテ貴族主體ト言フナリ現代  
獨逸皇帝ハ事實上統治權ノ主體タルモ獨逸聯邦ヲ組織シタル當初ニ在リテ  
ハ其各邦ノ元者タリシ者カ相團結シテ合同力ノ團體ヲ作り以テ獨逸帝國ヲ  
統治シタルモノニシテ其各邦ノ元者タリシ者ハ貴族タリ其團體ハ貴族主體  
タルモノナリ國會議員タル複數ノ強力者カ其合同力ニ因リテ國家ヲ統治ス  
ルモノナルトキハ其集團タル國會カ統治權ノ主體ニシテ貴族主體タルモノ  
ナリ

グイシ(英國憲法三七頁)ノ説

英國ニ於テハ國會ハ主權者ナリ

ブラツグスト(英國憲法論一五三頁)ノ説

同論

貴族主體ヲ認ムルトキハ統治權ノ唯一不可分ノ本質ヲ破壞スルコトナキヤト言フニ各貴族カ各自獨存シテ國家ヲ統治スルニ於テハ統治權ノ唯一不可分ノ本質ヲ破滅スルニ至ルヤ勿論ナリ然レトモ各貴族カ成團シテ一體ヲ成シ各貴族ノ強力ヲ綜合シテ一權利ト爲シ以テ國家ヲ統治スルモノナルカ故ニ決シテ統治權ノ唯一不可分ノ本質ヲ破滅スルコトナシ

團體主體ヲ組織スル貴族ハ國家ヲ統治スル力ヲ有スルモノナルヲ以テ國家ヲ支配スル地位ニ立ツモノナリ從ヒテ其貴族ハ被支配者タル國民ニ非ス國民ニ非サルカ故ニ國家ノ内ニ在ルコトナシ本來其貴族ハ統治者タルヲ以テ君主ノ性質ヲ具有スルモノナリ從ヒテ君主ニ關スル説明ノ大部分ハ移シテ以テ貴族ノ説明ト爲シ得ヘシ然レトモ君主ハ唯一ノ統治者ノコトナルヲ以テ複數統治者タル貴族ヲ君主トハ言ハサルナリ權利ハ人格者ニ非サレハ之

貴族主體ト人格

貴族主體ト共和政

ヲ有スルコトヲ得サルハ權利ノ本質上當然ノ事理ナリ貴族主體ノ統治權ハ各貴族ノ強力ヲ綜合シテ強大ナル一個統治權ヲ成シタルモノナリ貴族主體ナル團體ハ團體員タル貴族カ結合セルモノナレトモ組成員タル貴族ヲ離レテ獨存スルモノニ非サルヲ以テ當然獨立シタル一個人格ヲ成スモノニ非ス其團體タル貴族主體ノ統治權ハ其全體員タル全貴族ノ統治權ナリ其故ニ貴族團體カ統治權ノ主體タリト言フハ貴族全體カ合同シテ統治權ヲ有スト言フコトナリ貴族全體カ共同シテ統治權ヲ有スト言フコトハ共同人格者カ統治權ヲ有スト言フコトナルカ故ニ統治權ノ主體カ人格者タルコトヲ失ハサルナリ

貴族主體ノ國ニシテ其主體タル貴族ノ鮮明セルモノト甚不鮮明ナルモノトアリ其不鮮明ノ國ニ在リテハ一定ノ主體ナク恰カモ國民カ申合セノ上ニテ政治ヲ爲スノ感アラシムルナリ茲ニ於テ斯ル状態ノ國ヲ稱シテ或ハ共和政體ノ國ナリトシ或ハ民主主體ノ國ナリトセリ定數ノ貴族カ合同シテ統治權ノ主體タルコトヲ稱シテ共和政體ナリト言フ者アリ然レトモ其ハ單ニ語ヲ

異ニスルマテノコトナルヲ以テ強ヒテ咎ムルノ要ナキモ國民全體カ共同和衷以テ國政ヲ行フモノトスルニ在ルトキハ極力論擊セサルヘカラス既ニ屢屢論シタルカ如ク國家カ統治權ノ主體タルコトヲ得サルハ勿論被支配者タル國民カ統治權ノ主體タル如キ矛盾ノ在ルヘキ理アルコトナシ論者北米合衆國ハ勿論英國ノ主體ヲ稱シテ民主主體ナリトセリ然ラハ北米合衆國民及英國民ノ全體カ政治ヲ行フモノナリヤト言フニ國會議員ヲ選舉スラ資格ヲ有スル者スラ眞ニ微微タルモノニシテ其大部分ハ政治上何等ノ意思ヲモ有スル者ニ非ス論者之ヲ辯シテ英米ノ如キハ直接民主政治ニ非スシテ間接民主政治ナルカ故ニ其大部分ハ直接政治ニ參與セサルモノナリ全國民カ直接政治ヲ爲サストモ代表者ニ依リ政治ヲ爲ストキハ民主主體ニ缺クル所ナシト言ハン然レトモ其ハ論者ノ說ノミ又斯ノ如キ說ヲ悅フ者ノ言ノミナリ眞理ハ之ヲ認ムルモノニ非ス如何ニ強辯スルモ被支配者タル國民カ支配權ヲ有スト爲スハ鹿ヲ馬ト爲サントスルノ類ニシテ人間ノ爲シ能ハサル業ナリ然ラハ英國及北米合衆國其他主體ノ何者タルカノ不鮮明ナル國ノ主體ハ如

## 國家ト非

何ニシテ之ヲ識ルコトヲ得ルヤト言フニ其ハ各國ニ就キテ之ヲ審究スルノ外ナキモ余ハ法學上ノ見地ヨリ之ヲ論明スルモノナリ國家ハ強者カ道德ヲ厲行スル爲ニ其力ノ及フ域内ニ於テ人類ヲ緊結シテ作りタル成團ナリ統治權ハ其道德ノ厲行即チ成團タル國家ヲ維持スルノ力ニシテ國民ニ對シテハ支配ノ力ナリ其力ノ生シ其力ヲ存有スル者カ即チ其力ノ有者ニシテ統治權ノ主體タリ其力ヲ多數ノ者ニテ有スル國ニ在リテハ誰カ其力ノ有者ナリヤ不鮮明ナルコトアレトモ其ハ主觀的ニ認識シ得サルマテニシテ事實上其力ヲ有スル者ノ存スルコトハ確實ナリ

君主主體國ニ於テハ論スルノ要ナケレトモ貴族主體國ニ於ケル其共同主體タルヘキ者ノ不鮮明ナルトキハ實際ニ統治力ヲ有スル者ノ何人ナルカヲ識ルニ難キコトアリ若シ何人モ統治力ヲ有スル者ナク國民全體カ共同シテ生存スル團體ニ過キサルトキハ其團體ハ群獸ノ生活ニ同シク國家ナルモノニ非ス未タ國家ヲ成ササルモノナリ人類未タ國家ヲ成ササルトキハ人類相互ニ世話ヲ爲シ合ヒテ共同生存ヲ爲スモノニシテ原始時代ハ勿論現代ニ在リ



テモ遠島未タ國家ヲ成ササル人類ノ生活ハ皆是ナリ斯ノ如ク人類カ如何ニ大ナル集團ヲ成シ如何ニ文化ニ浴シ國家以上ノ理想生活ヲ爲スコトアリト雖モ統治者ノ存在セサル集團ハ統治權ヲ以テ之ヲ維持スルモノニ非サルカ故ニ國家ニ非サルナリ

### 第三節 主體ノ繼承

統治權ハ統治者ニ存シ統治者カ統治權ヲ有スル間ハ永久ニ統治權ノ主體タリ既ニ度度論シタル如ク統治權ハ個人ノ之ヲ私有スルモノニ非スシテ公人タル統治者ノ公有スルモノナリ統治者ハ統治者ヲ組織スル者ニ交替アルモ統治權ノ存續スル間ハ一體トシテ永久ニ存在スルモノナリ法學上統治者ハ英國ニ於テ言フ所ノ國王ハ法人ナリト言フコトヲ認メサルモ國王ハ死セスト言フ眞理ヲ認ムルモノニシテ統治權ナル國家維持力ノ存續スル間ハ統治者ナル統治權ノ主體ハ不滅ナリジエームス一世ト二世トハ異ナレトモ統治者ハ唯一ナリ日本ニ於テハ神武天皇ヨリ聖上ニ至ル迄百二十二世ニ達シテ

主體ノ一

百二十二人ノ交替アリタルモ統治者ハ唯一體ナリ即チジエームス一世モ二世モ統治者ヲ組織シテ一體ヲ成シ神武天皇ヨリ聖上ニ至ル百二十二世ノ人ハ順次統治者ヲ組織シテ永ク一體ヲ成シタルモノナリ將來モ亦其統治權ノ存續スル間ハ皇統連續シテ統治者ヲ組織シ以テ永久ニ至ルコトヲ得ルモノナリ是レ即チ統治者ノ本質ニシテ世界ノ何處ニ在リテモ變ハラヌ道理ナリ此道理ハ君主主體タルト貴族主體タルトニ依リテ異ナルモノニ非ス貴族主體タル統治者ヲ成ス各貴族ニハ世襲的ノ者アリ定期的ノ者モアルヘシ其ノ世襲的タルト定期的タルトヲ問ハス相繼キテ貴族トナリ以テ統治者ヲ組織スルモノナルトキハ統治者ノ一體タルコトヲ失ハスシテ永久ニ存續スルモノナリ彼ノ國會カ統治者タル場合ニ在リテモ同シキコトナリ即チ國會議員ハ定期ニ於テ變替アルモ新舊相繼キテ統治者ヲ組織スルトキハ統治者ハ滅没セス始終一體ヲ成シテ永存スルモノナリ斯ノ如ク定期的他系交替ノ統治者カ前後一體ヲ成スモノナルカ故ニ同系連續シテ唯一體ノ統治者ヲ成スノ理ハ眞ニ明カナルコトナリ

抑モ皇位繼承ト言ヒ又ハ主體繼承ト言フ所ノ其繼承ナル語ハ當ヲ得タルモノニ非ス統治者ハ永久一體ニシテ延長連存スルモノナリ各世繼承スルモノニ非ス繼承ナル語ハ相續觀念ヨリ出テタルモノナルヘシト雖モ全然相續ノ意義ヲ有スルコトナシ余カ茲ニ主體繼承ノ語ヲ用フルハ慣例ニ從フモノニシテ其意ハ主體ノ延長連存ヲ言フモノナリ

穂積八束博士憲法提要二二三頁二二四頁ノ説

皇位ハ祖宗ノ靈位ナリ皇位ノ繼承ハ統治主權ノ永遠長久ノ大義ヲ彰表ス現世ノ天皇ハ

天祖ノ身ノ延長ニシテ皇位ノ繼承ハ皇位ノ延長ナリ

清水博士憲法篇八八頁八九頁ノ説

皇位トハ統治權ノ主體タル天皇ノ地位ヲ指スモノナリ皇位ニ在ル所ノ自然人ニ變更アルモ皇位ナルモノハ過去現在將來ヲ通シテ一位ナリ

同博士第一〇版憲法篇二七〇頁ノ説

統治權ノ主體トシテノ天皇ハ決シテ生死ノ運命ニ支配セララルモノニアラス其生死ノ

運命ニ支配セララルモノハ自然人トシテノ天皇ノミ自然人トシテノ天皇ハ崩御スルコ

トアルモ統治權ノ主體トシテハ天皇ハ崩御スルコトナシ統治者タル天皇ハ自然人タル

天皇ノ交代ニ拘ハラヌ萬世ニ涉リテ不易ナルモノナリ

寛博士國家之研究三二九頁ノ説

天皇ハ不滅ナリ肉體ノ何々陛下ト申上ケル御方ハ崩御セララルカモ知レサルモ天皇ト

申上ケルトキハ無量壽ナリ又天皇ハ過去現在未來ヲ通シテ現在シテ御在テニナルナリ

上杉博士帝國憲法述義二〇六頁ノ説

天皇ハ天祖ノ遺靈ヲ承ケ之ヲ一身ニ體得シテ天祖今モ猶在スカ如ク國ヲ知ロシ召サル

ルナリ天皇ヲ仰クコト祖宗ヲ仰クト異ナル所ナシ天祖ノ靈魂ハ永久亡ヒス今モ尙生活

シ活動シ給フモノナリ皇位繼承ノ意味ハ茲ニ在リ歷代ノ天皇在リト雖モ上下一貫シテ

天祖ノ遺靈ナリ

織田博士改訂法學通論二一〇頁ノ説

皇位ヲ繼承スルハ統治權ヲ繼承スル所以ナリ

市村博士帝國憲法論三一頁三一二頁ノ説

我國法上ノ觀念トシテハ皇位ヲ繼承クハ天祖ノ位ヲ承ケルモノナリ天ツ日嗣ハ一アリテ

二無キハ神代以來ノ確信ニシテ爾來傳ヘテ今ニ至リ未タ嘗テ國土ヲ分割シテ數子ニ分

チシコトナク又皇位ヲ分チテニトセル例ナシ之レ統治權ノ性質トシテ當然ナリト雖モ

又實ニ祖宗ノ位テフ不可分ノ地位ヲ繼承スルノ觀念カ偶然統治權不可分ノ觀念ト一致

シテ一矢素レサリシニ因ラスンハアラス

日本ニ於テハ皇位ハ天祖統治者ノ延長連存ナルコト人間生命ノ一體延長ナ

主體一體  
統治行為

ルト同シキ事ニシテ皇位ニ在リタル所ノ人人ニ變更アリタルモ皇位ハ正シク一體ノ延長連存ヲ成シテ天壤無窮ノ繁榮ト國運ノ隆盛ヲ致セリ君民ノ幸福此上ナキコトナリ併シナカラ皇位即チ統治者ノ一體ナルコトハ統治者ニ關スル普遍真理ナルヲ以テ獨日本ノ特有ニ非ス日本ノ世界ニ冠タリト誇ル所ハ太古建國ノ時ヨリ三千年ノ久シキニ亘リテ統治者ノ延長一體ヲ成シ未來永久ニ變替ナキ確固タル實象ヲ言フモノナリ

統治權ノ主體ハ君主タル主體ヲ組成スル人人ニ交替アルモ永久一體ナルヲ以テ其主體タル君主タル人ノ崩御ニ因リテ其在世中ノ行為ハ其効力ヲ失フト言フ論難ノ不當ナルコトヲ知ルヘシ君主ヲ組成スル人カ統治權ヲ有スルニ非スシテ君主カ之ヲ有スルモノナルヲ以テ君主ヲ組成スル人ニ崩御アルモ君主ハ不滅ニシテ統治者ハ一體ナルカ故ニ統治行為ハ永久ニ失効スルコトナシ

美濃部博士(國家學會雜誌第二六卷第一〇號國家及政體論)ノ說  
統治權ヲ以テ君主ノ權利ナリトセハ統治權ニ基ク行為ハ皆君主ノ意思行為トシテノミ

其効力ヲ存シ國家行為トナラスシテ君主行為トナリ其結果君主崩御シ給フトキハ其總行為ハ其効力ヲ失フコトトナルナリ

#### 第四節 統治者ノ義務

統治者ト  
道德  
統治者ト  
義務

統治ハ強者カ人類生存ノ天則タル道德ヲ履行スルニ在リテ其之ヲ履行スルモ亦天則ナリ其故ニ強者タル統治者カ天則ニ違反スルコトナク其行為カ道德ノ履行タラサルヘカラス統治者カ其天則ヲ守リ道德ヲ履行スルコトハ統治者ノ義務ナリ換言スレハ統治者ハ統治ノ目的ヲ完行スル所ノ義務ヲ有スルモノナリ統治者カ統治ヲ爲ス所ノ力ハ統治權ナリ統治ヲ爲スハ統治權ノ實行ナルヲ以テ統治ヲ爲スニ義務ノ存スルモノニ非サルカ如キモ其義務ハ統治權ヲ完行スルノ義務ナリ統治者カ社會ノ最高地位ニ在リテ道德ヲ履行シ人類ヲ支配スルハ統治者タル強者ノ私慾ヲ逞クスル爲ニ非ス又其強力ノ恣食ニモ非ス人類ヲシテ天則ノ下ニ生存セシムルニハ之ヲ履行スル所ノ強者ナカルヘカラス其履行者タル強者ノ存在スルコトモ亦宇宙ノ天則ナリ各

人カ天則ヲ守ルト同シク強者モ亦天則ヲ守ラサルヘカラス斯ノ如ク強者タル統治者ハ天則ニ依リテ統治ヲ爲スヘキモノナルカ故ニ統治權ヲ完行スル所ノ義務ヲ有スルモノナリ其故ニ統治者ハ君主專制タルト君主立憲制タルトヲ問ハス又貴族專制タルト貴族立憲制タルトヲ問ハス統治ノ目的ヲ完行スルコトニ努メサルヘカラス歐羅巴諸國ニ於テハ古來統治者ノ權利アルコトヲ知リテ其義務アルコトヲ知ラス其權利ハ萬能無限ニシテ苟モ人力ノ行爲ハ凡テ統治行爲ナリ王者ノ權利ナリト稱シテ或ハ憎愛ニ依リテ重臣ヲ上下シ或ハ私慾ヲ計リテ重稅ヲ課シ或ハ私怨ニ依リテ刑罰ヲ科シタル等專恣亂行ヲ極メ遂ニ衆怨ノ府ト爲リテ追ハルルニ至リタル歷跡枚舉ニ遑アラサルナリ是レ全ク統治者タル者カ其義務ノ存在ヲ知ラサルシ結果ナリト言ハサルヘカラス東洋ニ在リテハ古來王道ト稱シテ統治者ニ統治權完行ノ義務アルコトヲ認メ殊ニ日本ニ於テハ歷代ノ天皇カ能ク之ヲ守ラセラレタル爲メ統治權ノ目的ヲ完行シ君民相親ミ國家隆盛以テ今日ノ強大ヲ爲シタル所以ナリ古來海外ニ於テ國家ノ亡滅シタルモノノ多クハ統治者カ其義務ヲ守

ラサリシ爲ナリ其故ニ立憲制度ヲ採リテ憲法ヲ設ケ統治權行使ノ本則ヲ定メタル以上ハ統治者ハ立憲ノ本義ニ悖ラス憲法ノ條規ヲ無視セス以テ統治權ヲ行使スルコトハ統治者ノ統治權完行ノ義務ナリ寵臣ナルカ故ニ立憲ノ本義ニ悖リタル者即チ輔與ノ大任ヲ盡ササリシ者ノ責任ヲ問ハスト言フカ如キコトアリテハ統治權完行ノ義務ニ違フコトトナリテ民心ニ與フル惡影響ハ眞ニ少キモノニ非サルナリ君寵ヲ辱クスル者ハ大ニ心ヲ用ヒテ君主ヲ黨争ニ引入ルルカ如キ不忠ノ行爲アルヘカラス自己又ハ自黨ノ利ヲ謀ル爲メ統治者ノ義務ニ違ヒ君德ヲ紊ルコトアルモ之ヲ願ミスト言フカ如キコトアリテハ不忠ノ大罪此上アルコトナシ古來何國ニ於テモ不忠ノ臣ナキニ非サレトモ其ハ殆ント個人的行爲ニシテ單ニ君意ニ反ストカ君主ノ機嫌ヲ損ネタリト言フニ止マリ君主ヲシテ自己又ハ自黨ノ利益ヲ圖ル爲メ其統治權完行ノ義務ヲ悖ラシメタル者ハ未タ其多クアラサルナリ假令其非難者カ少數ナル敵黨ナリトスルモ又國民ノ幾小部分ニ過キストスルモ斯ル行爲ノ民心ニ惡影響ヲ及ホスコトハ將來漸次君民ノ親和ヲ害スル虞ナシトセサルカ

故ニ非常ノ留意ヲ要スヘキコトナリ論者アリテ統治者ハ統治權ヲ行フ爲ニハ憲法ヲ廢シ憲法ノ施行ヲ中止シ其他憲法及法律ノ規定ニ異リタル行爲ヲ爲スモ其自由ナリト論スルコトアレトモ是レ亦統治者ニ義務ノ存在スルコトヲ知ラサル者ノ言ナリ統治者ハ統治權ヲ完行セサルヘカラス統治權ヲ完行スルニハ民心ヲ歸向セシメサルヘカラス民心ヲ歸向セシムルコトハ統治權ヲ完行スル所以ノ一ナリ統治者カ自ラ以テ統治ノ目的ヲ達スルニ必要ナル行爲ナリト信スルモ民心ノ逆戻ヲ顧ミス其意ニ任シテ或ハ憲法ヲ突廢シ或ハ憲法ノ施行ヲ中止シ又或ハ憲法法律ノ規定ヲ無視シテ專制スルカ如キハ統治者ノ統治權完行ノ義務ニ違フモノナリ

以上論述シタル如ク統治者ハ統治者ヲ成ス所ノ個人ニ非サルヲ以テ國家ハ其個人ノ私利又ハ私意ノ目的物タルモノニ非ス統治者カ統治者ヲ要スル所ノ天則ニ從ヒテ統治權ヲ完行スヘキ義務ヲ有スルコト明カナリ

ブルンチユリ(國家論第三卷第六章)ノ說

君主ハ民意ニ注視シ公益ヲ計ラサルヘカラサル統治義務ヲ負フモノナリ若シ其努ムヘ

キ義務ヲ怠リ自然ノ發達ニ背戻シ時勢ニ逆フカ如キコトアルニ於テハ齊ニ民庶ノ不満ヲ招ク虞アルノミナラス不測ノ慘界ニ驅逐セララルルコトナキヲ保セス

伊藤公爵(帝國憲法義解五七頁)ノ說

國權ハ危難ノ時機ニ際シ國家及國民ヲ救濟シテ其存立ヲ保存スル爲ニ唯一ノ必要方法アリト認ムルトキハ斷シテ法律及臣民權利ノ一部ヲ犧牲ニシテ以テ其最大目的ヲ達セサルヘカラス之レ元首ノ權利ナルノミナラス又最大義務ナリ

統治者ノ  
義務ト  
權  
利者

統治權ハ統治者ニ固有ナル如ク統治者ノ義務モ亦統治者ノ固有ノモノニシテ何人ヨリ負擔シタルモノニ非サレハ何人ニ對シテモ負擔スルモノニ非サルナリ統治者ノ此義務ヲ有スルハ宇宙ノ天則カ統治者ナル強者ヲ要シタル結果ナリ歐羅巴ノ君主カ即位式ニ當リテ天神ニ對シ統治者ノ義務ヲ履行スヘキ宣誓ヲ爲スハ其義務ノ存在ヲ認ムルモノナルモ天神ニ對スル義務ナリトセハ統治者ノ本質ヲ誤ルモノト言ハサルヘカラス

第五節 統治者ノ不可侵

神聖不可

神聖不可侵(Unverletzlichkeit, issacred and inviolable)ト言フハ神聖即チ無責任ナル

カ故ニ不可侵即チ論難侵瀆スヘカラスト言フ義ナリ

市村博士(憲法要論一八九頁一九〇頁)ノ説

神聖トハ人カチ以テ侵スヘカラサル義ナリ不可侵ト同義ナリ

同博士(帝國憲法論二九二頁)ノ説

神聖トハ不可侵ノ限度ヲ示シタルモノナリ不可侵トハ一ハ天皇ノ行爲ノ無責任ニシテ

他ノ一ハ天皇ニ對シ其神聖ヲ干瀆スヘカラサルコトナリ

清水博士第一〇版(憲法篇三二四頁)ノ説

〔神聖〕トハ法律上何等ノ意味ナシ不可侵トハ尊嚴ヲ害スル如キ法律上ノ責任ヲ負ハシム

ルヲ得サルヲ云フ

統治者ノ  
責任ト問  
責者

曩ニ論シタル如ク統治者ハ統治權完行ノ義務ヲ有スルモノナリ從ヒテ之ヲ  
法律的ニ論スルトキハ其義務違背ヨリ生スル責任ヲ問フト言フ論結ヲ生ス  
ル譯ナリ然レトモ法學ノ見地ヨリ之ヲ論スルトキハ凡ソ統治關係ニ於テ責  
任ヲ問フ者ハ自己ヨリ強者ナラサルヘカラス統治關係ニ於ケル強者ハ統治  
者ナリ其故ニ統治關係ニ於テ問責權ヲ有スル者ハ統治者ニシテ統治者ノ外  
ニ在ルコトナシ是レ統治權ハ最高權ニシテ統治者ノ外ニ之ヲ有スル者ナケ  
レハナリ其故ニ統治者ハ統治權完行ノ義務ヲ有スルモ義務違背ノ責任ヲ生

スルモノニ非ス然レトモ統治者ハ自然人ヲ以テ組成スルモノニシテ統治者  
ノ智能ハ自然人ノ智能ナリ如何ニ明君智主タリト雖モ時ニ統治ノ過誤ナキ  
ヲ保セス又機宜ノ失策ナキヲ圖ラレス其過誤失策ヲ以テ之ヲ法律的ニ論シ  
君主ノ統治權完行ノ義務違背ヨリ生スル責任アリト論スル者ナキニ非ス民  
主主體論者及國家主體論者ハ之ヲ論シ又之ヲ實現シテ大戰亂ヲ惹起シタル  
事實ハ歐羅巴ノ歷史上少カラサルナリ斯ノ如ク法律的ニ君主ノ責任ヲ論ス  
ル者ハ民主主體論者及國家主體論者ニシテ君主ヲ以テ統治機關ト爲ス前提  
ヨリ生スル論結ナリ

君主ノ無責任ヲ以テ政策ニ歸ストノ説ヲ爲ス者アリ此説ハ全然其當ヲ得タ  
リト言フコトヲ得サレトモ亦之ヲ蔑視スヘキモノニ非ス英吉利ニ於テハ何  
人モ國王ハ惡事ヲ爲スコトヲ得スト言ヒ傳ヘタリ諸國ノ憲法ニ於テ君主ノ  
神聖不可侵ナルコトヲ規定セリ其ニハ幾多ノ理由アルナリ(一)法學上統治者  
カ統治上ノ責任ヲ有セサルハ當然ナレトモ之ヲ明確ニスル爲メ規定ヲ設ク  
ルニ在リト爲シ(二)法學上君主ハ統治機關ナルカ故ニ責任ヲ有スルヲ以テ之

ヲ免除スル爲メ規定ヲ設ケタルニ在リト爲シ(三)君主カ統治行爲ニ付テ責任ヲ負ハサルハ言フヲ待タス君主タル統治者ヲ組成セル自然人ノ私行爲ニ付テモ責任外ニ在ルモノト爲セリ余ハ各國憲法ニ於テ統治者ノ神聖不可侵ヲ規定シタル理由ハ(一)(二)ニ非スシテ(三)ニ基ク政策ニ在リト爲ス者ナリ蓋シ統治ニ甚必要ナルモノハ統治者ノ尊嚴ナリ又統治ニ最必要ナルモノハ君民ノ親和ナリ統治行爲ニ付テハ統治者外ニ問責者ナキヲ以テ問責スルコトヲ得サルハ當然ナルカ故ニ規定ノ要ナキモ統治者ヲ組成スル自然人ノ私行爲ニ付テハ或ハ私人行爲ニ關スル法規ニ依據シテ論難抗擊ヲ爲ス者ナキヲ保セス斯クテハ統治者ノ尊嚴ヲ害シ君民ノ親和ヲ缺キ國家ノ存在ヲ危殆ナラシムル虞ナシトセサルヲ以テ憲法ニ依リ君主ヲ一切ノ責任外ニ在ルモノト爲スコトヲ規定スルノ要アリ君主ハ公人ニシテ君主ヲ組成スル人ハ私人ナリ從ヒテ君主ニ統治行爲アレトモ私行爲ナク君主ヲ組成スル人ニ私行爲アレトモ統治行爲ナシ君主カ自己ヲ組成スル人ノ私行爲ヲ問責スルトキハ遂ニハ統治者ヲ組成スル人ヲ失ヒテ統治者ヲ滅没スル所ノ結果ヲ生スルカ否ラサ

レハ問責力ヲ失フニ至ルヘキモノナルカ故ニ神聖不可侵ノ規定ヲ設ケテ君主ヲ組成スル人ノ私行爲ニ付テモ君主ヲ責任ノ外ニ在ルモノト爲スヲ必要トスルモノナリ君主ヲ組成スル人ノ私行爲ニ付テ君主ヲ責任ノ外ニ在ルモノトスト言フハ君主カ君主ヲ組成スル人ノ私行爲ノ責任ヲ問ハスト言フ義ナリ

ブルンチユリ(國家論第四卷第二章)ノ說

現今ノ君主ヲ以テ無責任ト爲スハ政治上頗ル重要ナル理由アリト雖モ理論ニ在リテハ必要トセサルナリ

清水博士第一〇版憲法篇三二三頁ノ說

憲法第三條ニ天皇ハ神聖ニシテ侵スヘカラストアリ本條ノ天皇トハ統治權ノ主體タル天皇ヲ指スモノニアラスシテ一個人トシテノ天皇ヲ指スモノナリ

統治者ノ統治行爲ニ於ケル神聖不可侵ハ法學上規定ヲ要スルコトニ非ズシテ當然ノコトナルハ既ニ説論シタル所ナレトモ統治者ニ非サル國王ノ統治作用ニ於ケル神聖不可侵ハ法學上規定ヲ要スルコトナルヲ以テ諸國憲法ノ神聖不可侵ノ規定ハ其多クハ統治行爲及私行爲ノ兩面ヲ概括的ニ規定シタ

第三章 統治權ノ主體 第五節 統治者ノ不可侵

佛蘭西一七九一年憲法第五八條

國王ハ神聖ニシテ冒瀆スヘカラス

同一八一四年憲法第一三條

國王ハ冒瀆スヘカラサルモノニシテ神聖ナリ

奧地利憲法第四篇第一章

皇帝ハ神聖ニシテ侵スヘカラス又責ニ任スルコトナシ

白耳義憲法第六三條

國王ノ身體ハ侵スヘカラス

瑞典憲法第三條

國王ノ身體ハ神聖ニシテ侵スヘカラス責任アルコトナシ

西班牙憲法第四二條

國王ノ身體ハ神聖ニシテ侵スヘカラス又責任ヲ負フコトナシ

荷蘭憲法第五三條

國王ハ侵害スヘカラス

伊太利憲法第四條

國王ノ身體ハ神聖ニシテ侵スヘカラス

丁抹憲法第一二條

國王ノ身體ハ神聖ニシテ侵スヘカラス國王ハ責ニ任セス

普魯西憲法第四三條

國王ノ身體ハ侵スヘカラス

統治者カ統治行爲ニ就キ國民ニ對シテ責任ヲ負ハサルハ國民カ統治者ニ對スル羈束者ニ非サルカ爲ニシテ法ノ結果ニ非ス神聖不可侵ヲ論スル者多シト雖モ論者ノ說ニ依ルトキハ統治者ハ法律上ノ責任ヲ負ハスト言フニ在ルカ故ニ法律上責任ヲ負ハサレトモ法律外ニ於テハ責任ヲ負フト言フコトニナルヲ以テ法律外ニ於テハ統治關係上當然責任ヲ負フモノナリト言フ論結ヲ生スヘシ統治者ハ統治權ヲ完行スヘキ義務ヲ負フモノナレトモ國民ノ羈束スルコトヲ得ル義務ニ非サルヲ以テ國民ニ對シテ責任ヲ負フモノニ非ス從ヒテ統治者ハ統治行爲ニ就テハ法律ニ依リテ責任ヲ負ハサルノミナラス統治關係上當然無責任即チ神聖ナリ統治者ヲ組成スル所ノ自然人ノ私行爲ニ就テハ自然人タル責任ヲ有スルモノナルカ故ニ法ヲ以テ其責任ヲ除却スルニ非ヤレハ無責任即チ神聖トナルモノニ非ス憲法ハ實ニ統治者ヲ組成ス



ル自然人ノ私行爲ニ關スル責任ヲ除却シテ神聖不可侵ト爲シタルモノナリ

伊藤公爵(憲法義解五頁)ノ説

天地剖判シテ神聖位ヲ正ス蓋天皇ハ天縱惟神至聖ニシテ臣民群類ノ表ニ在リ欣仰スヘクシテ干犯スヘカラス故ニ君主ハ固ヨリ法律ヲ敬重セサルヘカラス而シテ法律ハ君主ヲ責問スルノ力ヲ有セス獨不敬ヲ以テ其身體ヲ干瀆スヘカラサルノミナラス併セテ指斥言議ノ外ニ在ル者トス

穂積八束博士(憲法提要二〇四頁)ノ説

天皇ノ身位ハ即チ天祖ノ靈位ナリ統治ノ大權ハ即チ天祖ノ威稜ナリ天縱惟神萬世相承ケ一系易ラス至神至聖仰クヘク犯スヘカラス民族ノ之ヲ崇拜スル其始祖ノ在スカ如シ國體正ニ此ニ存ス

上杉博士(帝國憲法述義二〇四頁二〇五頁)ノ説

憲法第三條ハ天皇ハ主權者ナルカ故ニ當然法律上ノ責任ヲ負ハサルコトヲ明ニシタルモノニシテ歐洲君主諸國ノ如ク本來君主ハ責任ヲ負フモ其責任ヲ盡サシムルトキハ國家自體ヲ危カラシムルニ至ル虞アルヲ以テ免除シタルモノトハ異ナルナリ

統治者ニ對スル論ノ許否

以上論シタル如ク統治者ニ對シテ問責權ヲ有スル者ナキヲ以テ統治者カ統治權完行ノ義務ニ違フコトアリト雖モ責任ヲ生スルモノニ非ス責任ヲ生ス

ルモノニ非ストセハ何人モ統治者ニ對シテ其失政ヲ批議論駁スルコトヲ得サルモノナリ統治行爲ノ論評ハ政治上ノ問責ナリ神聖不可侵ハ一切ノ責任ノ外ニ在ルコトナリ其故ニ統治行爲ノ論評ハ神聖不可侵ニ反スルモノナリ國民及領土在留人類ハ統治者ニ對シテ服從ノ義務アリ殊ニ國民ハ忠君ノ義務アリ責任ナキ君主ノ行爲ヲ批議論駁スルハ服從殊ニ忠君ト相容ルルモノニ非ス是ヲ以テ余ハ國民及領土在留人類ハ君主ノ失政ヲ論難スルコトヲ得スト爲スモノナリ

統治者カ自己ノ統治行爲ニ付テ臣下ニ自由論評ヲ許容シタリトセハ臣下ハ自由ニ統治者ノ統治行爲ノ當否ヲ論難駁評スルコトヲ得サルニ非サレトモ未タ斯ル許容アリタルコトヲ聞カス抑モ統治權ノ性質上斯ル論評ヲ許容スルコトヲ得ルモノナルヤ之ヲ許容スルコトヲ得サルモノナリトセハ言論ノ自由ヲ束縛スルモノニ非ス言論ノ自由ナキモノナリ論者ハ統治行爲ハ國家行爲ニシテ君主行爲ニ非サルヲ以テ統治行爲ニ就テ論評スルモ君主行爲ヲ論評スルモノニ非サルカ故ニ差支ナシ君主行爲ニ就テハ論議スヘカラスト

言フモ余ハ統治權ノ性質上服従者ハ統治者ノ統治行爲ヲ論評スルコトヲ得  
スト爲ス者ナルカ故ニ假令統治者カ其論評ヲ許容スルコトアルモ其論評ハ  
忠君ノ義務ト容レラレサルヲ以テ臣民ハ努メテ之ヲ避ケサルヘカラスト論  
スル者ナリ論者ノ説ノ如ク國家カ統治者ニシテ君主カ其機關ナリトセハ余  
ハ其所謂國家行爲ニ就テハ論評スルコトヲ得サルモ機關作用ニ就テハ論評  
スルコトヲ得ト爲スモノニシテ論者ト全然立論ノ根據ヲ異ニスルモノナリ  
從ヒテ其所謂國家行爲ニ就テ論評スルコトヲ得サルハ統治權ノ本質ヨリ生  
スル結果ナルヲ以テ論評禁制ノ規定ヲ要セサレトモ機關作用ノ論評禁制ハ  
規定ヲ要スルナリ然レトモ余ハ國家ヲ以テ統治權ノ主體ト爲サス君主又ハ  
貴族ヲ以テ統治權ノ主體ト爲スモノナルカ故ニ其統治者タル君主又ハ貴族  
ノ統治行爲ニ就テハ服従者ハ論評スルコトヲ得スト論スルモノナリ假令論  
者ノ論スル如ク君主ノ大權ノ行動カ國家行爲ト爲ルモノトスルモ其所謂國  
家行爲ノ當否ハ君主ノ大權ノ行動ノ當否ニ因ルヲ以テ其國家行爲ノ當否ノ  
論評ハ取りモ直サス君主行爲ノ當否ヲ論評スルコトナリ君主行爲ノ當否ヲ

論評スルコトヲ得トセハ君主ニ責任アルコトヲ前提セサルヘカラス論者カ  
君主ノ大權ノ行動ニ就テハ之ヲ論評シ得ルモ君主ノ一身ニ於ケル私行爲ニ  
就テハ論評スルコトヲ得スト言ヘルハ君主ハ大權ノ行動ニ就テハ責任ヲ有  
スレトモ其一身ノ私行爲ニ就テハ神聖ナリト言フニ在リテ余ト大ニ其見ル  
所ヲ異ニス君主ノ大權行爲ハ今モ述ヘタル如ク統治權ノ本質上服従者ノ論  
評スルコトヲ得サルモノナルヲ以テ君主タル統治者ニ責任ナキモ君主ノ私  
行爲ニ就テハ君主ヲ組成スル所ノ個人ノ行爲ナルヲ以テ其君主ヲ組成スル  
所ノ個人ハ其責任ヲ有ス從ヒテ何人モ其個人行爲ニ對シテ服従關係ヲ有セ  
サルカ故ニ之ヲ論評スルハ其自由ナル筈ナリ然レトモ其個人ハ君主ヲ組成  
スル所ノ個人ナルヲ以テ統治者ト統治者ヲ組成スル所ノ個人トハ一體兩面  
ヲ成ス不可分關係ニ在ルモノナルカ故ニ其個人ノ行爲ヲ論難抗擊スルコト  
ハ統治者ノ尊嚴ヲ冒瀆シ君民ノ親和ヲ害シ以テ統治ノ妨害ヲ爲ス虞アルカ  
故ニ其論評ヲ禁制スルノ要アリ之ヲ禁制スルニハ統治者ヲ神聖不可侵トシ  
一切ノ責任ノ外ニ在ルモノト爲スニ在リ其神聖不可侵ト爲シ一切ノ責任ノ

外ニ在リト爲スニハ其行爲カ統治行爲ト異ナルヲ以テ當然其効力ヲ有スルモノニ非サルカ故ニ法規ヲ要ス各國憲法ニ君主ノ神聖不可侵ヲ規定シタルハ之カ爲ナリ

美濃部博士(憲法講話九三頁九四頁)ノ説

神聖不可侵ハ憲法ノ明文ヲ待タズ古來國民ノ確信ナリ憲法ハ之ヲ表明シタルニ過キス憲法ノ(天皇ハ神聖ニシテ侵スヘカラス)トハ義解ニモ言ヘル如ク(指斥言議ノ外ニ在ル)ト言フ意ナリ即チ天皇ハ無責任ナリト言フコトナリ天皇御自身ニ對シテハ何人モ之ヲ非議難スルコトハ出來ヌ天皇ヲ非議スルノハ許スヘカラサル不敬ノ罪ナリ

同博士(太陽第一九卷第六號近時ノ政界ニ於ケル憲法問題)ノ説

若シ君主ノ大權ニ就テハ臣下カ喙ヲ容レルコトヲ得ス批評スルコトヲ得ストセハ一切ノ政治上ノ議論ハ全ク禁遏セラレテ言論ノ自由ハ絕對ニ束縛セラレルコトトナルナリ大權ノ行動ハ凡テ君主カ國家ヲ代表セラレテノ行動ニシテ即チ國家ノ行動ニ外ナラス國家ノ行動ハ至尊ノ御一身ノ行動トハ明ニ區別セサルヘカラス至尊ノ御一身ノ行動ハ固ヨリ臣下ノ論議シ得ヘキ所ニ非ス國家ノ行動ハ專ラ國民利福ニ適合セサルヘカラスルモノナルヲ以テ論評シ得ルコトヲ憲法ニ於テ公認セリ

無責任ノ範圍

統治者ノ無責任タル私行爲ハ獨リ刑事行爲ノミニ非ス民事其他一切ノ人間

行爲ヲ包容スルモノナリ私行爲ヲ無責任トシテ統治者ヲ神聖不可侵ト爲ス所以ハ前ニモ述ヘタル如ク君主ヲ組成スル個人カ私行爲ノ爲ニ責任ヲ負フトキハ累ヲ統治者ニ及ホシ統治者ノ尊嚴ヲ冒瀆シ君民ノ親和ヲ害シ統治ノ妨害ヲ爲スヘキ虞アルニ因ルナリ然ルニ君主ヲ組成スル個人カ刑事行爲ニ付テ責任スルトキハ斯ル虞アルモ民事其他ノ行爲ニ付テ責任ヲ負フモノトスルモ斯ル虞アルコトナキカ故ニ君主ノ神聖不可侵ハ刑事行爲ニ付テノミ之ヲ言フモノナリト爲ス者多シ

凡テ責任ハ強行ヲ伴フモノナリ君主ヲ組成スル個人カ刑事責任ノ強行ヲ受クルハ君主タル統治者ノ尊嚴ヲ冒瀆スルモ民事責任ノ強行ヲ受クルハ君主タル統治者ノ尊嚴ヲ冒瀆スルコトナシトスル證據ヲ存セス事實上統治者ヲ組成スル個人ニシテ民事義務ノ不履行者又ハ不法行爲者タル者ハナカルヘシト雖モ法學上ヨリ見ルトキハ統治者ヲ組成スル個人タリトテ義務ノ不履行者タリ得ヘク又不法行爲者タリ得ルモノナリ其場合ニ於テ其統治者ヲ組成スル個人ニ對シ強制スルコトアルモ果シテ統治者ノ尊嚴ヲ冒瀆スルコト

ナシトスルカ論者ハ責任ト義務トヲ混同スルモノニ非スヤ統治者ト雖モ義務ヲ免カルルコトヲ得ルモノニ非ス統治者ハ統治權完行ノ義務ヲ有スルモノナリ其統治者ヲ組成スル個人ハ刑罰法ニ觸レサルコトヲ努ムル義務アリ又民事其他ノ行爲ヨリ生スル義務ヲ有スルハ當然ナリ責任トハ其義務ヲ破リ若クハ其義務ヲ怠リタル場合ニ強行ヲ受クルコト即チ服從セサルヘカラルコトノ義務ヲ言フモノナリ統治者ヲ組成スル個人カ民事其他ノ行爲ヨリ生スル義務ヲ破リ又ハ義務ヲ怠リタル場合ニ強行ヲ受クルモノトセハ結局統治者ハ服從ノ義務ヲ負フト言フ奇態ヲ呈シ且ツ統治者ノ尊嚴ヲ冒瀆シテ統治ノ妨害ヲ來タスコト少クニ非サルナリ

ラーバンド(獨逸國法論第二卷八四頁)ノ説

君主ノ不可侵ハ刑事ニ止マリ民事ニ及ハス

ザイテル(巴國國法論第一卷一七一頁一八四頁)ノ説

同論

フランケン(獨逸私法論八四頁)ノ説

同論

シユルツエー(獨逸國法論第一卷八三頁)ノ説

同論

グマイヤー(獨逸國法論八四頁)ノ説

同論

美濃部博士(憲法講話九七頁)ノ説

君主ノ無責任ハ民事關係ニ及ハス皇室財産令ニ規定アリ又外國ニ於テモ皆之ヲ認ム

清水博士(憲法篇七四頁)ノ説

民事責任ハ天皇ノ尊嚴ヲ害スルコトナキヲ以テ不可侵ノ外ニ在リ

同博士第一〇版憲法篇三二六頁)ノ説

君主ハ民事上ニ於テモ無責任ナリト考フル人アリト雖モ之レ誤ナリ……民事上ノ責任ハ憲法第三條ノ適用ヲ受クルモノニアラサルナリ

ヴコツェル(通常民事訴訟手續論三九號)ノ説

君主ハ民事裁判ヲ受クルモノニ非ス

以上論述シタル所ヲ要言スルニ責任ナルモノハ義務違反ニ因リテ生シタル第二次ノ義務タル義ナリ其故ニ責任ハ拘束セラレタル負擔ナルヲ以テ拘束アリテ生スルモノナリ從ヒテ責任ハ拘束者ニ對スル義務ナラサルヘカラス

統治者ハ道德ニ因リテ統治權ヲ完行セサルヘカラサルモノナレトモ拘束者アルコトナシ統治者ハ國民ニ對シテ統治完行ノ義務ヲ有セサルモノナルカ故ニ國民ハ統治者ニ對スル拘束者ニ非サルヲ以テ統治者ハ國民ニ對シテ責任ヲ負フモノニ非ス國民ニ對シテ責任ヲ負フモノニ非サルヲ以テ國民ニ對シテハ神聖不可侵ノ地位ニ在ルナリ然レトモ統治者ヲ組成スル個人トシテハ私人行爲ヲ爲スモノナルカ故ニ義務ヲ負フハ勿論責任ヲ負フ道理ナリ個人トシテ責任ヲ負フトキハ一體兩面ノ不可分關係ニ在ル統治者ノ尊嚴ヲ冒瀆シテ統治ノ妨害トナルカ故ニ其個人行爲ニ就テモ一切ノ責任ヲ負ハサルコトト爲スヲ必要トス其統治行爲ニ就テ責任ヲ負ハサルハ統治者本來ノ性質ニシテ其個人行爲ニ就テ責任ヲ負ハサルハ制度ノ結果ナリ

## 第四章 統治權ノ客體

### 第一節 客體ノ本質

客體ナル語ハ從來明瞭ニ之ヲ説明シタル者ナキヲ以テ殆ント通説トシテ見ルヘキモノナシ或ハ法律關係ノ受働的地位ニ在ル人ヲ意味シ或ハ權利ノ目的タルヘキ人及事物ヲ意味シ又或ハ義務者ヲ意味スル者アリテ客體ノ語意頗ル不得要領ナリ

プロイス市町村國家及帝國論一七八頁ノ説

統治權ノ客體タルモノハ奴隸及物ニ限ルナリ

ザイデル(巴國國法論第一卷五一七頁)ノ説

領民及領土ハ統治權ノ客體ナリ

プリー(國家聯結論一三頁)ノ説

同論

ラーバンド(獨逸國法論第一卷二一號)ノ説

同論

第四章 統治權ノ客體 第一節 客體ノ本質

統治權論

ホルンハック(普國國法論第一卷二二四頁)ノ説

同論

ハイナブルゲル(領土高權取得論第一卷二六頁)ノ論

同論

クラウス(國家役務論一七三頁)ノ説

同論

ロージン(公共團體法論四六頁)ノ説

統治權ノ客體ハ人民ナリ領土ハ其客體ニ非ス

アツフオルテル(一般國法學一四頁)ノ説

同論

ゲマイヤー(獨逸國法論第七四號)ノ説

統治權ノ客體ハ人及人ノ集合體ナリ

ゲルバー(獨逸國法概論六五頁)ノ説

土地ハ統治權ノ客體ナリ

レオニール(エルサス、ロートリンゲン公法論一二頁)ノ説

同論

穂積八束博士(憲法提要二九五頁)ノ説

統治權ノ及フ所之ヲ客體ト云フ國土及國民ハ統治權ノ客體ナリ

織田博士(法學通論一二五頁)ノ説

統治權ノ客體トハ統治權ノ行ハルル限界ニシテ國土及人民(臣民又ハ國民)ナリ

市村博士(憲法要論二四六頁)ノ説

統治權ノ客體ハ人及人ノ集合體ノミナリ

清水博士(憲法篇一一九頁)ノ説

帝國憲法第一條ニ大日本帝國ハ萬世一系ノ天皇之ヲ統治ストアルカ故ニ帝國カ統治ノ

客體タルコト明カナリ

同博士第一〇版憲法篇三八九頁)ノ説

帝國ヲ以テ統治權ノ客體ト爲セルモノニアラス統治權ノ客體ハ領土及ヒ臣民ナリトス

斯ノ如ク統治權ノ客體ヲ論スルニ當リテ其客體タルヘキ内容ニ幾多ノ相違アルハ要スルニ客體ノ意義ヲ明カニセサル結果ナリ統治權ノ行使ノ相手方タルヘキ者ヲ客體ト爲スニ在ルトキハ其客體タルヘキ者ハ人格者ナラサルヘカラス從ヒテ國民ハ勿論領土在留ノ人類及外國統治者其他全世界ノ人類ハ皆客體タリ得ルモノナリ此場合ニ在リテハ領土其他ノ事物ハ客體タルコトナシ又統治權ニ服従スヘキ者ヲ客體ト爲スニ在ルトキハ國民及領土在留

ノ人類ハ凡テ客體タリ得ルモノナリ此場合ニ在リテモ領土其他ノ事物ハ客體タルコトナシ又統治權ノ行使ノ目的タルモノヲ客體ト爲スニ在ルトキハ人格者ハ勿論其目的ヲ達スルニ必要ナル事物ハ凡テ客體タリ得ルモノナリ此場合ニ在リテハ領土其他事物ハ凡テ客體タルモノトス然ラハ統治權ノ客體ハ之ヲ如何ナル意義ニ定ムルヲ以テ其正當ナルモノト爲スカ抑モ客體ナル語ハ主體ナル語ニ對シテ用フルモノナルヲ以テ主體ヲ權利者トスレハ客體ヲ義務者ト爲スヘキカ當然ノ道理ナリ然レトモ統治權ハ道德ノ厲行即チ國家ヲ維持スル力ナルヲ以テ統治權ノ行使ハ諸種ノ行爲ニ表現スルモノナリ其故ニ統治權ノ客體ハ獨リ義務者タルノミナラス義務者外ノ人格者ハ勿論事物ヲモ併セテ客體ノ内容(Objekt, Object)ト爲スヘキモノナリ余ハ統治權ノ客體ヲ斯ノ如キ意味ニ解シテ左ノ如ク定義セントス

統治權ノ客體トハ統治權行使ノ目的タル人格者及事物ナリ

## 第二節 國家

國家ハ既ニ論シタル如ク一定ノ土地ニ基在シ統治ノ目的タル人類ノ統合體ナリ統治權ハ此統合體タル國家ヲ維持スル力ナルカ故ニ國家ヲ維持スルコトヲ以テ統治權ノ最大目的ト爲スモノナリ從ヒテ國家ハ統治權ノ客體中ノ客體タルモノナリ

## 第三節 領土

領土ハ統治權ヲ行フ本陣ニシテ土地及河海等ヨリ成ル一定ノ場所ナリ一ニ之ヲ版圖又ハ國土トモ稱ス其領土ト言フハ統治權ヲ以テ其一定ノ土地及河海等ヲ領有スルカ爲ナリ其領有ト言フハ統治權ニ依リテ領得シ保有スルノ意ナリ諸說多クハ專占セル土地ヲ以テ領土ナリト爲セリ專占セル土地ヲ以テ領土ノ意義ナリトセハ敵國ノ一時的ノ占領ヲ以テ領土ナリト爲スヲ得ヘシ然レトモ敵國ノ一時的ノ占領ハ占有ナルモ領有タルコトナシ又統治權ノ及フヘキ土地ヲ以テ領土ノ意義ナリトセハ右ノ占領地ハ勿論租借地及治外法權ヲ有スル地ハ皆領土ナリト言フコトヲ得ヘキモ其否ラサルコトハ論ヲ

俟タス要スルニ領土タルモノハ統治者カ統治權ニ依リテ領得シ保有スル所  
 ノモノナラサルヘカラス其領得シ保有スト言フハ統治者カ或一定ノ土地ヲ  
 自己ノ統治權ニ歸屬スルモノニシテ他ノ統治權ニ歸屬セサルコトナリ自己  
 ノ統治權ヲ他ノ統治權ニ歸屬スル土地ノ上ニ行フコトアルモ其土地ヲ自己  
 ノ統治權ニ歸屬セサルトキハ之ヲ自己ノ領土ト言フコトヲ得ス又他ノ領土  
 ニ自己ノ統治權ヲ行フコトノ在ルカ如ク自己ノ領土ニ他ノ統治權ヲ行フコ  
 トナキヲ保セス此場合ニ在リテモ其土地カ他ノ統治權ニ歸屬セサルトキハ  
 自己ノ領土タリ之ヲ以テ領土ハ他ノ統治權ノ入ルコトヲ得サルモノト爲ス  
 コトヲ得ス強キ統治權ハ弱キ統治權ニ歸屬セル領土ノ上ニ行ハルルコトハ  
 常ニ見ル所ニシテ事實上又法學上統治權ハ自國外ニ出ツルコトナシト論ス  
 ルコトヲ得サルモノナリ若シ統治權カ各其自國外ニ出ツルコトナキモノト  
 セハ國際關係ヲ生スルコトナク戰爭ヲ爲スコトナシ  
 斯ノ如ク領土ハ統治權ニ歸屬シ領得保有スル一定ノ土地及河海等ニシテ統  
 治ノ本陣タル場所ナリ其故ニ統治者カ國家ヲ維持スル爲メ領土ノ上ニ統治

權ヲ行使スルモノナルヲ以テ領土ハ統治權ノ客體タリ

マルテンス(國際法論第一卷第八節)ノ説

版圖トハ地球表面ノ一部即チ陸ト水トカ一國ノ專占的權力ニ歸スルモノナリ

ゲマイヤー(獨逸國法論第七四號)ノ説

領土ハ統治權ノ客體ニ非シテ國家統治權ノ行ハルル範域タルモノナリ

ローシン(公法組合論四六頁)ノ説

領土ハ統治權ノ行使範圍ヲ定ムル地球ノ一部分ナリ

穂積八東博士(憲法提要一六頁)ノ説

領土トハ民族ノ據リテ以テ國ヲ成ス土地ニシテ他ノ權力ノ侵犯ヲ防キ自己ノ專占スル

モノノ義ナリ

寬博士(國家之研究二四二頁)ノ説

領土ハ他人ノ力ヲ排斥シ自己ノ力ヲ行ヒ得ル土地ノ統一的ナル範圍ヲ言フモノニシテ

之レ在ルカ爲ニ完全ナル普遍的現實生活ヲ營ミ得ルナリ

上杉博士(帝國憲法述義二二三頁二二四頁)ノ説

領土ノ國法上ノ意義ハ統治權外ノ權力ノ領土内ニ存在スルコトノナキコトナリ又領土

外ニ於テハ主權ノ行ハレサルコトナリ領土ハ物カ所有權ノ目的ナリト言フカ如ク主權

ノ目的ナリト言フニ在ルナリ

同博士(帝國憲法綱領二二頁二三頁)ノ説

第四章 統治權ノ客體 第三節 領土



領土ハ主權ノ行ハルル範圍ナリ普ネテ領土内ニ行ハレテ行ハサルナク領土外ニ行ハレ  
ス領土ハ臣民分限ヲ定ムル根據ナリ

織田博士法學通論一二五頁ノ説

國土ハ統治權ノ及フヘキ一定ノ土地ナリ内ハ一切ノ人民ヲ統治シ外ハ他國主權ノ入ル  
ヲ許ササルニ在リ

清水博士第一〇版憲法篇一二頁ノ説

領土ハ國家ノ構成要件ニシテ之ヲ人體ニ譬フレハ其體軀ノ如シ體軀ナキ人ノ存在スル  
コトヲ得サルカ如ク領土ナキ國家ハ存在スルコトヲ得ス

市村博士(帝國憲法論三五一頁)ノ説

領土ハ當該國家ノ統治權カ當然ニ行ハルル地域の範圍ヲ指スモノナリ

遠藤博士(明大講義平時國際法論一二四頁)ノ説

領域トハ一國ノ主權カ行ハルル地球表面上ノ一定ノ區域ナリ

立博士(平時國際公法六四頁)ノ説

領土トハ國家ノ領土權ノ目的タル土地(及水域)ヲ謂フ

#### 第四節 租借地

租借地トハ他國領土ノ一部分ヲ定期又ハ無期ニ借入レテ統治權ヲ行フ土地

ナルカ故ニ自國領土ニ非サレトモ自己統治權ノ客體タリ

#### 第五節 占領地

占領地トハ他國領土ノ一部又ハ未成國ノ地ヲ一方意思ニ依リ握有スル土地  
ナルカ故ニ自國領土ニ非サレトモ自己統治權ヲ行フモノナルヲ以テ自己統  
治權ノ客體タリ

#### 第六節 船舶

茲ニ船舶ト言フハ軍艦及商船其他一切ノ船艦ヲ總稱ス國際法學界ニ於テハ  
船舶ヲ以テ其所屬國ノ浮動的領土ナリトセリ船舶ハ公海ニ在リテモ他國領  
域内ニ在リテモ其所屬國ノ統治者ノ支配ヲ受クルコト國民ト異ナルコトナ  
キヲ以テ統治權ノ客體タルモノナリ然レトモ船舶ヲ以テ其所屬國ノ浮動的  
領土ト爲シ又ハ領土ノ延長ト爲スハ餘リ技巧ニ過キタル説ナリ  
船舶ヲ以テ統治權ノ客體ト爲スニハ何等カ特別ノ理由ヲ存スルヤノ感アレ

トモ船舶ハ形態ノ偉大ナルト交通ノ要具ナルヲ以テ特ニ客體論ノ粗上ニ横  
ハルノミ其他領土ニ在ル財産ハ勿論領土外ニ在ル自國民ノ財産殊ニ飛行機  
及飛機船ハ客體論ノ學題タルモノナリ

### 第七節 人格者

統治權ハ優者ノ力ノ及フ域内ニ在ル所ノ人格者ヲシテ道德ヲ守ラシムル爲  
ニ之ヲ厲行スル力ナルカ故ニ人格者ニ對シテ之ヲ行フモノナルヲ以テ人格  
者ハ統治權ノ客體タリ人格ト言フハ既ニ説論シタル如ク道德界ノ當事者タ  
ル人類ノ資格ヲ統治化シテ統治界ノ當事者ト爲シタル人類ノ資格及統治者  
カ特ニ創作シタル人格ノコトナリ如何ナル人格者カ統治權ノ客體トナルヤ  
ト言フニ統治權ノ行使ヲ受クル所ノ受働的身分ヲ有スル者ノ全員ナリ  
國民トハ國家ヲ組織スル要素ニシテ國民格ヲ有スル人格者ナリ統治權ハ國  
家ヲ維持スル爲ニ國民ニ對シテ行フモノナルカ故ニ國民ハ統治權ノ客體タ  
リ國民ノ有スル國民格ハ人格ト異ニシテ自然ニ具有スルモノニ非ス人類ニ

### (一)國民格

シテ何レノ國家ニモ屬セサル者ハ決シテ國民格ヲ具有スルコトナシ強者カ  
道德ヲ厲行スル爲ニ其力ノ及フ域内ニ在ル一定ノ人格者ヲ統合シテ國家ヲ  
作りタルトキハ其統合セラレタル人格者ヲ國民トシテ以テ國民格ヲ附與ス  
ルモノナリ又國家ノ成立後併領又ハ歸化ニ因リテ或人格者ニ國民格ヲ附  
與スルコトアリ斯ノ如ク人格者カ國民格ヲ有スルハ統治者ノ附與ニ因ルモ  
ノナリ國民格ノ附與ハ或ハ統治者ノ默與タルコトアリ或ハ法ヲ定メテ之ヲ  
與フルコトアリ建國ノ際ハ勿論法ノ定メナキトキ又ハ併領等ノ場合ニ在リ  
テハ多ク默與ヲ爲スモノナリ法ニ依リテ國民格ヲ附與スルハ統治諸制度ノ  
完備シタル國家ニ限ルモノナリ

### 國民ノ定住ト基在

國民ハ國家組成ノ要素ナレトモ必ス一定ノ土地即チ領土ニ定住スルモノタ  
ルコトヲ要スルモノニ非ス領土ヲ離ルルコトアリト雖モ國民格ヲ失フコト  
ナシ學者往往國民ハ領土ニ定住スルコトヲ要スルモノノ如クニ説クコトア  
リト雖モ國民ノ領土ニ定住スルコトハ國民格ヲ有スルニ必要タルコトナシ

若シ領土ニ定住スルニ非サレハ國民格ヲ有セストセハ國外旅行者國外移住者又ハ國外出生者ハ國民格ヲ有セサルコトナルナリ然レトモ領土ヲ以テ統治權ノ本陣ト爲スモノナルカ故ニ國家ハ領土ヲ本據トシテ存在スルモノナリ從ヒテ其組成要素タル國民モ亦領土ヲ本據トシテ存在スルモノナラサルヘカラス其故ニ國民ハ領土ニ基在スルコトヲ要ス領土ニ基在スト言フハ身ハ他國ニ在リテモ領土ヲ本據トシテ他國ニ假住スルコトヲ意味スルモノナリ他國ニ定住シテ本國ト相離ルルトキハ國民ニ非ス國民格ヲ失ヒタル者トナルナリ

エリネツク(公權論總論第三節)ノ說

國家ハ一定ノ領土ニ定住シ統一ノ權力ニ依リテ支配セララルル國民團體ナリ

遠藤博士(國際公法要論五七頁)ノ說

國家ハ一定ノ領域ニ居住シ最高主權ノ下ニ統率セラレタル人類ノ政治的團體ナリ

同博士(明大講義平時國際法論三六頁)ノ說

同論

國民權

國民ニ特別ノ權利即チ國民權ナルモノアルヤ殆ント凡テノ公法學者ハ國民

(自由權  
統治行  
爲要求  
權參政  
權)

權ナルモノヲ認め自由權統治權行使要求權及參政權ノ三ヲ擧ケテ國民權ナリトセリ其所謂自由權及統治權行使要求權ナルモノカ國民ノ特權ナリトセハ領土ニ在留セル國民ニ非サル一切ノ人類ハ自由ヲ有セス統治權行使ノ要求ヲ爲シ得サルコトト爲ルナリ各國ノ憲法ニ國民ノ權利トシテ自由權及統治權行使要求權ヲ規定セルカ故ニ是等ノ公法學者ハ此權利ハ國民ノ特權ナリト即斷シタルモノナルヘシト雖モ國民タルト非國民タルトヲ問ハス皆自由ヲ有シ統治權行使ノ要求ヲ爲シ得ヘキモノナリ蓋シ人類ハ凡テ人格ヲ有シ人格維持力ヲ有ス統治者ハ國民タルト自國內ニ在留セル非國民タルトヲ問ハス其人格ヲ認知シ其維持力ヲ權利トシテ認與スルモノナルニ因リ自由及統治權行使ノ要求ハ其維持權ノ行使ナルヲ以テ自由及統治權行使ノ要求ハ獨國民ノ特權ナリト言フコトヲ得ス若シ之ヲ以テ國民ノ特權ナリトセハ國民ニ非サル一切ノ人類ハ自由ヲ有セス又統治權行使ノ要求ヲ爲シ得サルモノナルヲ以テ殆ント人格ヲ否認セララルル結果ヲ生スルナリ是レ豈ニ統治ノ本旨ナランヤ統治ノ必要上國民ト非國民トノ間ニ自由ノ廣狹ヲ作り統治

權行使ノ要求ニ大小ノ差ヲ設クルカ如キハ已ムヲ得サルコトナルヘシト雖モ特別ノ理由ナキ限リハ平常ニ於テ非國民ノ自由ヲ禁シ統治權行使ノ要求ヲ斷テ自由及統治權行使ノ要求ハ國民ノ特權即チ國民權ナリト爲スハ大ナル謬見ナリト言ハサルヘカラス國民格ハ人格ト異ナリテ特ニ國民格維持權ナル力カ人格維持權ノ外ニ別在スルモノニ非ス人格者カ國家ノ一員トナリタル爲ニ國民格ヲ有スルニ至リタルモノニシテ國民格ハ人格ノ結果ナリ其故ニ國民格ノ維持ハ人格維持權ノ行使ニ因リテ行ハルルモノナルヲ以テ國民ニ國民權ナル特權ノ存スル理由アルコトナシ

エリネツク(人權及國民權宣言論第一節ノ説)

諸國ノ國法ハ元首ノ權利等族ノ權利個人若クハ特定團體ノ特權ヲ認メタリト雖モ一般公民ノ權利ハ唯國家ノ義務トシテ表ハレタルモ佛蘭西ノ人權及國民權宣言トニ因リテ國民權ナルモノヲ認ムルニ至リタルナリ

又論者ハ國民カ選舉權及被選舉權ヲ有スルカ故ニ參政權ヲ有スルモノナリト爲スモ參政權トハ國家統治ニ參與スル權利ヲ言フモノニシテ國民カ參政權ヲ有ストセハ國民カ國家統治ニ參與スル權利ヲ有スルモノト言ハサルヘ

カラス果シテ國民ハ國家統治ニ參與スル權利ヲ有スルモノナリヤ抑モ國家ノ統治ハ統治權ノ行使ナルヲ以テ統治權ヲ有スル者ニ非サレハ國家ヲ統治シ得ルモノニ非ス統治ニ參與スト言フコトハ共同統治ヲ爲スト言フコトナリ統治者ハ單數タルコトアリ複數タルコトアリ單數統治者ノ國ニ在リテハ統治ノ參與者アルコトナシ複數統治者ノ國ニ在リテハ其統治者ハ全員參與者ナリ國民カ參政權ナルモノヲ有スル者ナリトセハ複數統治者タラサルヘカラス複數統治者タルモノトセハ統治ニ參與シテ共同統治ヲ爲スコトハ當然ナリ然レトモ既ニ論シタル如ク國民ハ被治者ニシテ統治者タルコトヲ得ルモノニ非ス統治者タルコトヲ得ルモノニ非サルヲ以テ統治ニ參與スルコトナシ從ヒテ國民カ參政權ヲ有スト言フノ誤ナルコトハ眞ニ明カナリ國民參政權論ハ民權論即チ民主主義論ニ歸スルモノニシテ其本體ハ共和政治論ナリ其故ニ國民ノ參政權ヲ認ムル者ハ民主主義ヲ前提スルニ非サレハ矛盾ナク論結シ得サルモノナリ余ハ民主主義ヲ認メサル者ナルカ故ニ國民參政權ヲ認メサルナリ國民カ官吏トナリ國會議員トナリ又ハ國會議員選舉者ト

ナリテ其行爲ヲ爲スハ國家統治ニ參與スルモノナリト論スル者アレトモ國民カ官吏トナリ國會議員トナリテ統治ノ事務ヲ行フハ統治機關トシテ作用スルモノナリ國民トシテ行動スルモノニ非サルヲ以テ國民カ國家統治ニ參與スルモノナリト言フコトヲ得ス

選舉權

國會議員ノ選舉(Wahl, Election)ハ國會ヲ組織スル行爲ニシテ國會ハ統治機關ナルカ故ニ國會議員ノ選舉ハ統治機關ヲ組織スル行爲ナリ統治機關ヲ組織スル行爲ハ統治行爲ナリ選舉ハ統治機關ヲ組織スル行爲ナルカ故ニ統治行爲ナリ統治機關ヲ組織スル統治行爲ハ任命ナリ然レトモ選舉人ハ統治者ニ非サルヲ以テ統治行爲タル任命ヲ爲スコトヲ得ス從ヒテ選舉ハ選舉人ノ行爲タルモノニ非ス選舉人ハ國會ナル統治機關ヲ組織スル爲ニ統治者ノ選舉機關トナリテ選舉ナル機關作用ヲ爲スモノナリ其故ニ國民カ選舉權ヲ有スト爲スハ誤ナリ從ヒテ選舉ヲ以テ選舉權ノ行使ナリトスルハ非ナリ又從ヒテ國民カ選舉權ヲ有スト爲シ之ヲ國民權ナリトスルハ更ニ非ナリ國民ハ國民格ヲ有スルモ國民權ナルモノヲ有スルコトナシ

エリネツク(公權論第一章第一〇節)ノ說

選舉ハ國法學上ノ意義ニ於テハ國家機關ノ任命ナリ任命ノ主體ハ國家統治者ナリ國家ノ選舉ニ參與スルコトハ國家行爲ニシテ機關作用ナリ之ヲ以テ選舉行爲其モノハ決シテ個人權ノ内容トナリ得ルモノニ非ス選舉人ハ選舉區又ハ選舉團體ノ總選舉者ヨリ組織スル選舉合議體ノ部分機關タルモノナリ即チ選舉人ハ選舉ノ瞬間ニ於テ國家行爲ノ行使機關トナルナリ故ニ選舉ハ機關作用ニシテ選舉人ノ權利ニ非ス

ラーバシド(獨逸國法論二九二頁)ノ說

選舉權ナル權利アルコトナシ

ステンゲル(行政法雜誌第三卷一九九頁)ノ說

選舉權ハ權利ナリ

グ、マイヤー(獨逸國法論九九號)ノ說

同論

清水博士(第一〇版憲法篇八〇〇頁)ノ說

多クノ學者ハ選舉權ハ國家ニ對スル國民ノ公權ニシテ參政權ノ一種ニ屬スト説明スト雖モ予輩ハ選舉權ハ權利ニアラスト信スルナリ蓋シ所謂選舉權ノ内容ハラーバシド氏ノ云ヘル如ク投票ヲ行フコトニシテ投票ハ公ノ職務ナルヲ以テ尠モ權利ノ性質ヲ有セサレハナリ

同博士(同八〇一頁)ノ說

惟フニ選舉ハ公ノ職務ナリト雖モ吾人ノ普通思想ハ之ヲ國家ノ事務ト認メス即チ選舉權ハ國家ニ屬シ選舉人ハ國家ニ代リテ國家ニ屬スル選舉權ヲ行フモノナリト爲スハ吾人ノ普通思想ニ反スルモノナリ選舉人ノ國家機關ニアラサル又多言ヲ要セサルヘシ市村博士(行政法原理四五頁)ノ說

選舉權ハ權利ナリ

立憲政體ニ於テ統治者カ立法ヲ爲スニ當リ立法機關タル國會ヲ要スル所以ノモノハ統治ニ必要ナル良法ヲ制定スルニハ假令統治者ノ智餘リアリト雖モ過誤ナキヲ保セス萬全ヲ期スル爲メ廣ク智ヲ天下ニ求ムルコトヲ要ス廣ク智ヲ天下ニ求ムルニハ漠野ノ賢ヲ集メテ機關ヲ作り其機關ニ依リテ明智ヲ容納スルニ在ルナリ漠野ノ賢ヲ集ムルニ統治者ノ任命ヲ以テセスシテ國民ノ選舉ニ俟ツ所以ノモノハ多數ノ眼識ニ依リテ選出シタル者ハ賢タルニ誤ナク機關組織ノ適材ナリト爲スニ在リ其國民全部ノ者ヲシテ選舉セシメスシテ或階級又ハ或資格ノ者ノミヲ以テ選舉セシムル所以ノモノハ統治機關ヲ組織スル賢材ヲ選舉スルニハ其鑑識力ヲ具有スル者ナラサルヘカラス全國民カ此鑑識力ヲ具有スルニ於テハ全國民ヲシテ選舉セシムヘキモ國民

中此鑑識力ヲ具有スル者ハ文化ノ進歩ニ伴ヒテ其比例ヲ異ニシ現時ニ在リテハ餘リ多カラサルヘシ其故ニ統治者ハ一定ノ標準ヲ定メテ國民中或階級ノ者又ハ或資格ノ者ヲシテ選舉セシムルモノナリ選舉ハ選舉人ノ權利ノ行使ナリヤ義務ノ履行ナリヤハ法學界ノ難問ナリ選舉ヲ以テ國民權ナリトスル者アリ選舉ヲ以テ國民權ナリトセハ男女老幼ノ區別ナク全國民ニ選舉權ヲ與フルコトヲ要ス然ルニ現時全國民ニ選舉ヲ爲サシムル國ハ全然之アルコトナシ然ラハ其選舉權ヲ有セサル者ハ國民タル權利ヲ有セサルヲ以テ國民ニ非スト言ハサルヘカラサルニ至ルヘシ選舉ハ國民中ノ或階級又ハ或資格ノ者ノミヲ以テ之ヲ行ハシムル點ヨリ見レハ甚タ名譽ナルカ故ニ選舉ハ權利ノ行使ナルカ如キモ名譽アル行爲ハ必スシモ權利ノ行使ニ非ス選舉ハ統治者カ統治機關タル國會ヲ組織スルニ當リ漠野ノ賢ヲ集ムル爲ノ任命ニ代ヘテ或國民ヲシテ選舉セシムルモノナルカ故ニ其者ニ賦課シタル名譽アル義務ナリ

國會ヲ以テ統治機關ト爲サス國民ノ代表會ト爲ス制度ノ下ニ在リテハ國會

被選舉權

議員ヲ選舉スル行爲及國會議員ノ代表行爲ハ國家統治ニ參與スル行爲ナルノ感ヲ生セシムルコトアリ然レトモ假令國會ヲ以テ國民ノ代表會ト爲スモ國家統治ハ統治者ノ有スル統治權ノ行使ニシテ國民ハ統治權ヲ有セサルカ故ニ國家統治ニ參與スルモノニ非ス唯國民ハ代表者ヲ選舉シテ統治者ニ對シ利益ノ請求ヲ爲シ其他意見ヲ陳述スルモノニ外ナラス其國會カ果シテ國民ノ代表會ナリヤ否ヤハ後章ニ於テ論述スル所アルヘシ

國民カ國會議員ニ選舉セラルルコトヲ以テ其者ノ權利ナリト爲ス者アリ又之ヲ被選舉權トシテ法律ニ規定シタル國家アリ然レトモ權利ハ生存力ナルカ故ニ之ヲ行使シテ實現スルモノナラサルヘカラス國會議員ニ選舉セラルルハ選舉人ノ選舉ノ結果ニシテ被選舉人ノ行爲ノ實現ニ非サルカ故ニ其選舉セラルルコトヲ以テ權利ト爲スハ權利ノ本質ニ反セリ被選舉權ナルモノヲ以テ資格ナリト論スル者アリ其論必スシモ誤ナリト言フニ非サレトモ其ハ法ヲ以テ被選舉人ヲ限定シタル場合ニ論示スヘキコトニシテ被選舉人ヲ限定セサル場合ニハ資格ナルモノアルコトナシ

ザイデル(巴)國國法論第二卷一三〇頁ノ說

被選舉權ハ資格ニシテ權利ニ非ス

ゲマイヤー(獨逸)國國法論第九九號ノ說

同論

清水博士第一〇版憲法第九一頁ノ說

ゲマイヤー、ザイデル其他多數ノ學者カ被選舉權ハ一ノ資格ニシテ權利ニアラスト論シタルハ當テ得タルナリ

市村博士(行政法原理四五頁)ノ說

同論

參政權ナルモノヲ存在スルモノト爲シ官吏ニ任セラルルコトヲ以テ國民權ナリトスルモ後ニ説ク所ノアル如ク外國人ヲ官吏ニ任用スルモ差支ナク又任用セラルルコトヲ得ルモノナルカ故ニ任官ヲ以テ國民權ナリトスルハ非ナリ

國民ノ義務

國家ハ強者カ道德ヲ厲行スル爲ニ多數人類ヲ統合シタル團體ナルカ故ニ其分子タル人類カ道德ノ厲行ヲ受ケサルヘカラサルヤ明カナリ之ヲ單ニ社會

ノ出來事トシテ見ルトキハ弱者ハ強者ニ壓セラレルノ形ナルモ其強者ハ野  
獸的強者ニ非スシテ道德ナル人類ノ生存行爲ヲ支配スル天則ニ基キテ生シ  
天則ヲ厲行スルモノナルカ故ニ其厲行セラルル者カ之ニ從フハ亦天則ノ當  
然ノ道理ナリ法學上道德ヲ厲行スル力ヲ統治權ト言ヒ其統治權ノ拘束ヲ受  
ケテ之ニ從フヲ義務ト言フ義務ハ拘束セラレタル負擔ノ義ナリ義務ハ拘束  
者ニ對シテ負フモノナリ拘束者ハ統治者ナルカ故ニ國民ノ義務ハ統治者ニ  
對シテ負フモノナリ

斯ノ如ク國民ノ有スル義務ハ統治者カ道德ナル國民ノ生存行爲ヲ支配スル  
天則ノ厲行即チ統治行爲ニ因リテ國民ノ生存ヲ保護シ人格ヲ保持スルモノ  
ナルヲ以テ其統治ヲ受クルコトカ生存ヲ完クスル所以ナリ其統治ヲ受クル  
コトカ生存ヲ完クスル所以ナルカ故ニ統治權ニ從ハサルヘカラス統治權ニ  
從フコトカ統治ヲ受ケ生存ヲ完クスル所以ナリ統治權ニ從ハスシテ統治ヲ  
受クルモノニ非ス統治ヲ受ケスシテ生存ヲ完クシ得ルコトナシ左レハ統治  
權ニ從フコトハ國民ノ義務ナリ國民ハ統治權ノ發現存在ニ因リテ統治權ノ

拘束ヲ受ケ服從ノ負擔ヲ有スルモノナリ其負擔カ即チ義務ナリ此義務ハ國  
民タル義務ニシテ統治關係上諸般ノ義務ハ此義務アル爲ニ生スルモノナリ  
從ヒテ此義務ハ基本的義務タルモノナリ其基本的義務ハ統治權ノ發現存在  
ノ爲ニ生スル義務ナルヲ以テ畢竟スルニ國民ノ義務ハ統治權ノ發現存在ニ  
因リテ發生存在スルモノナリ國民ハ此基本的義務アル爲ニ生存ヲ完クシ得  
ルモノナリ國民ノ義務ハ單ニ國民タルカ故ニ負フモノナリト言フノミニテ  
ハ其義務ノ存在理由ヲ明ニスルコトナシ又統治者ハ強者ナルカ故ニ弱者ハ  
之ニ從ハサルヘカラスト言フノミニテモ其義務ノ存在理由ヲ明ニスルコト  
ナシ又統治者ノ保護ヲ受クルカ故ニ義務ヲ負フモノナリト言フモ其義務ノ  
存在理由ヲ示スニ足ラス統治權ノ存在スルハ天則ナルト同シク國民ニ義務  
ノ存在スルモ亦天則ナリ統治者ト國民トノ行爲ノ交換ニ非ス強弱ノ差ニ非  
ス又利益ノ報酬ニ非ス國民ノ義務ハ統治權ト兩面關係ヲ成シ統治權ノ發生  
ニ伴ハレテ當然發生スル所ノ天則ノ結果ナリ其天則ノ結果タル拘束ノ負擔  
ヲ統治化シテ國民ノ義務ト言フナリ有名ナルミラボー(佛國國費募集公文)ハ



租税ハ國民カ其享クル所ノ利益ニ酬フル代價ナリ公共安寧ノ保護ヲ得ンカ爲ノ前拂ナリト言ヒタルコトアリ又エミルド、デラルデンハ租税ハ權利ノ享受利益ノ保護ヲ得ル目的ノ爲ニ國ト名ケタル一會社ノ社員ヨリ納ムル所ノ保険料ナリト言ヒタリト聞及ヘリ何レモ國民ノ義務ノ性質ヲ辨セサルノ言ナリ是等ノ說ニ依ルトキハ利益ヲ受ケス保護ヲ受ケサルトキハ租税ヲ取戻スコトヲ得ト言フ論結ニ達スヘシ

國民義務  
ノ種別  
服從  
輔成

忠君  
愛國

國民ノ義務ハ之ヲ分チテ服從(Gehorsam, Submission)及輔成(Unterstützung, Assistance)ノ二トス服從トハ消極的ノ義務ニシテ退ヒテ統治權ノ行使ヲ妨クルコトナク之ヲ受ケテ從フコトヲ言ヒ輔成トハ積極的ノ義務ニシテ進ンテ統治行爲ヲ輔翼弼助スルコトヲ言フ

君主國ニ於テハ國民ノ義務ヲ臣民(Subject, Untertan)ノ義務ト言ヒ臣民ノ義務ハ凡テ之ヲ忠君ノ義務ト言フ忠君ノ義務ハ實ニ服從スルノミナラス統治者タル君主ノ統治行爲ヲ輔成スルコトナリ歐米諸國ニ於テハ忠君ハ文化ニ浴セサル國ノ遺風ニシテ東洋ノ蠻習ナリト嗤笑スル者アリ然レトモ是レ統治

者ノ本質ヲ辨セサル者ノ囁語ナリ未タ文化ニ浴セサル輩ノ痴言ナリ余豈ニ日本ノ忠君ヲ固持セン爲ノ曲辯ヲ勞スル者ナランヤ前ニモ論シタル如ク人類ノ生存カ統治者ニ依リテ完成スルハ天則ナリ從ヒテ統治者ニ服從シ統治者ヲ輔成セサルヘカラサルモ天則ノ結果ナリ其統治者カ君主ナルトキハ其君主ヲ守リ君主ヲ健全安泰ニシテ統治權ヲ強大ナラシムルハ最大必要ナル臣民ノ義務ノ履行ナリ其故ニ臣民ハ君主ニ服從セサルヘカラサルノミナラス進ンテ君主ノ統治行爲ヲ輔成セサルヘカラス其服從及輔成ノ義務ヲ稱シテ忠君ノ義務ト言フハ眞ニ至當ナリ君主ヲ守リ君主ヲ健全安泰ニスルト言フコトハ君主ノ統治行爲ヲ輔成シテ統治ヲ誤ラシメサルニ在リ其君主ヲ輔成シテ良統治ヲ爲サシムルハ獨國務大臣ニ限ルモノニ非ス國務大臣カ輔弼ノ任務ヲ盡サスシテ君主ヲシテ統治ヲ誤ラシムルコトアルトキハ國務大臣ノ不忠ヲ責メ以テ奏聞スルカ如キハ忠君ノ義務ノ一ナリ忠君ノ義務ノ基礎ヲ君恩ニ置キ忠君ヲ以テ報恩ナリトスルハ大ナル誤ナリ報恩ハ人生ノ美ナル行爲ナレトモ忠君ノ義務ハ天則ニ基キテ生シタル統治關係ニ因ル臣民

ノ義務ニシテ君恩ト關スルコトナシ若シ忠君ノ義務ノ基礎ヲ君恩ニ置クト  
 キハ他國ヲ征服シテ領有シタル場合ニ於テハ其新領民ハ何等ノ君恩ヲ受ケ  
 タルモノニ非サルヲ以テ忠君ノ義務ナシト言フコトニナリ臣民ト雖モ生來  
 國外ニ在リテ君恩ヲ受ケタルコトノナキ者ハ忠君ノ義務ナシト言フコトニ  
 ナルナリ君恩ヲ受ケタル者モ各自其受恩ノ分量ノ異ナルトキハ忠君ノ義務  
 ニモ等差ヲ生スルコトナルナリ又忠君ノ義務ノ基礎ヲ共同祖先ニ置クモ  
 誤ナリ共同祖先ヲ崇拜スルコトハ眞ニ善良ナル事ナレトモ忠君ノ義務ハ天  
 則ニ基キテ生シタル統治關係ニ因ル臣民ノ義務ニシテ共同祖先ニ關スルコ  
 トナシ若シ忠君ノ義務ノ基礎ヲ共同祖先ニ置クトキハ異民族ヲ臣民ト爲ス  
 コトヲ得ス異民族タル臣民ハ共同祖先ヲ有セサルカ故ニ忠君ノ義務ナシト  
 言フコトニナルナリ忠君ノ義務ハ一ニ愛國ノ義務タリ忠君スルコトカ即チ  
 愛國スルコトナリ忠君ト愛國トハ國民ノ義務ノ履行ニ關シ君主本位ヲ取ル  
 ト國家本位ヲ取ルトノ差ヨリ生スル觀念ノ相違ニシテ忠君スレハ愛國ノ結  
 果ヲ生スルモノナリ然レトモ貴族國ニ於テハ如何ニ愛國スルモ忠君タルコ

トナシ

清水博士(第一〇版憲法篇四三一頁)ノ説

臣民ノ服從ノ義務ヲ有スルハ其臣民タルノ地位ノ上ニ於テ當然ノコトニ屬ス……………  
 抑モ臣民ハ其領土内ニ在ルト領土外ニ在ルトヲ問ハス即チ何レノ土地ニ在ルヲ問ハス  
 服從ノ義務ヲ有スルモノナリト雖モ外國人ハ單ニ領土内ニ留マル場合ニ於テノミ服從  
 ノ義務ヲ有スルモノトス是レ一ハ國家組織ノ要素ニシテ他ハ國家組織ノ要素ニアラサ  
 ルニ由ルナリ

忠君ノ義務  
及倫理學

忠君ノ義務ハ統治權ニ對スル臣民ノ義務ノ内容ヲ成スモノニシテ臣民ノ義  
 務外ニ在ルモノニ非ス從ヒテ忠君ノ義務ハ法學ノ祖上ニ在ル論題ニシテ道  
 德學ニ專屬スヘキ事柄ニ非ス然ルニ忠君ノ義務ヲ以テ道德學上ノ義務ニシ  
 テ法學上ノ義務ニ非スト論スル者アリ然レトモ前ニ論シタル如ク君主ハ國  
 家ト同時ニ出現シタルモノニシテ統治者ナリ忠君ハ其君主タル統治者ニ奉  
 スル義務ナルカ故ニ統治權ニ對スル義務ナリ忠君ノ義務ハ統治權ニ對スル  
 義務ナルヲ以テ法學上ノ義務ナルコト明ナリ統治ハ道德ノ權現ニシテ君主  
 モ忠君モ道德ノ權現ニ因リ統治化シテ生シタルモノナルカ故ニ道德學ニ於

テモ君主及忠君ヲ其學題ニ供シ得ルモノナレトモ君主及忠君ハ道德ニハ隱在シテ統治ニ出現シタルモノナルヲ以テ主トシテ法學ノ論題タルヘキモノナリ然ルニ忠君ヲ以テ道德學ニ專屬シテ法學ノ論題タルモノニ非スト言フハ未タ忠君ノ本質ヲ辨セサル者ノ言ナリ

ホルンハツク(普國國法論第一卷二四〇頁)ノ說

忠義ノ義務ナルモノハ道德上ノ義務ニシテ法律上ノ義務ニ非ス

市村博士(國家及國民論四七頁)ノ說

近頃一時世人ヲ騷カシタル國體問題ノ如キモ一方ハ純然タル法律學ノ立場ヨリ國家ヲ解説シヨウトシ攻撃者ハ忠君論ト言フ倫理學上ノ議論ヲ爲シタルモノニシテ攻撃者ノ誤ナリ

清水博士(第一〇版憲法篇四三六頁)ノ說

刑法ノ國事犯ニ觸ルル場合ニ於テモ外國人ノ處罰セラルルハ忠實ノ義務違反ノ爲ニアラスシテ一國ノ秩序ノ爲メニスルモノナルモ臣民ノ處罰セラルルハ忠實ノ義務違反ノ制裁ニ出ツルモノトスホルンハツク氏ハ忠實ノ義務ヲ德義上ノ義務ナリト稱シタリト雖モ法律上制裁ノ件フコトアル義務ヲ單ニ德義上ノ義務ト考フルハ當テ得サルナリ

愛國ノ義

愛國ノ義務モ亦道德學ト法學トノ兩面ヲ成スモノニシテ道德學ニ專屬シ法

務ト法學及倫理學

學ノ關知スルモノニ非スト論スヘカラス愛國心ヲ法學上ノ形式中ニ壓縮セントスルモ不可能ノコトナルハエリネツクノ言ノ如シ併シナカラ法學上ニ於ケル愛國ノ義務ノ有無論ト愛國心ノ存否トハ全然沒交渉ノコトナリ

エリネツク(公權論第二章第一節)ノ說

愛國ハ國家存立ニ必要ナル條件ナレトモ愛國心ハ法學上ノ形式中ニ壓縮セントスルモ能ハサルモノナリ

人格ト服從

統治ハ人格ノ保護ナリ國民ハ勿論世界總般ノ人類カ統治權ニ服從スルハ其人格ヲ有スルカ爲ナリ服從ハ人格ノ滅殺ニ非ス服從ナルモノハ被治者ノ義務ノ履行ナリ義務ハ人格者ニ非サレハ之ヲ負擔スルコトヲ得サルモノナリ從ヒテ義務ノ履行タル服從ハ人格者ニ非サレハ之ヲ行フコトヲ得サルモノナルカ故ニ服從ノ限度ニ於テハ人格ヲ有セスト言フハ誤ナリ殊ニ服從ノ限度ニ於テハ人格ヲ有セスト言ヒナカラ義務主體ノ存在ヲ認ムルハ矛盾タルヲ免カレス論者ハ死刑ノ如ク生命ヲ奪フ行爲ニ服從スルトキハ人格ヲ消失スルモノナルカ故ニ服從ノ限度ニ於テハ人格ヲ有セスト言フニ在ルナラン

モ死刑執行ノ行爲ニ服従スルモ生命ノ存スル間ハ人格ヲ存スルモノナリ死刑執行ヲ終ハリタルトキハ人格ヲ消失スルモ服従アルコトナシ服従スルカ故ニ人格ヲ有セサルニ非ス人格ナキカ故ニ服従セサルモノナリ其故ニ人格ト服従トハ相離ルヘカラサル因果關係ヲ成シ人格アルカ故ニ服従アリ人格ナキトキハ服従ナシト謂フヘキナリ

エリネツク(公權論總論第七節)ノ説

個人カ國家ニ服従スル限度ニ於テハ全ク人格ヲ有セス唯義務主體アルノミナリ

茲ニ外國人及無國籍者ト稱スルハ領土ニ在ル國民外ノ一切ノ人類ヲ言フ領土ニ在ル國民外ノ人類ハ國民ニ非サルヲ以テ國民ノ義務ナルモノヲ負ハサルカ故ニ國民ノ義務トシテ其在留國ノ統治者ニ服従スルコトナケレトモ在留國ノ統治者ハ其領土ニ就テ統治權ヲ行使スルモノナルカ故ニ其結果トシテ其領土ニ在ル人類ハ統治權ノ行使ヲ受クルモノナリ從ヒテ領土ニ在ル國民外ノ一切ノ人類ハ其在留國ニ於ケル統治權ノ客體タリ  
在留人類ノ其在留國ノ統治者ニ對スル義務ハ國民タル義務ニ非スシテ在留

外國使臣

(二)外國人及無國籍者

ノ無義務

者トシテ其國ノ統治權ニ從ハサルヘカラサル義務ナルヲ以テ固ヨリ忠君愛國ノ義務ヲ有スルコトナシ唯單ニ其國ノ統治ノ妨害ヲ爲ササルニ在ルモノナリ其統治ノ妨害ヲ爲ササル義務ハ法規命令ヲ尊重スルハ勿論法規命令外ト雖モ統治ノ妨害トナルコトヲ爲ササルニ在ルナリ在留外國ノ使臣カ國際關係ニ於ケル相互禮讓トシテ其在留國ニ在リテハ何等ノ義務ヲ有セスト論スル者アリ特ニ國際法學者ノ最モ盛ニ主張スル所ナリ在留外國使臣カ在留者タル義務ナシト言フハ國際關係ニ於ケル相互禮讓ニ非ス在留外國使臣ハ其自國統治者ノ使臣ナルヲ以テ統治者ハ他國統治者ニ對シテハ平等關係ニ在ルモノナルカ故ニ其平等關係ニ在ル統治者ノ使臣ハ其在留國ノ統治者ニ對シテ服従スル義務ヲ有セサルカ爲ナリ然レトモ如何ニ統治者ナリト雖モ妄リニ他國統治者ノ統治ノ妨害ヲ爲ス權利ヲ有セサルノミナラス他國統治ノ妨害ヲ爲ササル義務ヲ有スルモノナルカ故ニ其在留外國使臣ハ其在留國ノ統治ノ妨害ヲ爲スヘカラサルナリ其在留外國使臣ノ其在留國ノ統治ヲ妨害スヘカラサル義務ハ在留一般人類ノ在留者トシテ負フ所ノ服従關係ニ於

國民外人  
類ノ權利

ケル義務トハ異ニシテ平等關係ニ於ケル義務ナリ其故ニ在留外國使臣ノ義務不存ヲ論スル者ノ其理由ヲ國際關係ノ相互禮讓ニ置クハ甚タ失當ナリ領土ニ在ル國民外ノ一切ノ人類ハ其在留國ニ於テ權利ヲ有スルヤ否ヤ既ニ屢屢論シタル如ク世界ノ人類ハ何處ニ在リテモ人格ヲ有ス其人格ハ自國ニ在リテモ他國ニ在リテモ否認セラレルコトノナキモノナリ人類カ人格ヲ有スル以上ハ其人格ヲ維持スルコトヲ得ルモノニシテ自國ニ在リテモ他國ニ在リテモ其維持行爲ヲ禁止セラレルコトノナキモノナリ其維持力タル生存力ヲ統治化シテ之ヲ權利ト言フ即チ統治者カ其維持力タル生存力ヲ權利ト爲シテ與フルモノナリ統治者カ其維持力タル生存力ヲ權利ト爲シテ與フルハ其人格承認ニ依リテ爲スモノナリ統治者カ其人格維持權ヲ與フルハ國民ト非國民トニ區別アルコトナシ蓋シ人格ハ國民タルト非國民タルトヲ問ハス人類ノ皆之ヲ有スルモノナルカ故ニ統治者ハ凡テノ人格者ニ等シク人格維持權ヲ與フルモノナリスノ如ク在留人類カ人格維持權ヲ有スルカ故ニ國民ト同シク人格維持權ノ保護ヲ受クル爲メ統治權ノ行使ヲ要求シ得ルモノ

(三)外國  
統治者

ナリ日本憲法ハ勿論英吉利ノ權利章典其他諸國ノ憲法ニ國民外人類ノ權利ヲ規定セサルモ國民外人類ノ人格ヲ認メサルニ非ス又之ヲ認メサルコトヲ得ルモノニ非ス從ヒテ何人ヲ問ハス苟モ人類タル以上ハ之ニ人格維持權ヲ認與セサルヘカラサルモノナリ唯其國統治ノ必要上國民外ノ人類ハ其維持權ノ行使ニ關シ其國國民ニ比シテ多ク制限セラレルコトノアルハ已ムヲ得サルコトナリ然レトモ國民外人類ノ人格維持權ノ行使ニ關シ其國國民ニ比シテ多ク制限スルハ其國統治ノ必要ニ基カサルヘカラス其國統治ノ必要ナキニ拘ハラス等シク人格者タル國民ト國民外ノ人類トヲ區別シテ國民外ノ人類ノ人格維持權ノ行使ニ關シ國民ヨリ多ク制限スルハ其理由ナキ不當行爲ナリ

余ハ外國統治者ヲ以テ統治權ノ客體ノ一ニ算ヘントス或ハ無謀ノ業ナリトシテ罵ル者アルヘシ然レトモ其ハ罵者ノ不明ノミ余豈ニ何ノ感アランヤ抑モ統治權ハ國家ヲ維持スルノ權ナリ對内關係ニ於テハ領土ニ在ル國民ハ勿論一切ノ人類ニ對スル支配服從ノ關係ニ在リ對外關係ニ於テハ統治者ト統

治者トノ平等關係ニ在ルナリ罵者ハ統治權ノ客體ハ服從者ナラサルヘカラ  
 ス統治者ト統治者トノ關係ハ平等ナルカ故ニ外國統治者ハ統治權ノ客體タ  
 ルコトナシト言フニ在ルナランモ統治權ノ客體ハ必スシモ服從者タルコト  
 ヲ要スルモノニ非ス統治權ノ行使カ或ハ支配行爲ニ因リテ表現スルコトア  
 リ此場合ニ於ケル統治權ノ客體ハ服從者タルヘシ或ハ平等行爲ニ因リテ表  
 現スルコトアリ此場合ニ於ケル統治權ノ客體ハ平等ノ地位ニ在ル相手方タ  
 ルナリ其故ニ統治權ノ客體ヲ以テ必ス服從者ト爲ササルヘカラサル理由ア  
 ルコトナシ要ハ前ニ論シタル如ク統治權ノ客體タルモノハ統治權行使ノ目  
 的タル人格者及事物ナルヲ以テ外國統治者カ統治權行使ノ相手方トナルコ  
 トヲ認ムル以上ハ外國統治者ヲ以テ統治權ノ客體ト爲スニ何ノ不可アルコ  
 トナシ

## (四) 法設人

法設人トハ統治者カ人類ノ集團ニ人格ヲ附與シテ法律關係ノ當事者タラシ  
 ムル爲ニ法設シタル非人類人ナリ統治者ハ此法設人ニ對シテ統治行爲ヲ爲  
 スモノナルカ故ニ法設人モ亦統治權ノ客體タルモノナリ法設人ハ學說及法

制ニ於テ之ヲ法人ト言ヒ其人格ニ關シテハ或ハ天產論ヲ唱ヘ或ハ法產論ヲ  
 吐キ又或ハ法認論ヲ説ク者アリテ諸說區區タレトモ余ハ法產即チ統治者カ  
 法ヲ以テ人格ヲ創作スルモノト思考スルカ故ニ之ヲ法設人ト稱スルナリ

主體及補  
現體  
成體  
機關  
現體  
格說  
ノ人

## 第五章 統治權ノ機關

### 第一節 機關ノ性質

機關ナル語ノ當否ハ暫ラク措キ凡テ物體ニハ主體アルトキハ其主體ノ行用ヲ表現スル爲ニ從體ヲ具備スルモノアリ又獨立セル二個ノ物體カ互ニ連繋シテ一ノ物體カ他ノ物體ノ行用ヲ補成スルモノアリ前者ハ表現體ニシテ後者ハ補成體ナリ機關ナル法學上ノ術語ハ表現體ヲ指スモノナリヤ將タ補成體ヲ指スモノナリヤ一般ノ學者ハ表現體ヲ指シテ機關(Organ)ナリト言フニ在ルモノノ如シ余モ表現體ヲ機關ナリトスル術語ヲ襲用シテ其本質ヲ説論スヘシ少數ノ學者ハ機關ハ有機體ノ組成分子例ヘハ人體ニ於ケル目耳鼻等ノ如ク有形的ニ其主體ヲ成セル場合ニ存シ關係的ニ從體タル場合ニ存スルコトナシト論セリ其說ノ當否ハ暫ラク措キ余ハ有形的ニ其主體タル有機體ヲ組成セル表現體モ關係的ニ其主體タル有機體又ハ無機體ヲ組成セル表現體モ共ニ同一道理ノ下ニ説論シ得ルカ故ニ兩者等シク機關ナリト稱スルニ

差支ナシト爲ス者ナリ斯ノ如ク機關ナルモノハ有機體タルト無機體タルトヲ問ハス主體ノ行用ヲ表現スル從體ナリ其有形的ニ具備スルモノハ主體ヲ組成スルモ關係的ニ具備スルモノハ其表現關係外ニ在リテハ別在獨存スル所ノモノナリ機關ハ其有形的ニ主體ヲ組成スルモノタルト其關係的ニ主體ヲ組成スルモノタルトヲ問ハス共ニ主體ヲ組成スル從體ナルカ故ニ其表現關係ニ於テハ主體ノ擴張又ハ延長トナリテ運用スルモノナルヲ以テ其運用ハ其機關ノ有者タル主體ノ力ノ表現タルモノナリ從ヒテ機關其物ニ獨存格ヲ有スルコトナシ其故ニ若シ機關カ人ヨリ成ル場合ニ在リテモ其人ハ機關組成外ニ在リテハ人格者ナレトモ機關トシテハ人格ヲ具有スルモノニ非ス多數ノ論者ハ機關カ人格ヲ具有セスト言フモ機關カ人格ヲ具有スト論スル者モアリ

グ、マイヤー(獨逸國法論第一一號)ノ說

國家機關ハ人格ナキヲ以テ法律關係ノ當事者タルコトヲ得ス  
穂穂八束博士憲法提要三九四頁ノ說

機關ト謂フトキハ自己ノ爲ニ存在シ行動スルノ主體ニ非ス他ノ目的ノ爲ニ設備シタルコトヲ意味ス自主ノ目的ナク獨立ノ人格意思ナキコト之レ機關ノ機關タル性格ナリ

美濃部博士(日本國法學一〇四頁一〇五頁)ノ說

機關タル地位ニ當ル人類ハ國家機關トシテハ人格ヲ有スルモノニ非ス

市村博士(帝國憲法論四七四頁)ノ說

國家機關ハ其機關タル資格ニ於テハ人格ヲ有セス

ギルケ(團體論ト獨逸法論一七一頁以下)ノ說

機關ハ不完全ナル人格者ナリ即チ機關ハ權利義務ノ主體ナリ何トナレハ其機關タル地位ニ於テ憲法上ノ權限ヲ有シ而シテ其權限ハ權利ヲ包含スルモノナレハナリ

ベルナチツク(法人ノ觀念ニ關スル批評的研究一一頁)ノ說

或機關ハ國家ノ權利ヲ自己ノ權利トシテ與ヘラルルモノアリ此ノ如キ機關ハ自己ノ有ニシテ同時ニ他人ノ有スル權利ヲ行フモノニシテ人格ヲ有ス例ヘハ君主及自治團體ノ如シ

清水博士(行政篇七四〇頁)ノ說

機關ト云ヘハ總テ人格ヲ有セサルモノノ如ク解スル者アレトモ誤ナリ機關トハ他ノ爲ニ事務ヲ辨スルモノニシテ人格ヲ有スルト否トハ何等ノ關係ナシ公共團體ハ國家機關ニシテ人格者ナリ

同博士(第一〇版憲法篇五五八頁)ノ說

第五章 統治權ノ機關 第一節 機關ノ性質



國家機關ハ人格ヲ有セス

機關ハ人格ヲ具有セサルモノナルカ故ニ權利ノ主體タルコトナシ義務ノ主體タルコトナシ又意思ノ主體タルコトナシ然ルニ機關ヲ以テ權利ノ主體ト爲ス學者アリ義務ノ主體ト爲ス學者アリ又意思ノ主體ト爲ス學者アリ猶又憲法ヲ以テ斯ル規定ヲ爲シタルモノアリ機關ヲ以テ權利ノ主體ト爲シ義務ノ主體ト爲シ又ハ意思ノ主體ト爲スハ機關ノ人格ヲ肯定スルニ非サレハ生セサル論結ナリ

穂積八東博士憲法提要三九四頁三九八頁ノ説

機關ハ人格ヲ有スルコトナシ機關カ自然意思ニ成ルト雖モ之ヲ以テ機關自己ノ意思ト爲スニハ非ス主體ノ法律意思ノ構成ニ貢獻スルニ過キス統治ノ主體ト統治ノ各機關トノ間及ヒ機關相互ノ間ニハ權力服從若クハ權利義務ノ關係ナク委任代理ノ關係モナシ二者ノ間自他ノ別ナキ猶人ノ其手足ニ於ケルカ如シ從ヒテ其間ノ關係ハ事實ノ問題ニシテ法律ノ問題タルヘカラス

ブルンチユリ(國家論第四卷第二章)ノ説

國家ノ首長ハ國家ノ最高機關ナリ國家ノ首長カ帝王ナレハ之ヲ君主ト稱シ之ニ君主主權ヲ與フ

ベルナチツク(共和國體ト君主國體論二九頁)ノ説

君主國ニ於テハ國家ノ最高機關カ其機關タル地位ニ對シテハ自己ノ權利ヲ有ス

コラー(法學通論一〇九頁)ノ説

同論

トライチケ(政治學第二卷八頁)ノ説

同論

クナイス(英國行政法一五四頁)ノ説

國王ハ國家意思ヲ執行スル所ノ一切ノ機關ニ首長タルモノニシテ此關係ニ屬スル一切ノ方面ヲ總稱シテ國王ノ大權ト云フ

グマイヤー(獨逸國法論第八四號)ノ説

君主ハ國家ノ最高機關ナリ臣民ニ對シテ權利ヲ有スルノミナラス義務ヲ負フ

ギルケ(團體論ト獨逸法論一七一頁以下)ノ説

機關ハ權利義務ノ主體タリ

伊藤公爵(憲法義解六〇頁)ノ説

帝國議會ハ法ヲ議スル權ヲ有シ行政ヲ監督スルノ任ヲ間接ニ負擔スルモノナリ

美濃部博士(日本國法學一二五頁)ノ説

君主カ機關タル地位ニ對シテハ權利ヲ有ス

同博士(憲法講話六六頁)ノ説

第五章 統治權ノ機關 第一節 機關ノ性質

君主ハ何人ノ委任ニ依ルニ非ス固有權ニ基キ當然皇位ニ即ク天皇ノ大權ハ憲法上當然  
天皇ニ屬スル大權ニシテ何人ヨリモ委任セラレタルモノニ非ス即チ國家直接機關ナリ  
上杉博士(憲法綱領一〇二頁)ノ説

國務大臣ハ天皇ヲ輔弼スルノ職務アリ

市村博士(國家及國民論一一五頁二五九頁)ノ説

國體ハ國家機關中ノ最高機關即チ統治權ノ總攬者カ誰ナルヤニ依リテ區別スルナリ統  
治權ノ總攬者ト云フハ何人ヨリモ委任セラレス又承繼セス自己固有ノ權トシテ統治權  
ヲ行ヒ得ル地位ニ在ル者ヲ云フ國務大臣ノ職權ハ天皇ヲ輔弼シ國務ノ詔勅ニ副署ヲ爲  
スニ在リ

エリネツク(一般國家學五〇四頁以下)ノ説

國家カ常ニ統一的意思ヲ要スルハ論ナキコトナリ然レトモ此意思カ唯一個ノ機關ニ屬  
セサルヘカラスト爲スハ非ナリ共和國ニ於テハ國權カ合議體ニ屬スルコトハ明カニシ  
テ些ノ疑點ヲ存スルコトナシ合議體ニ於ケル統一的意思ハ多數ノ個人ノ意思ヲ統一シ  
タルモノニ外ナラス然ラハ多數ノ獨立ノ機關ノ意思ヲ統一スルコトヲ得トセハ國家ノ  
統一的意思カ唯一個ノ機關ニ屬セサルヘカラスト云フノ非ナルヤ知ルヘキナリ

グ、マイヤー(獨逸國法論第五號)ノ説

國家ノ意思及行爲ハ機關ノ意思及行爲ニ因リテ發現セラル

美濃部博士(日本國法學一一六頁)ノ説

最高機關ハ國家ニ其原動力ヲ與フルノ機關ナリ最高機關ノ意思ニ基クニ非サレハ國家  
ハ全ク活動スルコトヲ得ス

同博士(國家學雜誌第二六卷第一〇號國家及政體論)ノ説

權利ハ常ニ自己ノ意思ノ力トシテ法律上ノ効力ヲ有ス權限ハ他ヲ代表スル力ニシテ其  
代表スル者ノ意思ノ力トシテ法律上ノ効力ヲ生ス

上杉博士(帝國憲法述義四三三頁)ノ説

裁判官ハ自己ノ意見ニ從ヒテ判決スルナリ

同博士(憲法綱領九二頁一〇二頁)ノ説

輔弼ハ或ハ事ニ臨ミ或ハ一般的ニ又或ハ消極的ニ意見ヲ言上シテ採納ヲ乞フコトヲ謂  
フ帝國議會ノ協贊ハ獨立ノ意見ニ依ルナリ

清水博士(第一〇版憲法篇五五八頁)ノ説

國家統治權ノ本質ハ意思ノ力ナルカ故ニ統治權ノ爲メニ設備セラルル機關ハ意思ヲ有  
スルモノナラサルヘカラス

日本憲法第六七條第八條第六四條第七〇條第五三條

政府ハ既定歳出ノ豫算變減協贊ニ同意スルコトヲ得帝國議會ハ緊急勅令發布豫算超過  
又ハ豫算外ノ支出其他緊急財政處分ニ關シテ事後承諾ヲ爲スコトヲ得又議員ノ逮捕ノ  
許諾ヲ爲スコトヲ得

普魯西憲法第六三條第八四條第二項

第五 統治權ノ機關 第一節 機關ノ性質

國會ハ緊急命令ノ發布ニ關シテ事後承諾ヲ爲スコトヲ得又議員ノ審問又ハ拘留ノ承諾ヲ爲スコトヲ得

獨逸帝國憲法第三一條

國會ハ其停會ニ同意スルコトヲ得議員ノ審問又ハ拘留ノ承諾ヲ爲スコトヲ得

奧地利憲法第二篇第一六條

國會ハ議員ノ逮捕又ハ審問ノ承諾ヲ爲スコトヲ得

佛蘭西一七九三年憲法第四四條

國會ハ議員ノ逮捕及喚問ノ承諾ヲ爲スコトヲ得

同一八四八年憲法第三七條

國會ハ議員ノ逮捕ヲ承諾スルコトヲ得

同一八七五年憲法國權關係章第一四條

國會議員ハ重罪又ハ輕罪事件ニ關シ會期中其院ノ承諾ナクシテ逮捕又ハ訴追セラルルコトナシ

伊太利憲法第三七條第四五條

國會議員ハ國會ノ承諾ナクシテ逮捕セラルルコトナシ

機關ノ運用能力

機關ハ其運用ニ因リテ主體ノ行用ヲ表現スルモノナルカ故ニ機關ニ運用能力ナカルヘカラス運用能力ハ機關ノ種類ニ依リテ異ナルヘキモ人ヲ以テ組

成スル機關ノ運用能力ハ其機關ヲ組成スル人ノ智能ナラサルヘカラス然レトモ智能ハ意思ニ非ス抑モ意思ハ獨存主體ニ存スルモノニシテ自我心ナリ自我心ハ人格心ナリ其故ニ意思ハ人格者ニ非サレハ存セサルモノナリ人格ヲ有セサル機關ニ意思ノ存在スル道理アルコトナシ官吏カ行政作用ヲ爲シ議員カ協賛ヲ爲スハ智能ノ働作ナリ意思即チ人格心ノ發揚ニ非ス然ルニ議員ハ自由意思ノ行爲ヲ爲スモノナリト論スル者ノ在ルカ如キハ意思ノ本義ヲ解セサル者ノ言ナリ

機關ハ主體ノ行用ヲ表現スル所ノ從體ナルヲ以テ有形的又ハ關係的ニ主體ヲ組成シ主體ノ擴張又ハ延張トナリテ所謂主體ト機關トノ間自他ノ別ナキ猶人ノ其手足ニ於ケルカ如キモノナルカ故ニ機關ハ主體ヨリ離レテ別在獨存スルコトヲ得ス若シ其兩者ヲ別離スルトキハ機關ニ非サルヲ以テ機關タル地位ニ在リテハ決シテ人格ナル獨存格ヲ有シ得サル道理ナリ

機關カ主體ノ行用ヲ表現スル所ノ働力ハ何ナリヤ他ノ機關ハ暫ラク措キ人ヲ以テ組成スル機關ノ働力ニ付テ説論スヘシ機關ハ主體ノ命令又ハ委任ニ

機關作用ノ働因

機關ノ機能

依リテ運用スルモノナリト言フ説ナキニ非サレトモ機關ハ人格者ニ非サルヲ以テ人格者ニ非サレハ受命者又ハ受任者タルコトヲ得サルモノナルカ故ニ機關ニ對シテハ命令又ハ委任ナルモノアリ得サルナリ前ニモ論シタル如ク機關ハ主體ヲ組成スル從體ニシテ主體ノ擴張又ハ延長ナルヲ以テ恰モ吾人ノ手足カ吾人ノ生存力ニ因リテ動ク如ク機關カ主體ノ生存力ニ因リテ發働運用シテ其生存力ヲ表現スルモノナリ其故ニ機關ノ働カハ主體ノ生存力ナリト言ハサルヘカラス其生存力カ機關ニ依リテ表現セサル前ハ主體自身ニ潜在スルモノナルヲ以テ主體外ニ何等機關ヲ生スルコトナシ

機關ノ發働運用ハ機關カ本來具備スル所ノ機能ノ作用ナリ其機能カ主體ノ生存力ニ依リテ作用程量ヲ定メ其程量ヲ作用スルモノナリ學者ノ中ニハ其機能ヲ稱シテ或ハ權利ナリト言ヒ或ハ權限ナリト言ヒ或ハ職權ナリト言ヒ又或ハ職務ナリト言ヘリ然レトモ機關ハ人格ヲ有セサルモノナルカ故ニ機能ナルモノヲ存スルモ權利權限職權又ハ職務ナルモノヲ有セサルナリ

穂積八東博士(憲法提要四〇二頁)ノ説

機關カ其配當セラレタル事務ヲ行フハ官能ナリ官能作用ヲ權限ト云ヒ又職權職務ト謂フノ例ヲ爲セリ然レトモ權限若クハ職權職務トハ本權能ノ限界ヲ指ス義ニシテ權力權利ノ主體タル者ニ對スルニ非サレハ之ヲ稱セサルナリ

ギルケ(團體論ト獨逸法論第七一頁以下)ノ説

機關ハ權利義務ノ主體ナリ

グ、マイヤー(獨逸國法論第八四號第九六號)ノ説

國家ハ一ノ共同團體ニシテ君主ハ其最高機關タリ故ニ君主ハ臣民ニ對シテ權利ヲ有シ義務ヲ負フ國會ハ國家機關ニシテ權限ヲ有ス

伊藤公賢(憲法義解五九頁六〇頁)ノ説

帝國議會ハ法ヲ議スル權ヲ有シ又憲法及議院法ハ議會ノ爲ニ請願ヲ受クル權、上奏及建議ノ權、議員政府ニ質問シ辯明ヲ求ムル權、財政ヲ監督スル權ヲ認メタリ

美濃部博士(日本國法學一〇七頁)ノ説

國家機關カ其職分トシテ處理スヘキ國家事務ノ範圍ヲ稱シテ機關ノ權限ト云フ權限ハ權利ニ非ス

同博士(憲法講話一六二頁一七〇頁)ノ説

國會ハ全國民ヲ代表シ法定權限ヲ有シ立法ニ參與シ行政ヲ監督スル任務ヲ有ス

同博士(國家學會雜誌第二六卷第一〇號國家及政體論)ノ説

權利モ權限モ意思ノ力ナルコトハ二者同一ナリ權利ハ常ニ自己ノ意思ノ力トシテ法律

第五章 統治權ノ機關 第一節 機關ノ性質

上ノ効力ヲ有ス權限ハ他ヲ代表スル力ニシテ其代表スル者ノ意思ノ力トシテ法律上ノ効力ヲ生ス

上杉博士(憲法綱領八五頁一〇二頁)ノ說

國務大臣ハ天皇ヲ輔弼スル職務アリ帝國議會ノ兩院ハ同權ナリ

清水博士(憲法篇二三三頁)ノ說

憲法上ノ機關ハ憲法ニ於テ其權限ヲ定メタルモノナリ

同博士(行政篇五六頁)ノ說

機關ノ處理スル國務ノ範圍ヲ權限ト云フ

市村博士(國家及國民論二五九頁二六三頁)ノ說

國務大臣ノ職權ハ天皇ヲ輔弼シ國務詔勅ニ副署スルニ在リ行政大臣ハ其職權ノ行使ニ就テ行政ノ首長タル君主ノ事務命令ニ服従スル義務アリ

表現ト代理ト

余ハ上來説論シタル如ク機關ハ有形的又ハ關係的ニ主體ヲ構成スル從體ニシテ獨存格ヲ有セス機關ノ發働運用ノ主體ノ行用ヲ表現スルモノナルヲ以テ表現體又ハ表現機關ナリト稱スルコトヲ得ルモ其表現カ主體ニ代リテ爲スモノニ非サルカ故ニ其表現ヲ代表ト言ヒ機關ヲ代表機關ト言フハ誤ナリ一般ノ學者ハ傳説ヲ奉シテ機關ノ表現ヲ代表ト言ヒ機關ヲ代表機關ト言ヘ

リ是レ深ク審究セサル爲ニ生スルコトナルヘシ代表(Representation, Representantion)ト言フ以上ハ代表者(Representant, Representative)ト被代表者トノ二體ノ別在獨存セルコトヲ要シ其二體カ各人格ヲ具有スルモノナラサルヘカラス自己ノ目鼻耳口等ノ機關ハ自己ヲ代表スルモノニ非ス自己ノ行用ヲ表現スルモノニ過キス自己ノ住家乃至森林田畑ハ自己ヲ代表スルモノニ非ス自己ノ權利ノ目的タルモノニ過キサルナリ自己ヲ代表スル者ハ自己ト同シク人格ヲ有スル自己外ノ者ナラサルヘカラス自己内ノ非人格ハ自己ヲ直表スルモノニシテ代表スルコト能ハサルモノナリ抑モ代表ハ意思者ニ代リテ意思者ノ意思ヲ表示スルモノナルカ故ニ二個人格者ノ對立スル場合ニ非サレハ生セサル現象ナリ其故ニ機關ハ主體ノ表現機關タレトモ代表機關タルモノニ非ス從ヒテ機關ノ表現作用ハ主體ノ行用ノ直表ニシテ代表ニ非サルナリ然ラハ代表ト代理トノ差異如何ヲ問フ者アラン代表モ代理モ二個人格者ノ對立スル場合ニ生スルモノニシテ代表ハ今述ヘタル如ク本人ニ代リテ本人ノ意思ヲ表示スルモノナレトモ代理ハ本人ニ代リテ代理人ノ意思ニ因リ處理ス

ルモノヲ言フナリ現今ノ法則ハ代表ト代理トヲ混同セルモノノ如シ其之ヲ混同セル所以ハ代表ノ本質ヲ識ラサルカ爲ナルヘシ

清水博士第一〇版憲法篇五六一頁五六三頁ノ説

國家ト機關トノ關係ハ民法上ノ代理又ハ委任ノ關係ニアラス……委任又ハ代理ノ關係ニ在ル受任者若ハ代理人ハ之ヲ機關ト稱スルコト能ハサルハ勿論ナリ

統治機關

以上論述シタル所ハ一般ノ機關ニ通有セル本質ニシテ此本質ハ統治機關モ亦之ヲ具有セリ統治機關トハ統治者ノ統治ヲ爲ス表現體ナリ此表現體ハ自然人ヲ以テ組成スルモ關係的ニ統治者タル主體ヲ組成スル從體ナルカ故ニ獨存格ヲ有セス從ヒテ人格ヲ有セス又代表者ニ非サルコト既論ノ如シ

ゲマイヤー(獨逸國法論第五號)ノ説

國家ハ無形人ナリ其權利ヲ行フカ爲ニハ自然人ヲ要ス其權利ヲ行フ自然人ヲ稱シテ國家機關ト言フ

美濃部博士(日本國法學一〇四頁)ノ説

國家ノ意思ヲ作成スル人類ハ其之ヲ作成スルノ地位ニ於テ之ヲ國家ノ機關ト云フ

憲法上ノ統治機關ノ機能ハ憲法ヲ以テ之ヲ定メ憲法外ノ統治機關ハ法律又

ハ官制令ヲ以テ之ヲ定ム憲法上ノ機關タルト法律上又ハ官制令上ノ機關タルトヲ問ハス其機能ハ其機能ヲ定メタル規定以外ニ之ヲ擴張シテ作用スルコトヲ得ス又作用スルモ無効ナリ其故ニ憲法ヲ以テ國會ノ機能トシテ國務大臣ノ信任不信任ノ決議ヲ爲シ得ルコトヲ定メサルトキハ國會ハ國務大臣ノ信任不信任ノ決議ヲ爲スノ機能ヲ有セサルカ故ニ國會作用トシテハ無効ナリ又憲法ヲ於テ國務大臣ニ國庫剩餘金ノ責任支出ヲ爲シ得ルコトヲ定メサルトキハ國務大臣ハ責任支出ヲ爲シ得ル機能ナキモノナルヲ以テ國務大臣ノ作用トシテハ無効ナリ國會ハ亦之ヲ承認スルノ機能規定ヲ存セサルカ故ニ之カ承認決議ヲ爲スモ無効ナリ

小野塚博士(政治家大綱上卷一三一頁)ノ説

立憲政體ニ於テハ國家機關ノ行動ハ憲法ノ範圍外ニ出ツル能ハス單ニ憲法本文ニ背テヘカラサルノミナラス憲法ノ精神ニ違反スル行動ヲ爲スヘカラス

余ハ本節ノ説論ヲ終ルニ臨ミテ一言ノ附加スヘキモノアリ統治機關ヲ構成スル者ニ其機關タル意思ヲ存セサルヘカラサルコト是ナリ大統領力他ヨリ

統治機關ナリトセラレルモ大統領其人ニ於テ機關タル意思ナク統治者タル意思ヲ有スルトキハ其行爲ハ機關作用ニ非スシテ統治行爲タルコトアリ支那ノ大總統袁世凱ハ恰モ此現象ヲ示シタルモノナリ往昔日本ニ於テ權門政治又ハ武門政治ナルモノアリタリ併シナカラ其權門又ハ武門ハ天皇ヲ尊敬シ統治者ハ天皇ナリ吾等ハ天皇ノ意思ヲ奉シテ政治作用ヲ爲スモノナリトノ考ヲ以テ作用シタルモノナルカ故ニ其作用ハ機關作用タリシナリ天皇ハ建國以來一日モ變ハリタルコトナキ統治者タリ

## 第二節 機關ノ種類

專制政體タルト立憲政體タルトヲ問ハス現存ノ政治機關ハ歴史ノ遺制物ナリ統治機關タルモノハ必ス斯クアラサルヘカラサルモノニ非ス現時ノ機關制ヨリ更ニ善良ナル機關制ヲ發見シタルトキハ其新機關制ヲ採ルヘキナリ現時ノ政體ハ立法司法及行政ニ分チテ存在スルヲ以テ統治機關モ亦立法機關司法機關及行政機關ノ三種類ニ分チテ設置セリ然レトモ司法及行政ハ執

### (一) 立法機關 一 國會 二 院制

政ノ分別ナルカ故ニ司法機關及行政機關ハ執政機關ノ區別タルモノナリ統治關係ニ於テ法ト言ヘルモノハ統治者カ統治ヲ爲ス爲ニ定メタル規定ニシテ即チ統治ノ手段タルモノナリ其故ニ法ハ何人モ制定シ得ルモノニ非スシテ獨統治者ノ制定スルモノナリ統治者カ法ヲ制定スルニ當リテ自ラ制定スルコトアリ又機關作用ニ依リテ制定スルコトアリ其機關ヲ稱シテ立法機關ト言フナリ統治者カ法ヲ制定スルニ當リ廣ク智ヲ天下ニ求ムルハ立憲統治ノ目的ニ適スル善良ナル統治行爲ニシテ立憲統治ノ本領ナリ廣ク智ヲ天下ニ求ムルニハ國會 (Reichstag, Parliament) ヲ設クルヲ以テ其至便トス立憲政體ニ在リテハ國會ヲ以テ立法機關ト爲スナリ國會ハ立法機關ナルカ故ニ法ヲ制定スル作用ヲ爲スモノニシテ歐羅巴ノ諸國ニ於テハ古來豫算モ法ヲ以テ定ムルモノナルカ故ニ國會作用ハ凡テ立法ナリト言フコトヲ得タルモ日本ニ於テハ豫算ハ法ヲ以テ之ヲ定ムルモノニ非ス然レトモ國會ノ協賛ヲ以テ豫算ヲ定ムルモノナルカ故ニ國會ハ立法機關ニシテ豫算機關タルモノナリ從ヒテ日本ノ國會ハ立法及豫算ノ協賛作用ヲ爲スモノト謂フヘシ國會ハ

往昔希臘日耳曼時代ニ在リテハ國民全體ヲ以テ組織シタルコトアリタレトモ現時ニ於テハ國民中ノ特定者又ハ公選ニ依リテ當選シタル者ヲ以テ組織セリ又國會ハ一院ヲ以テ組織セル國アリ二院ヲ以テ組織セル國アリ希臘ハ一院制ヲ採リ日本英吉利佛蘭西北美合衆國和蘭白耳義西班牙葡萄牙伊太利埃地利丁抹瑞典等ハ二院制ヲ採レリ學者獨逸ヲ以テ一院制國ナリトスルモ獨逸帝國憲法第五條ニ帝國ノ立法ハ聯邦參議院及帝國議會ニ依リテ之ヲ行フト規定セルカ故ニ少クトモ立法ニ付テハ二院制ヲ採ルモノト謂フヘシ乍併其制度ノ良否ヲ論スルハ本論ノ目的ニ非サルヲ以テ之ヲ省略ス

國會ノ性質  
國會ハ統治機關ナリ  
國會ハ國民ノ代表ナリ

國會ハ統治者ノ統治機關ナリヤ將タ國民ノ代表會ナリヤ國會ヲ以テ統治機關ナリトセハ選舉(Wahl, Election)ハ指名ニ過キス又國會ヲ以テ國民ノ代表會ナリトセハ選舉ハ委任ニシテ權利ノ行使ナリト言フヘキナリ國會ヲ以テ統治機關ト爲スヤ國民ノ代表會ト爲スヤハ全ク制度ノ問題ニシテ必ス統治機關タラサルヘカラストカ又ハ國民ノ代表會タラサルヘカラスト言フ道理アルコトナシ單ニ國會ハ國民ノ選舉シタル議員ヲ以テ組織スルカ故ニ國民ノ

代表會ナリト言フハ愚ナリ統治者カ廣ク智ヲ天下ニ求ムル爲メ其智ノ在ル所ヲ調査スルノ要アリ此意味ニ於ケル國會ハ統治機關ニシテ立法機關ナリ國民ハ國民ノ意思ノ在ル所ヲ統治者ニ知ラシムルノ要アリ此意味ニ於ケル國會ハ國民ノ代表會ニシテ立法機關ニ非ス往昔國民全體カ國會ヲ組織シ又ハ國民カ總代ヲ選ヒテ國王ニ對抗シ以テ國王ノ橫暴ヲ防キ國民ノ利益ヲ保護シタル會合カ國會ノ起原ナリシ點ヨリ考察スレハ國會ハ國民ノ代表會ナリト言フヲ以テ其當ヲ得タルモノノ如シ然レトモ現時ノ各國ニ於ケル國會ノ實態ヲ案スルニ全國民ノ選舉ヲ爲スニ非スシテ僅少ノ國民ヲ選舉人トシ其選舉人中ノ僅少ノ選舉ニ依リテ當選シタル者カ議員ト爲リテ國會ヲ組織スルモノナルカ故ニ國會ハ全國民ノ委任ヲ受ケタル全國民ノ代表會ナリト言フコトヲ得サルナリ或ハ言ハン其僅少ナル選舉人ハ全國民ノ代表者又ハ機關トシテ議員ヲ選舉スルモノナルカ故ニ國會ハ全國民ノ代表會ナリト言フニ妨ケナシト然レトモ其僅少ナル選舉人ハ何時如何ニシテ全國民ヨリ選舉ノ委任ヲ受ケ又ハ全國民ノ選舉機關ニ充用セラレタリト爲スカ選舉法ハ



全國民ニ依リテ制定セラレタルモノニ非サルヲ以テ現時ニ於ケル國會ヲ國民ノ代表會ナリト言フ說ハ甚認容シ難シ然ルニ現時ノ國會ヲ稱シテ國民ノ代表會ナリト言フ者アリ又國會ヲ國民ノ代表會ナリト定メタル制度アリ

シユルツエ(普國國法論第一卷五六二頁)ノ說

國會ハ唯一個人ノ集合ヲ代表スルモノニ非スシテ國民全體ヲ代表スルモノナリ

同氏(獨逸國法論第一卷四五五頁)ノ說

同論

伊藤公爵憲法義解六〇頁五六頁七六頁)ノ說

帝國議會ハ衆庶ヲ代表ス故ニ討論ノ可否之ヲ衆目ノ前ニ公ニス又議會カ憲法及ヒ議院法ニ依リテ與ヘタル權ヲ適當ニ使用スルコトヲ愆ラサルトキハ以テ權力ノ偏重ヲ制シ立法行政ノ際調和平衡シテ善良ナル臣民ノ代議タルニ頁カサルナリ衆議院ノ議員ハ總テ皆全國ノ衆民ヲ代表スル者タリ

美濃部博士憲法講話一六二頁)ノ說

國會ハ全國民ノ代表者ナリ

織田博士(改訂法學通論一三二頁)ノ說

下院ハ皆代議院ノ制ニ依リ人民ヨリ選出シタル代表者ヲ以テ組織ス

吉野博士(中央公論第三二六號憲政ノ本義ヲ說イテ其有終ノ美ヲ濟スノ途ヲ論ス)ノ說

人民ハ全體トシテハ直接ニ政治ニ與ルノ煩ニ堪ヘサルヲ以テ其代表者ヲ公選シ其當選

シタル代議士ヲシテ自己ニ代リテ公事ニ盡サシムルニ在リ

佐々木博士(大正五年一月刊大阪朝日新聞所載立憲非立憲)ノ說

國民ノ作成シタル制限機關ノ作用ニ付テ國民ノ意思ノ參加ヲ認ムルコトカ立憲主義ノ

根本精神ナリ

佛蘭西一七九一年憲法第四二條

國會議員ハ全國民ノ名代人ナリ

同一七九三年憲法第二九條

各代議士ヲ全國民ノ總代ト見做ス

同一七九五年憲法第五二條

國會議員ハ全國民ノ名代人ナリ

同一八四八年憲法第三四條

國會議員ハ佛蘭西全國民ノ名代人ナリ

荷蘭憲法第七四條

國會ハ荷蘭國民ヲ代理ス

英吉利不成文憲法

下院ハ全國民ニ代リテ國務ヲ議スルモノナリ

獨逸帝國憲法第二九條

第五章 統治權ノ機關 第二節 機關ノ種類

帝國議會ノ議員ハ全國民ノ代表者ナリ

普魯西憲法第八三條

國會議員ハ全國民ノ代表者ナリ

奧地利憲法第二篇第一條

帝國議會ハ奧地利帝國ヲ代表ス

同憲法第二篇第七條以下

國會議員ヲ代議士ト稱ス

白耳義憲法第四七條

代議院ハ國民ノ直選シタル代人ヲ以テ組織ス

瑞典憲法第四九條

國會ハ瑞典全國民ノ名代タリ

西班牙憲法第四篇第二〇條以下

國會ヲ代議院ト稱シ其議員ヲ代議士ト稱ス

瑞西憲法第六九條——第七二條

國會議員ヲ代議士ト稱ス

葡萄牙憲法第二章第一四條以下

下院ヲ代議士院ト稱シ國會議員ヲ代議士ト稱ス

伊太利憲法第四一條

代議士ハ全國民ノ總代ナリ

北米合衆國憲法第一條

下院ヲ代表院ト稱ス

日本憲法ニハ國會ヲ代表會ナリト定メサルモ日本憲法第八條第五十五條第六十四條及第七十條ノ場合ニ在リテハ國會ハ政府作用ニ付キ承諾ヲ爲スコトヲ得ルモノトセリ承諾ハ表意ナルヲ以テ國會カ承諾ヲ爲シ得ルモノトセハ國會ヲ意思主體ト爲スモノナルヘシ國會ヲ以テ統治機關ナリトセハ統治者カ政府ナル自己ノ統治機關ヲシテ自己ノ統治機關タル國會ノ承諾ヲ求メシムルハ結局自己カ自己ノ承諾ヲ求ムルコトニナリテ理コ合ハサルカ故ニ其承諾ト言フハ國民ノ承諾ノコトナルカ如シ又衆議院議員選舉法ニ選舉ヲ權利ト爲シ憲法ノ起案者タル伊藤公(憲法義解)カ國會ヲ臣民ノ代議會ナリト言ヒ國會議員ヲ全國衆民ノ代表者ナリト言ヒタルニ因リテ見レハ日本憲法モ亦國會ヲ國民ノ代表會ト爲スルニ在ルモノノ如キ感ヲ爲セリ然レトモ是レ用語ノ不完全ナルカ爲ニシテ帝國議會カ天皇ノ統治機關タルコトハ憲法第五條第七條第三十三條乃至第三十五條及第四十五條ノ規定ニ依リテ明カ

ナルノミナラス貴族院及衆議院ハ天皇ノ命令タル組織法ニ依リテ組織セラ  
 ルルモノナルニ因リテ眞ニ明カナリ  
 余ハ前ニ論シタル如ク國會ヲ國民ノ代表會ト爲ス制度ヲ設クルコトハ毫モ  
 統治ノ本義ヲ害スルコトナケレトモ眞ニ全國民ヲ代表スル事實ヲ表現セサ  
 ルモノナルトキハ國會ヲ國民ノ代表會ナリト言フハ虚ナリ僅少國民ノ選舉  
 ニ當選シタル者ヲ以テ國會ヲ構成シタルトキハ其國會ハ其選舉ヲ爲シタル  
 僅少國民ノ代表會ナリ之ヲ以テ全國民ノ代表會タル國會ナリト言フハ妄ナ  
 リ學者如何ニ強辯スルモ妄ハ妄ナリ眞實化スルコトナシ法ヲ以テ之ヲ定ム  
 ルモ無ハ有タルコトナシ學者ノ強辯現時ノ制度ハ歴史ノ夢醒メサルモノナ  
 リ  
 假令國會ヲ以テ全國民ノ代表會ナリトスルモ將タ少數國民ノ代表會ナリト  
 スルモ凡テ代表者タル者ハ前ニ論シタル如ク人格者タラサルヘカラス然ル  
 ニ國會ヲ以テ機關ナリトセハ人格アルコトナキヲ以テ代表者タルコトヲ得  
 ス

代表ト人  
格

市村博士帝國憲法論四九五頁ノ說  
 代表關係ハ必スシモ二個ノ人格ヲ必要トセス

代表ハ代表者カ被代表者ニ代リテ被代表者ノ意思ヲ表示スル人格行爲ナル  
 カ故ニ代表者ニモ被代表者ニモ人格ナカルヘカラス人格ヲ有セサルトキハ  
 代表スルコトヲ得サルヲ以テ代表關係ヲ生スルコトナシ又國會ヲ以テ國民  
 ノ代表會トセハ被代表者タル國民ノ意思ヲ表示スルモノタラサルヘカラス  
 換言スレハ民意ヲ代表スルモノナルカ故ニ國民ノ意思ニ拘束セラレテ自由  
 意思ノ行動ヲ許ササルヘキモノナリ國會ノ解散理由ヲ以テ國會ノ議決又ハ  
 其議決セントスル所ノ趨向ハ民意ニ反スルカ爲ナリト説クハ國會カ國民ノ  
 代表會ナルヲ以テ自由意思ナキコトヲ明著ニスルモノト言ハサルヘカラス  
 歐羅巴ノ憲法ニハ國會議員ハ其自由意思ニ依リテ作用スヘク決シテ委託又  
 ハ訓命ヲ受クヘカラサルコトヲ明カニ規定シタルモノアリ

民意代表  
ト自由意  
思ノ矛盾

佛蘭西一七九一年憲法第四二條

選舉州民ハ國會議員ニ何等ノ委託ヲ爲スヘカラス

第五章 統治權ノ機關 第二節 機關ノ種類

同一七九五年憲法第五二條

國會議員ハ選舉州民ヨリ何等ノ委託ヲ受クヘカラス

同一八四八年憲法第三五條

同

普魯西憲法第八三條

國會議員ハ其自由意思ニ依リテ表決ヲ爲スヘシ委託又ハ訓令ニ依リテ拘束セララルコトナシ

獨逸帝國憲法第二九條

國會議員ハ委託又ハ訓令ニ依リテ拘束セララルコトナシ

伊太利憲法第四一條

下院代議士ノ選民ハ代議士ニ對シテ教令スルコトヲ禁ス

瑞西憲法第七九條

國會議員ハ訓諭委託ヲ受クルコトナク論議スヘシ

奧地利憲法第二篇第一六條

下院ノ代議士ハ其選舉民ヨリ委任訓令ヲ受クヘカラス

同憲法第二篇第一七條

凡ソ帝國議會ノ議員ハ自意ヲ以テ論議スヘシ

荷蘭憲法第八二條

下院議員ハ自ラ誓ヒ自ラ欲スル所ニ隨ヒテ論議シ委任ヲ受ケス及ヒ自ラ論議セントスル所ノ事項ヲ其選舉民ト協意セス

丁抹憲法第五六條

國會議員ハ選舉民ノ教令ニ從ハスシテ自己ノ意見ヲ述フルコトヲ要ス

諸國憲法ノ規定ニ依ルトキハ國會議員ハ其自由意思ニ依リテ作用スヘキモノナルカ故ニ國民ノ代表者ニ非ス從ヒテ國會ハ國民ノ代表會ニ非スト言ハサルヘカラス彼ノ國會ヲ以テ民意代表機關ナリトスル論者カ國會議員ハ其自由意思ニ依リテ作用スヘキモノナルコトヲ説論セルハ大矛盾ナリト謂フヘシ

リーケル(近代國會ノ法律上ノ性質五三頁)ノ説

國會ハ法律ノ擬制ニ依リテ作りタル全國民ナリ

グマイヤー(獨逸國法論第九六號)ノ説

國會ヲ以テ國民ノ代表者ナリトスルハ法理ニ反セリ

ホルンハツク(普國國法論第一卷三六〇頁以下)ノ説

國會ヲ以テ國民ノ代表者ナリト言フハ憲法ノ規定ニ於テ國會議員ハ全國民ノ代表者ト爲シタルカ爲ナリ從ヒテ法定代表者ナリト謂フヘシ

第五章 統治權ノ機關 第二節 機關ノ種類

ダイシ(英國憲法論三七頁以下)ノ説

國會ハ決シテ國民ノ代表者ニ非ス又決シテ選舉區ノ受託人ニモ非ス

デルブリユック(民選代議士ノ真相論中政治ト民意)ノ説

國會議員ヲ以テ國民ノ代表者ト爲シ民意ノ代表者ト爲スモ國會議員ハ選舉民ニ束縛セラルルコトナク其自由意思ニ依リテ作用スルモノナルカ故ニ民意統治ノ思想ハ全然没却シタルモノナリ

ライバンド(獨逸國法論第一卷二七〇頁)ノ説

國會ハ國家ノ機關ナリ人民ヲ代表スルモノニ非ス

ブラツクストーン(英國憲法註釋一五三頁以下)ノ説

國會ハ決シテ人民ノ代表者ニ非ス

穂積八束博士(憲法提要四二〇頁)ノ説

帝國議會ハ國民ノ代表ニ非ス

上杉博士(憲法綱領八五頁—九〇頁)ノ説

帝國議會ハ統治ノ官府ナリ人民ヲ代表スルモノニ非ス

清水博士(憲法篇二四四頁)ノ説

君主國ニテハ國民ハ一般ニ法律若クハ豫算ヲ議定スルノ權能ヲ有セサルニ拘ハラス此等ノ權限ハ議會ニ附與セラルルモノナリ故ニ若シ議會ハ國民ヲ代表スルモノナリト爲ストキハ被代表者ノ爲ス能ハサル所ノモノヲ代表者ハ爲スコトヲ得ルノ結果ヲ生ス

同博士(第一〇版憲法篇七四四頁)ノ説

議員ノ當選者ハ投票ノ多數ニヨリ決スルノミナラス國民全體カ投票權ヲ行フモノニアラサルニヨリ選舉ニ依テ議院ト國民全體トノ間ニ代理關係ヲ生スルモノト考フルヲ得サルナリ

副島博士(日本帝國憲法論二一〇頁)ノ説

帝國議會ハ國家機關ニシテ全人民ノ代表會ニ非ス又其議員ハ選舉區若クハ選舉人ノ代理人ニ非ス

市村博士(國家及國民論二四三頁)ノ説

政治論トシテハ議會ハ國民ノ代表ナリト言フモ法律論トシテハ代表關係ヲ有セサルナリ

同博士(帝國憲法論四九六頁)ノ説

議會ハ國民ヲ代表スルモノニ非ス憲法上ノ統治機關ナリ

多數決

國會ハ多數ノ議員ヲ以テ組織スルモノニシテ議員ハ各均等的組織分子タルカ故ニ國會ノ作用ハ均等的組織分子タル各議員ノ智能ノ活動ニ因リテ成ルモノナリ多數ノ智能ハ必スシモ一致スルモノニ非ス寧ロ二個以上ニ分立スルモノナリ吾人ノ思想ト雖モ同時ニ甲乙ノ二ニ分カレテ決斷ニ惑フコトア

リ多數ノ均等的組織分子タル議員ヨリ成ル國會ニ在リテハ各議員ノ智能ノ分立スルコトノアルハ當然ナリ國會タル機關作用ヲ決スルニハ全數一致ヲ得サルトキハ多數ニ依ルヲ至當トス蓋シ多數智能ハ少數智能ニ比シテ確實強固ナリト認メ得ルカ爲ナリ其多數決ヲ以テ機關作用ヲ定ムルニ付キ總員ノ過半数タルコトヲ要スルカ出席員ノ過半数タルコトヲ要スルカハ法制ニ依ルヘキコトナリ多數決ハ古代ノ民主國ニ行ハレ中世以後漸次發達シテ今日ノ制度トナリタルモノナリ

國會ハ統治者カ立法及豫算ヲ制定スルニ要スル統治機關ニシテ其機關作用ニ因リ天下ノ智ヲ知ルモノナルカ故ニ統治者ハ其機關カ不完全ニシテ天下ノ智ヲ知ルニ足ラスト思惟シタルトキハ之ヲ解散シテ新ニ機關ヲ改造シ得ルハ至當且ツ必要ナルコトナリ國會ノ解散ヲ以テ民意ニ訴フルモノト爲スハ國會ヲ以テ國民ノ代表者ト爲ス思想ノ遺骸タリ

清水博士第一〇版憲法第九九二頁ノ說

解散ノ目的ハ議會ノ行動不法若ハ不當ニシテ停會ヲ以テスルモ其反省ヲ期スヘキ見込

國會ノ解散理由

國會議員ノ責任

ナキ場合ニ於テ解散ヲ命ジテ議會ノ分子ヲ淘汰スルニ在リ

國會カ統治者ノ統治機關タル以上ハ國會議員ハ其構成分子タルヲ以テ議員トシテハ人格ヲ有スルモノニ非ス從ヒテ權利義務ノ主體タルコトナシ上君主ニ對シ又下國民ニ對シテ選良タル責任アリト言フカ如キハ統治機關タル本質上全ク無意義ノコトナリ

要スルニ國會ハ統治者ノ立法機關タルカ故ニ國民ノ代表會ニ非ス從ヒテ人格ヲ有スルコトナシ國會議員ハ立法機關ノ構成分子ナルヲ以テ人格ヲ有セス從ヒテ責任ヲ負フコトナシ國會ノ構成ハ或階級ニ在ル國民ノ選舉ニ待ツモノニシテ選舉ハ統治者ノ任命ニ代フル構成方法ナルカ故ニ統治者ノ命シタル義務ナリ法ヲ以テ國會ヲ國民ノ代表會ナリト爲スコトアリトセハ其ハ法ノ擬制ニシテ眞實ニ反スル誤想ナリ

司法即チ民事刑事ノ裁判ハ立法機關及行政機關ト相對シテ特設シタル司法機關即チ裁判所ニ依リテ作用表現スルモノナリ司法機關ヲ以テ立法機關及行政機關ト對立スルコトニ定メタルハ立憲政體ニ於ケル現在制度ナリ然レ

(二) 執政機關  
(一) 司法機關  
司法機關

トモ司法機關ヲ以テ立法機關及行政機關ニ對シ獨立機關ナリト言フハ其當  
ヲ得タルモノニ非ス司法機關カ立法機關及行政機關ヨリ制肘拘束ヲ受クル  
コトナキヲ以テ獨立機關ナリトセハ立法機關モ行政機關モ他機關ヨリ何等  
牽制ヲ受クルコトナキヲ以テ執レモ獨立機關ナリト言フヘク獨リ司法機關  
ノミヲ獨立機關ナリト言フノ要アルコトナシ凡ソ統治行爲ヲ三分シテ立法  
司法及行政ニ區轄スルトキハ其間各沒交渉ニシテ相互對立スルモノナリ其  
特ニ司法機關ヲ獨立機關ナリト稱呼セルモノハ專制政體ノ代ニ在リテハ行  
政ノ職ニ在ル高位權官カ裁判ヲ爲シタルモノニシテ其裁判ヲ爲スニ當リテ  
ハ自家ニ都合ノ好キ又ハ自家ニ關係アル貴族等ノ爲メニ勝訴ノ裁判ヲ爲シ  
タルモノニシテ平民ト貴族トノ訴訟ハ殆ント常ニ貴族ノ勝訴ニ歸シ請託苞  
苴盛ニ行ハレタリシカ平民ノ怨恨極點ニ達シテ擾亂續發シ遂ニ裁判ハ特設  
官ヲシテ之ヲ爲サシムルコトニナリテ漸次他官又ハ權門ノ干涉牽制外ニ脫  
離スルコトトナリタリ司法機關カ其干涉牽制外ニ脫離スルコトトナリタル  
コトヲ以テ司法機關ノ獨立ト言フニ在ルモノナランモ其干涉牽制ハ本來私

事ナリ統治問題即チ機關ノ作用論ニ非ス司法機關ヲ以テ統治者ニ對スル獨  
立機關ナリト言フニ在リトセハ司法機關ハ統治機關ニ非ストセサルヘカ  
ス司法機關ヲ以テ統治機關ナリトスル以上ハ司法機關ハ統治者ノ統治機  
ナルヲ以テ統治者ニ對シテ獨立スルモノニ非ス統治者ノ統治行爲タル司法  
カ司法機關ノ作用ニ因リテ表現スルモノナリ司法機關カ國王ニ對シテ獨立  
セルコトヲ説クニ在リトセハ其國王ナルモノハ統治者ニ非スシテ司法機關  
外ノ統治機關タル者ナルヘシ國王カ司法機關外ノ統治機關タルニ於テハ司  
法機關ハ固ヨリ其統治機關タル國王ト對立スルハ當然ノコトナリ此場合ニ  
在リテモ統治者ノ存在スルモノナルヲ以テ司法機關ハ統治者ノ從體ニシテ  
表現機關タル統治機關タリ君主カ統治者タル國ニ在リテハ司法機關ハ統治  
者タル君主ノ統治機關ナルヲ以テ君主ニ附從スルモノニシテ君主ト相對立  
スルモノニ非ス日本憲法ニ司法權ハ天皇ノ名ニ於テ法律ニ依リ裁判所之ヲ  
行フトアルハ裁判所タル司法機關ハ統治者タル天皇ノ統治機關ナルコトヲ  
示シ天皇カ司法機關タル統治機關ニ依リテ統治權ヲ行フモノナルコトヲ明

(ロ)行政  
機關

ニシ以テ司法權カ統治者ニ屬セサルコトヲ夢想セル迷者ニ教フルモノニシテ司法機關ノ獨立ヲ示シタルモノニ非ス

國家統治ノ立法及司法外ノ行動ヲ表現作用スル機關ヲ行政機關ト言フ其故ニ行政機關ハ立法及司法ヲ除キ法令ヲ發シ法令ヲ執行シ其統治ニ必要ナル一切ノ行爲ヲ表現スル機關ナリト謂フヘシ專制政體ニ在リテハ一機關ニシテ立法司法及行政ヲ兼表シタルコトアリ又兼表スルヲ例トスレトモ立憲政體ニ在リテハ行政機關ハ必ス立法機關及司法機關ト特設對立スルモノトセリ行政機關カ立法機關ノ監督ヲ受クルモノト説クハ機關ノ本質ニ反ス

國務奉行ノ行政機關ハ之ヲ稱シテ政府(Regierung, Government)ト言フ政府ハ主動機關及幾多ノ補充機關ヨリ成ルモ單ニ政府ト言フトキハ其完成セル全機關ノ首腦即チ主動機關ヲ指稱スルモノナリ

主動機關  
補充機關  
政府

穂積八束博士(憲法提要五二六頁)ノ説

立憲政體ニ在リテハ政府ノ語其意義稍狹ク主トシテ大權輔翼ノ憲法上ノ機關ニ對シテ之ヲ用ヒルノ例ヲ爲セリ

美濃部博士(大陽第一九卷第六號憲政研究會講演近時ノ政界ニ於ケル憲法問題)ノ説

政府トハ政治ノ府ト云フ意味ナルヲ以テ治者即チ統治者ト云フト同シキコトナリ

市村博士(國家及國民論二四三頁)ノ説

政府トハ國家ノ行政ヲ統轄スル機關ノ名ナリ

政府ノ構  
成

政府ノ意義ハ人人其説ヲ一ニセスト雖モ首腦タル行政機關ヲ指稱シテ之ヲ政府ト言フニ於テ誤アルコトナシ其政府ヲ組成スル所ノ首腦タル行政機關ハ何ヲ以テ之ヲ構成スルヤ或ハ君主ヲ以テ政府ト爲シ或ハ國務大臣樞密顧問ヲ以テ政府ト爲シ又或ハ內閣ヲ以テ政府ト爲ス者アリ

ブルンチユリ(國家論第四卷第二章)ノ説

國家ノ首長ハ國家ノ最高機關ナリ國家ノ首長カ帝王ナレハ之ヲ君主ト稱ス

グナイスト(英國行政法一五四頁)ノ説

國王ハ國家意思ヲ執行スル所ノ一切ノ機關ニ首長タルモノナリ

グマイヤー(獨逸國法論第一二一號)ノ説

皇帝ハ帝國ノ主權者ニ非ス帝國ノ國權ニ對シテ無形上ノ參與權ヲ有スル特權アル一員ニ過キサル最高機關タリ



穂積八東博士憲法提要五三〇頁ノ説

政府ノ憲法上ノ組織ハ國務大臣及樞密顧問ヲ以テ成ル

美濃部博士太陽第一九卷第六號憲政研究會講演近時ノ政界ニ於ケル憲法問題ノ説

憲法及議院法ニ政府トハ天皇ノコトナリ

上杉博士帝國憲法綱領一〇七頁一〇八頁ノ説

憲法ノ政府ト云フハ國務大臣及行政各部ノ長官ヲ包括スル名稱ナリ

清水博士(憲法篇五四六頁)ノ説

我憲法ニ政府ト云ヘルハ勅命ヲ奉シテ天皇ノ大權作用ヲ執行スル國務大臣ヲ指スモノナリ

同博士第一〇版憲法篇一〇九一頁ノ説

政府トハ勅命ヲ奉シテ天皇ノ大權作用ヲ執行スル國務大臣ヲ指スニ外ナラサルナリ

副島博士日本帝國憲法論二八四頁ノ説

國務大臣ハ之ヲ稱シテ政府ト云フコトアリ即チ我憲法上所謂政府ト云フハ天皇ノ下ニ

於テ帝國議會ニ對シ種々ノ交渉作用ヲ爲ス機關ヲ指稱ス

市村博士帝國憲法論五九一頁五九三頁ノ説

政府ハ行政ノ略字ナリ政府トハ行政權ヲ總轄スル國家機關ヲ指ス別名ナリ行政權ノ

首長ハ第一次ニ於テハ天皇ナリ各省大臣ハ其主任ノ事務ニ付キ自己ノ責任ヲ以テ行政

權ヲ行フ此場合ニ行政權全體トシテ觀レハ各省大臣ハ内閣ヲ組織スルカ故ニ第二次ニ

於テハ内閣ヲ政府ト謂フ

(1) 君主機關

君主ト稱スル者ヲ以テ凡テ國家統治ノ機關ナリトスルハ其當ヲ得タルモノニ非ス余ハ既ニ論シタル如ク本來君主ト言フハ統治者ト言フ意義ニシテ君主タル者ハ統治權ノ主體タルモノト爲ス者ナリ然レトモ統治權ノ主體タル者ハ事實上統治權ナル力ヲ具有スル實體即チ統治權ナル力ヲ現有スル本源タル實體タラサルヘカラス其統治權ヲ現有スル實體ハ統治權ノ主體ニシテ眞ノ君主タリ眞ノ君主ハ統治權ノ主體ナルヲ以テ自己ニ附從スル各種ノ機關ニ依リテ統治權ヲ行使スルモノニシテ統治機關タルコトナシ之ニ反シテ其名ハ帝王タルモ其實ハ統治權ヲ現有セサル空體タル者ハ統治權ノ主體ニ非サルヲ以テ君主タルコトナシ君主タラサル者即チ統治權ノ主體タラサル帝王カ統治作用ノ地位ニ在ルトキハ其帝王ハ國家統治ノ機關タルモノニシテ立法作用ヲ爲スモノナルトキハ立法機關タリ司法作用ヲ爲スモノナルトキハ司法機關タリ又行政作用ヲ爲スモノナルトキハ行政機關タルナリ現代

各國ノ實情ヲ案スルニ日本及獨逸等ノ皇帝ヲ除ク外ノ帝王ハ統治權ヲ現有セサル空體ニシテ統治權ノ表現作用ノ地位ニ在ル行政機關タルモノナルカ如シ其故ニ等シク帝王ト稱シ君主ト稱スルモ統治者タル者アリ統治機關タルモノアルヲ以テ差別スルコトナクシテ君主ハ國家ノ統治機關ナリト論スルハ思ハサルノ甚シキモノト謂フヘキナリ余ハ此見地ニ依リテ行政機關タル君主ハ行政機關ノ首腦タルモノナルヲ以テ斯ノ如キ國柄ニ在リテハ其君主ヲ以テ政府ト稱スヘキモノナリト思考スルナリ日本及獨逸等ノ皇帝ハ統治權ヲ現有スル所ノ本源タル實體ナルカ故ニ統治者ニシテ統治機關タルモノニ非サルヲ以テ政府ト稱スルコトヲ得サルナリ君主ヲ以テ統治權ノ總攬機關ナリトセハ君主ハ政府タルヘシ余ハ君主ヲ以テ統治權ヲ實有スル所ノ本體ナリト信スルカ故ニ君主機關説ヲ排斥スル者ナリ

クナイスト(英國行政法論一五四頁)ノ説

國王ハ國家意思ヲ執行スル所ノ一切ノ機關ニ首長タルモノナリ

グマイヤー(獨逸國法論第一二一號)ノ説

皇帝ハ帝國ノ主權者ニ非ス帝國ノ國權ニ對シテ無形上ノ參與權ヲ有スル特權アル一員ニ過キサル最高機關ナリ

ブルンチユリ(國家論第四卷第二章)ノ説

君主ハ國家ノ最高機關ナリ

エリネツク(公權論第一章第一〇節)ノ説

君主ハ國家ノ最高機關ナリ

同氏(法律命令論三七三頁)ノ説

憲法カ國家ノ機關ノ權限ヲ定ムルトキハ憲法ハ唯其機關ノ憲法上ノ權利アルコトヲ認ムルノミナリ假令國王ノ權利カ昔時ヨリ由來スルモ憲法ハ立憲國ノ國王ノ外ニ憲法制定前ノ國王ヲ認ムルコトナシ

一木博士(法令豫算論一〇頁)ノ説

君主ハ獨行政ノ中樞タルノミナラス亦立法機關ノ首長タルモノナリ君主ハ國家ノ機關ナリ

美濃部博士(日本國法學一一七頁)ノ説

我國ニ於テハ君主ハ國家ノ最高機關ナリ共和國ニ於テハ國民ハ國家ノ最高機關ナリ

同博士(憲法講話六五頁)ノ説

天皇ハ君主ニシテ日本帝國ノ最高機關ナリ

同博士(太陽第一九卷第六號憲政研究會講演近時ノ政界ニ於ケル憲法問題)ノ説

第五章 統治權ノ機關 第二節 機關ノ種類

統治權論

憲法及議院法ニ政府ト言フハ天皇ノコトナリ  
清水博士(第一〇版憲法篇二八五頁)ノ説

國家ノ統治權ハ即チ天皇ノ統治權ナリ天皇ハ國家首腦ニシテ統治權ノ主體トシテハ國家其モノナリ

副島博士(日本帝國憲法論一四九頁一五八頁)ノ説  
天皇ハ國家ノ最高機關ナリ

織田博士(太陽第一九卷第八號國體ト民政)ノ説  
天皇ハ統治權ノ總攬機關ナリ

同博士(改訂法學通論二〇九)ノ説

我國ノ統治者タル至尊ヲ天皇トシ……其國家ノ元首トシテ統治權ヲ總攬スルハ即チ其國家ノ最高機關タル所以ナリ

市村博士(行政法原理四頁—八頁)ノ説

統治權ノ總攬者ヲ以テ國家ノ機關ナリトス天皇ハ統治權ノ總攬者ナリ  
同博士(帝國憲法論二八一頁)ノ説

天皇ハ統治權ヲ總攬スル國家最高ノ機關ナリ

機關タル君主ノ固有權説

君主機關説ニ就テ疑問ノ解スル能ハサルモノアリ君主ハ國家ノ最高機關ニシテ獨立固有ノ權利ニ因リ其地位ニ在リト言ヘルコト是レナリ機關ハ人格

ヲ有スルモノニ非サルヲ以テ權利ノ主體タルコトヲ得サルハ既説ノ如シ然ルニ君主タル機關カ權利ヲ有スト言フハ甚タ會得シ難キ事ナリ爾カモ君主タル機關ハ何人ヨリモ委任ヲ受ケス固有權ヲ有スト言フニ至リテハ益迷疑ノ念ニ堪ヘサルナリ統治權ナルモノハ統治者カ國家ヲ組織スルト同時ニ其統治スル力カ統治ノ性質上當然統治權ナル權利トナリ他ノ權利ハ統治者ノ認與ニ因リテ生スルモノニシテ其他ニハ權利ノ發生原由アルコトナシ然ルニ機關タル君主カ固有權ヲ有スト言ヘリ機關タル君主ハ如何ニシテ其權利ヲ固有スルモノナリヤ法學ヲ以テ解シ得サル難問ナリ或ハ言ハン機關タル君主カ其權利ヲ固有スルニ非スシテ君主タルヘキ人カ其固有權ニ基キテ君主ノ地位ニ即キ又ハ權限ヲ有スルモノナリト其ニシテモ其君主タルヘキ人カ如何ニシテ君主ノ地位ニ即ク權利ヲ固有シタルカ其固有原因ノ説明ヲ望マサルヲ得ス

ベルナチツク(共和國體)ト君主國體論(二九頁)ノ説

君主國ニ於テハ國家ノ最高機關カ其機關タル地位ニ對シテハ自己ノ權利ヲ有ス

コーラー(法學通論一〇九頁)ノ説

同論

トウイチケ(政治學第二卷八頁)ノ説

同論

美濃部博士(憲法講話六六頁)ノ説

君主ハ何人ノ委任ニ依ルニ非ス固有權ニ基キ當然皇位ニ即クモノナリ

市村博士(國家及國民論一一五頁)ノ説

統治權ノ總攬者タル最高機關ハ何人ヨリモ委任セラレヌ又承諾セス自己固有ノ權トシテ統治權ヲ行ヒ得ル地位ニ在ル者ヲ言フ

同博士(帝國憲法論二八三頁)ノ説

統治權ノ總攬者ハ其國家機關タル地位ヲ固有ス其權限ハ彼カ他ノ國家機關ノ何レヨリモ繼承シタルモノニアラスシテ自己固有ノ權トシテ有スルモノナリ

グマイヤー(獨逸國法論第八三號第八四號)ノ説

君主ハ憲法ニ依リテ直接ニ其地位ニ即ク權利ヲ有スルモノナリ

機關君主  
ト官吏

機關タル君主カ君主權ヲ固有スト言フコトヲ以テ憲法ニ依リテ有スト言フニ在リトセハ決シテ固有ニ非ス他ニ統治者アリテ統治者カ豫メ憲法ヲ以テ特定ノ人ヲ機關タル君主ニ任命スルコトヲ定メ其特定セラレタル者カ其規

定ニ基キテ機關タル君主ノ地位ニ即クモノニ過キス其特定セラレタル者カ機關タル君主ノ地位ニ即クハ果シテ權利ノ行使ナリヤ斯ル君主ノ地位ニ即ク人モ官吏トナル人モ共ニ機關ヲ構成スルモノニシテ單ニ有格者タルニ外ナラス資格ハ權利ニ非サルコト前ニ論シタル所ノ如シ統治者カ特定ノ有格者ヲ君主タル機關ニ用フルモ或有格者ヲ國務大臣其他ノ機關ニ用フルモ共ニ統治者カ機關ヲ構造スルモノニシテ其登用ハ任命ナリ被登用者ニ權利アリテ之ヲ行使スルモノニ非ス法定ノ資格ヲ具備スル爲メ任命セラレタルモノナリ等シク機關ヲ構造スルニ付キ君主タルト官吏タルトニ因リテ其本質ヲ變スルノ理アルコトナシ機關タル君主ハ官吏ノ一ナリ官吏ノ登用カ權利ノ行使ニ非ストセハ等シク官吏タル君主ノ登用モ亦權利ノ行使ニ非スト論セサルヘカラス

右ニ論述シタル如ク統治者タル君主ノ政府タルモノニ非サルコトハ論ヲ待タサル所ナレトモ名ハ帝王君主タルモ其實ハ統治權ノ主體ニ非スシテ統治權ノ表現作用ノ地位ニ在ル者ハ統治機關タリ其統治機關トシテ行政機關ノ

(2) 國務大臣

地位ニ在ルトキハ之ヲ政府ト言フヲ以テ至當ナリトス  
 國務大臣ハ統治者ヲ輔弼スル所ノ統治機關ナリ輔弼ハ獻策奉行ノ作用ヲ爲  
 シ獻策ハ國務全般ニ及ヒ奉行ハ奉行行政ノ總般ニ及フ其故ニ國務大臣ハ獻  
 策ニ就テハ國務全般ノ機關ニシテ奉行ニ就テハ其奉行行政ノ機關タルモノ  
 ナリ其行政機關ニ於テハ其首腦タリ其故ニ國務大臣ハ政府ナリ然レトモ國  
 務大臣ヲ以テ行政機關ノ首腦トシ政府ト爲スニハ其上ニ機關タル君主ノ存  
 在セサルコトヲ要ス機關タル君主ノ存在スル場合ニハ行政機關ノ首腦タリ  
 政府タルモノハ其機關タル君主ニシテ國務大臣ハ其補充機關ニ過キサレナ  
 リ日本ニ於テハ天皇ハ統治者ニシテ機關ニ非サルカ故ニ國務大臣ハ輔弼機  
 關ニシテ其奉行スル行政機關ノ首腦タルカ故ニ政府タルモノナリ

國務大臣ノ責任

國務大臣ハ統治機關ナルヲ以テ固ヨリ人格ヲ有スルコトナシ從ヒテ權利義  
 務ノ主體タルモノニ非サルコトハ既ニ説論シタル所ナリ抑モ責任ナルモノ  
 ハ義務違反ノ爲ニ生スル義務 (Verantwortlichkeit, Responsibility) ナルカ故ニ義  
 務主體ニ非サレハ生スルコトノ絶無ナルモノナリ各國憲法ニ於テ國務大臣

ノ責任ヲ論スル所以ノモノハ各國憲法カ國務大臣ヲ統治機關ト認メス又機  
 關ナルモノノ本質ヲ辨セサル時代ノ思想ニ因リテ規定シタルモノナルカ故  
 ニ深ク咎ムルノ要ナキモ機關ノ本質ヲ辨シ國務大臣ハ統治機關ニシテ人格  
 ヲ有セス從ヒテ權利義務ノ主體ニ非サルコトヲ知得セル者ニシテ平氣ニ國  
 務大臣ノ責任論ヲ爲スハ余ノ甚タ怪疑ニ堪ヘサル所ナリ憲法ニ國務大臣ノ  
 責任ニ關スル規定ヲ存スルモ國務大臣ヲ機關ト爲ス以上ハ其責任ハ國務大  
 臣ノ責任ニ非スシテ國務大臣ヲ組成スル人ノ責任ト釋讀セサルヘカラス若  
 シ假ニ國務大臣ニ責任アリトスルモ國務大臣ノ任免權ヲ有スル者ハ自由ニ  
 免黜スルコトヲ得ルモノナルカ故ニ國務大臣ノ引責ヲ待ツノ要アルコトナ  
 シ全然無用ノ規定ナリ然レトモ國務大臣ハ其過誤ノ責任ヲ明ニスルニ非サ  
 レハ免黜スルコトヲ得ス其責任ヲ明ニスルニハ國會又ハ裁判所ノ裁判ヲ要  
 スト爲スニ於テハ聊カ其規定ノ存置ヲ要スルカ如シト雖モ其場合ニ在リテ  
 ハ國務大臣ヲ裁判スルニ非スシテ國務大臣ヲ組成スル人ヲ裁判スルモノナ  
 ルカ故ニ國務大臣其者ノ責任ヲ論スルハ眞ニ明カナル誤ナリト謂フヘシ

佛蘭西一七九九年憲法第七二條

諸卿ハ法律ヲ執行セス其他國務ヲ怠リタルトキハ其責ニ任ス

同一八一四年憲法第一三條第三九條

諸卿ハ政治上責任ヲ負ヒ己ノ加印シタル政府ノ決定及ヒ法律ノ施行ニ付キ其責ニ任ス

同一八三〇年憲法第一二條

卿ハ政治上ノ責ニ任ス

同一八七五年憲法國權組織ノ章第六條

國務卿ハ國會ニ對シテ政府ノ一般政務ニ關シ連帶責任ヲ負ヒ又各自ノ行爲ニ關シ單獨

ニ責任ヲ負フ

奧地利憲法第四篇第九條

執政ハ各其主管スル國務ニ付キ憲法及法律ヲ任ケサル責任ヲ負フ

白耳義憲法第六四條

執政ハ副署ニ因リテ其責ニ任ス

葡萄牙憲法第一〇五條

執政ハ王命アリト雖モ其責任ヲ免カルルコトヲ得ス

普魯西憲法第四四條

大臣ハ副署ニ因リテ其責ニ任ス

英吉利不成文憲法

宰相ハ此法律ニ依リ皇帝ヲ輔佐スヘキ責任ヲ負フ

羅馬帝國憲法第一七條

宰相ハ副署ニ因リテ其責ニ任ス

伊太利憲法第六七條

執政ハ職務上ノ責任ヲ負フ

丁抹憲法第一二條

宰相ハ責任ヲ負フ

荷蘭憲法第五三條

執政ハ獨リ責ニ任ス

西班牙憲法第四二條

執政ハ責ニ任ス

日本憲法第五五條

國務各大臣ハ天皇ヲ輔弼シ其責ニ任ス

責任原因

國務大臣ヲ以テ責任ノ主體ナリトスル憲法ノ規定及學說ヲ假ニ是定スルト  
セハ其責任ノ根由ハ何ナリヤ國務大臣ノ責任原因ニ付テハ諸種ノ學說ヲ存  
シ既ニ其論評モ盡キタルモノナルヲ以テ茲ニ其論評ヲ爲スノ勞ヲ省キ直ニ  
余ノ見ル所ヲ述フヘシ余ハ國務大臣ノ責任ノ根由ハ其國ノ憲法ニ依リテ之

ヲ定メ憲法ニ其根由ヲ規定セサルトキハ國務大臣ノ本質ニ基キテ其過誤ヲ責任ノ根由ト爲スヘキモノナリト信ス大日本帝國憲法ハ國務大臣ノ責任ノ根由ヲ輔弼不完實ニ置キタリ

モンテスキュー(萬法精理第一一章第六節)ノ說

國王ハ決シテ不法行爲ヲ爲スモノニ非ス大臣ノ輔弼宜シキヲ得サリシ爲ニ不法行爲ヲ爲スニ至リタルモノナリトノ推測ノ下ニ大臣ハ責任ヲ負フモノナリ

コンスタン(一八三六年論文立憲政治論)ノ說

國權ヲ分チテ立法權司法權及行政權ノ三トシ君主ハ其三權ノ調節權ヲ有スルモ行政權ヲ有セサルカ故ニ其責ニ任セス大臣ハ行政權ヲ掌握シテ之ヲ施行スルモノナルカ故ニ其責ニ任スルモノナリ

ビショウフ(大臣責任及國家裁判論六四九頁)ノ說

國王ハ不法ヲ爲シ能ハサルニ非サレトモ神聖不可侵ナルヲ以テ大臣ハ國王ニ代リテ責任ヲ負フモノナリ

スタイン(行政法論第一卷第一部三四九頁)ノ說

大臣ハ其行爲カ現行法ニ違背シタルカ爲ニ其責ニ任スルモノナリ

ザイデル(巴國國法論第一卷五〇九頁以下)ノ說

凡ソ大臣カ國家行爲ニ付キ責任ヲ負フ所以ノモノハ其行爲カ大臣ノ所爲又ハ大臣ノ同

意ニ因リテ表示シタルカ爲ナリ

グマイヤ(獨逸國法論第一八四號)ノ說

大臣ハ法律上自己ノ行爲及其副署シタル君主ノ命令カ法律ノ制限ヲ脱出シタルカ爲ニ其責ニ任スルモノナリ

ツエブル(國法原論第二卷四一九頁以下)ノ說

君主ハ決シテ不法行爲ヲ爲スコトヲ欲スルモノニ非ス若シ不法行爲ヲ生シタルトキハ大臣ノ輔弼ノ宜シキヲ得サリシ爲ナルヲ以テ大臣ハ其責ニ任スルモノナリ

伊藤公費(憲法義解八二頁)ノ說

國務大臣ハ輔弼ノ任ニ居リ入テ内閣ニ參贊シ出テ各部ノ事務ニ當リ大政ノ責ニ任ス

穂積八東博士(憲法提要五三七頁)ノ說

國務大臣ハ入テ内閣ニ參贊シ出テ政務ノ局ニ當リ大政ノ施行ニ付キ輔弼ノ責ニ任ス美濃部博士(憲法講話一三五頁)ノ說

大臣責任ノ理由トスル所ハ極メテ單純ニシテ唯國務大臣ハ君主ヲ輔弼スルモノナルカ故ニ其輔弼シタルコトニ付キ責ニ任スルモノナリ

上杉博士(帝國憲法述義四〇八頁四一〇頁)ノ說

國務大臣ハ天皇ニ直接シテ輔弼ノ職務ヲ行ヒ其責ニ任スルモノナリ  
清水博士(憲法篇三〇九頁)ノ說

國務大臣ハ輔弼ノ過誤ニ付キ其責ニ任スルナリ

同博士第一〇版憲法篇六九七頁ノ説

國務大臣ハ君主ヲ輔弼スルノ大任ヲ有スルモノニシテ輔弼トハ君主ニ對シ意見ヲ奉リ之ヲ採納ヲ乞フコトナルニヨリ大臣ハ意見ヲ奉ルヘクシテ進言セヌ又意見ヲ奉ルモ宜シキヲ得サルトキハ之ニ對シテ責ヲ負フモノナリ換言スレハ大臣ハ輔弼上ノ過失ニ對シテ其責ニ任スルモノナリ

織田博士改訂法學通論二二三頁ノ説

我國法上ノ解釋トシテハ大臣責任ハ其憲法上ノ職務違反ヨリ生スル制裁ナリト謂フヲ以テ足ル

市村博士國家及國民論二七〇頁ノ説

國務大臣ハ輔弼行爲ニ付テ責任ヲ負フモノナリ

同博士帝國憲法論六三一頁ノ説

國務大臣ハ其輔弼セル天皇ノ行爲ノ適法ニ付キテ責任ヲ負擔ス

副島博士日本帝國憲法論三〇三頁ノ説

君主ノ國家行爲ハ無責任ノ國家元首ノ所作タルト同時ニ又法律上責任ヲ有スル大臣ノ同意シタルモノナリ斯ク君主ノ國家行爲ハ凡テ同時ニ大臣ノ同意シタルモノナルカ故ニ大臣ノ同意シタルコトニ付キ責任ヲ負フコトニナルナリ

輔弼

輔弼 (Unterstützung, Assistance) トハ君主ノ政治行爲ニ萬一ノ過誤ナク適當最善

ノ統治ヲ爲シテ國家建存ノ目的ヲ完成スル機關作用ニシテ獻策奉行ヲ分ツコトナシ輔弼ニ關スル諸説百出スト雖モ輔弼ハ統治ヲ完成スル機關作用タルモノナラサルヘカラス輔弼ハ統治ヲ完成スルニ在ルヲ以テ統治ヲ完成スルニ必要ナル總テノ作用ヲ完實セサルヘカラス統治ヲ完成スルニ必要ナル作用ハ或ハ作意ノ輔成即チ良策ヲ進獻シテ統治ノ決意ヲ願ヒ奉リ或ハ表意ノ弼助即チ適當最善ナル統治ノ機關作用タル奉行ヲ爲ヌニ在リ輔弼ヲ以テ單ニ獻策ニ止マルモノトスルハ狹キニ失シテ輔弼ノ實ヲ完成シ得サルナリ

伊藤公博(憲法義解八六頁)ノ説

大臣ハ憲法ニ依リ輔弼ノ重局ニ當リ行政上ノ強大ナル權柄ヲ掌有シ獨奏順贊ノ職ニ在ルノミナラス又匡救矯正ノ任ニ居ルモノナリ

穗積八束博士憲法提要五四〇頁ノ説

輔弼ハ大權ノ行使ニ付意見ヲ奉リ探擇ヲ乞フノ義ニ外ナラス

上杉博士憲法述義四〇八頁ノ説

輔弼トハ意見ヲ上リテ天皇ノ聰明ヲ啓キ奉ルコトヲ言フナリ

同博士(法學新報第二六卷第一號輔弼任責ノ範圍)ノ説

輔弼トハ天皇ノ顧問タルコトナリ

第五章 統治權ノ機關 第二節 機關ノ種類



清水博士(憲法篇二八八頁)ノ説

輔弼トハ天皇ノ大權作用ヲ行フニ當リ之ニ意見ヲ奉リ若クハ天皇ノ命ヲ奉シテ其大權作用ヲ執行スルコトヲ稱スルナリ

同博士(第一〇版憲法篇六四六頁)ノ説

輔弼トハ天皇大權ノ行使ニ付キ意見ヲ奉リ其採擇ヲ乞フノ意ナリ

副島博士(日本帝國憲法論二八二頁)ノ説

輔弼トハ贊襄矯正ノ義ナリ即チ適法ヲ贊襄シ不法ヲ矯正スルニ在リ

市村博士(帝國憲法論六〇三頁)ノ説

輔弼トハ天皇ノ大權行使ヲシテ違法タラシメス又最モ善ク國家ノ目的ヲ達スヘキ施政ニ出テシムルヲ謂フ

斯ノ如ク輔弼ハ統治者ヲシテ適當最善ノ統治ヲ爲サシムル爲メ機關作用ナルヲ以テ統治者ノ統治ニ過誤アルトキハ輔弼ノ不完實ナルカ爲ナリト言ハサルヘカラス其故ニ輔弼大臣ハ如何ナル場合ニ在リテモ統治ニ過誤アルトキハ輔弼不完實ノ責ニ任セサルヘカラサルモノナリ統治ハ國家ヲ維持スル總テノ行爲ナルカ故ニ統治機關ヲ組織スル行爲モ亦統治行爲ナリ統治機關ノ組織行爲カ統治行爲ナルヲ以テ國務大臣ハ其行爲ヲ輔弼セサルヘカラス

機關ノ不健全又ハ機關構成分子タル個人ニ犯罪者ヲ出スコトノアルハ統治ノ過誤ニシテ輔弼不完實ノ故ナルヲ以テ輔弼大臣ハ其責ニ任セサルヘカラス特ニ斯ル人物ノ任用ヲ奏請シタル者ノ責任ハ甚大ナリト謂フヘシ

市村博士(帝國憲法論六二〇頁)ノ説

國務大臣カ責任ヲ負擔スルハ君主ノ大權行爲ノ外ニ出テス其故ニ國務大臣カ議員ヲ買収シタル事實暴露シ責任ヲ負ヒテ其職ヲ退クカ如キハ憲法第五十五條ニ所謂大臣ノ責任ノ中ニ入ラス何トナレハ犯罪ハ大臣某ノ行爲ニシテ天皇ヲ輔弼スル行爲トハ全ク無關係ナレハナリ

輔弼ハ專制政體ト立憲政體トニ依リテ其作用ニ差異アリ專制政體ニ於ケル輔弼ハ單ニ統治ノ目的ヲ完成スル作用ナレトモ立憲政體ニ於ケル輔弼ハ統治ノ目的ヲ完成スルノミナラス立憲ノ本領ヲ發揚スル所ノ作用ナリ專制政體ニ於ケルト立憲政體ニ於ケルトヲ問ハス國務大臣カ輔弼作用ヲ完行スル爲ニハ其最善ナル方法ニ因リテ之ヲ爲ササルヘカラス或ハ統治ニ必要ナル良策ヲ進メ或ハ忠諫シテ統治ノ本旨ニ悖ル所ノ行爲ヲ止ムルニ在ルナリ

穂積八東博士(憲法提要五四〇頁)ノ説

第五章 統治權ノ機關 第二節 機關ノ種類

君主ノ諮詢ニ應ヘ及ヒ進ンテ政策ヲ獻替シ其重任ヲ盡クスニ於テ忠誠ヲ缺クコトナケ  
レハ輔弼ノ事茲ニ終ル之ヨリ以上ハ大權自由ノ專斷ニ在リ大臣ハ私見ヲ主持シテ君命  
ヲ阻絶スルノ權ナシ

國務大臣カ君命ヲ阻絶スルノ權ナキハ固ヨリ論ヲ待タサル所ナレトモ輔弼  
ハ統治ニ萬一ノ過誤ナク統治ノ目的ヲ完成スル作用ナルヲ以テ一通リノ忠  
誠ヲ盡クシタルトキハ君主カ統治ノ本旨ニ悖ル行爲ヲ爲スコトアルモ其ハ  
君主ノ自由ニシテ國務大臣ノ知ル所ニ非スト言フハ非ナリ君主カ統治ノ本  
旨ニ悖ル行爲ヲ爲スコトノアルハ輔弼作用ノ不完實ナルカ爲ナリ未タ輔弼  
作用ヲ完行シタルモノト言フヘカラス瑞典憲法ニ國務大臣ハ飽クマテ國王  
ニ諫争シテ違憲不法ノ行爲ヲ遂行スルコトヲ阻止スヘシト規定シタルハ正  
シク輔弼ノ本義ヲ示シタルモノナリ

瑞典憲法第九條

萬一國王ノ決定スル所カ憲法ニ違ヒ法令ニ反スルトキハ内閣大臣切ニ之ヲ諫争シテ其  
事ノ施行セラレサルコトヲ要ス

輔弼ノ範

國務大臣ハ國務全體ノ輔弼機關ナリ軍務ヲ國務ニ非スト爲シ授爵ヲ國務大

臣ノ輔弼外ナリト言フカ如キハ未タ國務ヲ解セサル者ノ言ナリ

國務大臣ノ輔弼範圍ハ憲法ヲ以テ之ヲ定ムヘキモノナルカ故ニ各國必スシ  
モ一定スルモノニ非ス日本憲法ニハ國務各大臣ハ天皇ヲ輔弼スト規定シテ  
何等ノ制限除外ナキヲ以テ國務大臣ノ輔弼範圍ハ國務ノ全體タリ皇室典範  
ハ憲法ト牴觸スルコトヲ得ス又牴觸スル所ノ解釋ヲ許サス官制其他ノ法規  
ハ憲法ノ運用法規ナルヲ以テ憲法ノ規定ヲ廣狹スル所ノ効力ヲ有スルモノ  
ニ非ス尤モ輔弼ハ獻策ト奉行トノ二ニシテ獻策ハ國務全般ニ及ヒ奉行ハ奉  
行政ノ總般ニ及フ國務大臣ノ輔弼範圍カ國務ノ全體ナリト言フハ獻策ノ  
コトナリ奉行大臣ノ奉行ノ過誤ハ統治行爲ノ過誤トナリ統治行爲ノ過誤ハ  
統治者ノ統治權ノ行使ノ宜シキヲ得サルモノニシテ其統治權ノ行使ノ宜シ  
キヲ得サリシハ奉行ノ過誤ニ基クハ勿論獻策ノ良シキヲ得サルカ爲ナルヲ  
以テ奉行大臣ノ奉行輔弼ノ過誤タルハ言ヲ待タス獻策大臣ノ獻策輔弼ノ過  
誤タルモノナリ若シ輔弼ノ責任ヲ以テ獨奉行ノ過誤ニ因リテ生スルモノニ  
シテ獻策ノ過誤ニ因リテ生スルモノニ非ストセハ奉行任務ヲ有セサル國務

大臣ハ總理大臣タルト否トヲ問ハス悉ク無責任タルモノニシテ日本憲法第五十五條ノ國務各大臣ハ天皇ヲ輔弼シ其責ニ任ストアル規定ノ其幾分ハ空文タルニ終ルヘシ

穂積八束博士(憲法提要五三七頁五三九頁)ノ說

大權ノ行使ハ必ス政府ニ依ル國務大臣ハ入テ内閣ニ委贖シ出テ政務ノ局ニ當リ大政ノ施行ニ付輔弼ノ責ニ任スル者ナリ輔弼ノ大臣ハ君命ノ内外ニ貫流スル唯一ノ溝渠タラシム

美濃部博士(憲法講話一二九頁)ノ說

天皇カ統治ノ大權ヲ行フニハ常ニ國務大臣ノ輔弼ニ依ルモノナリ立憲國ニ於テハ天皇ノ國務上ノ行爲ハ必ス大臣ノ輔弼ニ依ラサレハ法律上ノ効力ヲ生スルモノニ非ス

同博士(太陽第一九卷第六號憲政研究會講演近時ノ政界ニ於ケル憲法問題)ノ說

天皇ノ大權ハ國ノ統治權ノ全部ニ亘リ大權ニ屬スル事項ハ國務上ノ總事項ナリ國務大臣ノ責任ハ其總事項ニ及フモノナリ

同博士(國家學會雜誌第三〇卷第二號近時ニ於ケル憲法問題管見)ノ說

國務大臣カ輔弼ノ責任ハ其關與スル職務ヲ有スル國務又ハ關與シタル國務ニ就テ之ヲ負フモノナリ授爵ハ國務ナレトモ國務大臣カ關與ノ職務ヲ有セス又關與シタルモノニ非サレハ其實ニ任スルモノニ非ス

上杉博士(憲法綱領一〇二頁)ノ說

輔弼ノ範圍ハ定マラス特ニ之ヲ除外セサル限リ凡テ大權ノ行動ニ及フ

同博士(法學新報第二六卷第一號輔弼ノ責任ノ範圍)ノ說

國務大臣ノ輔弼責任ノ事項ノ範圍ハ必スヤ各省大臣奉行ノ事項ノ範圍ト合一セサルヘカラス固ヨリ各省大臣ハ各主管ノ事務アルモ國務大臣ニハ主管ノ事務アルコトナキカ故ニ國務各大臣ノ輔弼責任ノ事項ノ範圍ハ皆同一ニシテ凡テノ各省大臣ノ管掌ノ事務ヲ總括シタルモノナリ授爵ハ各省大臣ノ主管事務ニ在ラサルヲ以テ國務大臣ノ輔弼責任ノ範圍外ナリ

佐々木博士(大正五年一月刊大阪朝日新聞所載立憲非立憲)ノ說

國務大臣ノ輔弼ノ範圍ハ各國ノ制度ニ於テ如何様ニモ定ムルコトヲ得我國法ニ依レハ凡ソ天皇ノ行ハセラルル所ノ國務ニ付テハ凡テ國務大臣ノ輔弼アルヘキモノナリ然レトモ國法ニ依リテ非國務ナリト定メタルトキハ輔弼ノ範圍外ニ在リ國法カ授爵ヲ以テ非國務ト爲シタルカ故ニ國務大臣ノ輔弼外ナリトセル政府ノ解釋ヲ正當トス

清水博士(憲法篇二八八頁)ノ說

國務大臣ノ天皇ヲ輔弼ストハ天皇ノ大權作用ヲ行フニ方リ之ニ意見ヲ奉リ若クハ天皇ノ命ヲ奉シテ其大權作用ヲ執行スルコトヲ稱スルナリ

同博士(第一〇版憲法篇六四六頁)ノ說

輔弼トハ天皇大權ノ行使ニ付キ意見ヲ奉リ其採擇ヲ乞フノ意ナリ

市村博士(帝國憲法論六〇三頁)ノ説

輔弼トハ天皇ノ大權行使ヲシテ違法タラシメス又最モ善ク國家ノ目的ヲ達スヘキ施政ニ出テシムルヲ謂フ

國務大臣  
ト行政大臣

世ニ國務大臣ト行政大臣トヲ區別シテ別物ト爲シ獻策大臣ハ國務大臣ナルカ故ニ輔弼大臣タレトモ奉行大臣ハ行政大臣ニシテ國務大臣タラサルカ故ニ輔弼大臣タルモノニ非スト言フ者アリ其説ヲ眞ナリトセハ日本憲法第五十四條ニ國務大臣ハ何時タリトモ各議院ニ出席シ及發言スルコトヲ得ト規定セルニ依リ論者ノ論法ニ從ヘハ國務大臣ノ國會ニ出席シ及發言スルコトヲ以テ獻策ナリトセサルヘカラサルニ至ルヘシ國務大臣ノ國會ニ出席シ及發言スル所以ノモノハ國務大臣ノ輔弼ハ獻策ノミナラス奉行ヲ爲シ以テ統治者ヲシテ適當善良ノ統治ヲ爲サシムルニ在リテ國務大臣ト行政大臣トハ異名同物ナルコトヲ知ルニ足レリ若シ獻策大臣ハ國務大臣ニシテ奉行大臣ハ行政大臣ナルカ故ニ國務大臣ニ非ストセハ國務大臣ハ國會ニ出席シ發言スルコトヲ得サルト同時ニ憲法ハ行政大臣ノ國會ニ出席シ及發言スルコト

ヲ規定セサルカ故ニ行政大臣ハ國會ニ出席シ及發言スルコトヲ得サルニ至ルナリ日本ノ内閣官制第一條ニ内閣ハ國務各大臣ヲ以テ組織スト規定セルカ故ニ内閣ハ國務大臣ヨリ成ルモノナルコトヲ知ルヘシ其第十條ニ各省大臣ノ外特旨ニ依リ國務大臣トシテ内閣員ニ列セシメラルルコトアルヘシト規定セルニ依リ各省大臣即チ行政大臣ナルモノハ其第一條ニ依リテ國務大臣ナルコト明カナリ若シ行政大臣カ國務大臣ニ非ストセハ國務大臣ノ内閣員ニ列スルハ例外ノコトタラサルヘカラサルニ至ルヘシ内閣ハ國務大臣ヲ以テ組織スルモノナルカ故ニ國務大臣ノ外ニ行政大臣ナル特別大臣ノ存在スルモノニ非サルコト明カナリ其故ニ行政大臣ハ國務大臣ナルヲ以テ内閣員タルモノナリ若シ又行政大臣カ國務大臣ニ非ストセハ日本ノ大臣任命ノ實狀ニ於テハ行政大臣ヲ存スルモ國務大臣ヲ存セス輔弼大臣ヲ缺クモノト謂ハサルヘカラサルニ至ルヘシ

穂積八東博士(憲法提要五五六頁)ノ説

各省大臣及ヒ總理大臣ノ別ハ行政大臣ノ分掌ニシテ憲法上ノ國務大臣ノ權能トハ相關